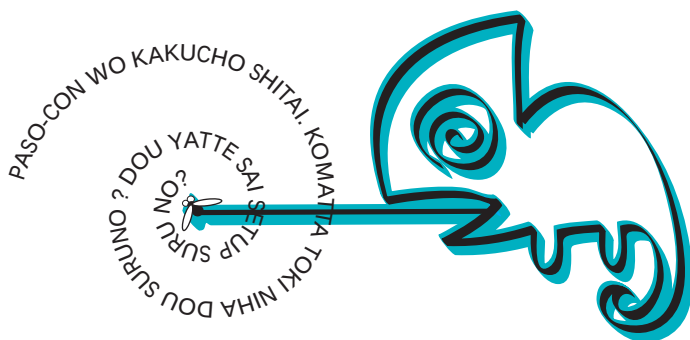




VALUESTAR

活用ガイド

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

本機を安全に使うための情報、添付品の確認、本機の接続、Windows Meのセットアップ、お客様登録、本機にインストール/添付されているアプリケーションのご利用にあたってのご注意、インターネットへの接続方法
→『はじめにお読みください』

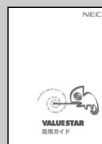


Windows Meの基礎知識、基本的な操作方法
→『Microsoft Windows Meクイックスタートガイド』
またはWindows Meの「ヘルプとサポート」



このマニュアルです

本機の各部の名称・機能、増設方法、トラブル解決方法、再セットアップ
→『活用ガイド』



ディスプレイのマニュアル

→使用方法が記載されたマニュアルが、ディスプレイに添付されています。

パソコンライフをサポートするNECのパソコン関連総合サイト「121ware.com(<http://121ware.com>)」のご紹介とNECのパソコンに関する相談窓口や受講施設、故障時等のお問い合わせ先
→『121wareガイドブック』



この他にも、本機には「サポートセンタ」というパソコンの画面で見るマニュアル(電子マニュアル)が登録されています。
「サポートセンタ」の起動方法については、『はじめにお読みください』の「7 マニュアルの利用方法」をご覧ください。



はじめに

本書では、パソコンの基本的な機能の説明や別売の周辺機器の接続のしかたなどを説明しています。

また、パソコンを使っていて「おかしいな?!」と感じたときに問題を解決するための情報も記載しています。

本機を正しくお使いいただくために、本書をご活用ください。

本機を利用するために必要な準備作業や、添付品の中身については『はじめにお読みください』を、Windows の基礎知識や操作方法については、『Microsoft Windows Me クイックスタートガイド』やWindowsの「ヘルプとサポート」などをご覧ください。

2001年 5月 初版

このマニュアルの表記について

● このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意の他に、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。



電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

メモ

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

● このマニュアルで使用している表記の意味

本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、本機を指します。
「スタート」ボタン→ 「設定」→ 「コントロールパネル」	「スタート」ボタンをクリックし、表示されたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。
「サポートセンタ」	「スタート」ボタン→「ヘルプ」→「サポートセンタ」を開き、各項目を参照することを示します。「サポートセンタ」は、Windows の「ヘルプとサポート」のナビバーにある「NEC電子マニュアル」をクリックして起動することもできます。
【 】	【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。
『 』	『 』で囲んである文字はマニュアルの名称を指します。
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを搭載しているモデルのことです。
DVD-ROMモデル	DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
Office XPモデル	Microsoft® Office XP Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。
CD-R/RWドライブ	CD-ROMモデルでは、CD-ROMドライブのことを指します。 CD-R/RWモデルでは、CD-R/RWドライブのことを指します。 DVD-ROMモデルでは、DVD-ROMドライブのことを指します。 CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのことを指します。

- このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、 Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000、 Windows 2000 Personal	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Office XP Personal	Microsoft® Office XP Personal (Microsoft Word、 Microsoft Excel、 Microsoft Outlook®、 Microsoft Bookshelf® Basic 3.0)
Microsoft IME 2002	Microsoft® IME 2002
MS-IME2000	Microsoft® IME 2000
VirusScan	VirusScan Ver.5.13a

- このマニュアルで使用しているイラストと画面

このマニュアルに記載のイラストおよび画面は、実際のものとは異なることがあります。

■ 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次の通りです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名:SF-DJPC-ST

認証番号

電話回線:A99-0794JP

導入にあたっては、「MDMNDJP.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

■ 高調波電流規制について

この装置の本体は、高調波ガイドライン適合品です。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

■ レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブまたはDVD-ROMドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブが搭載されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows Meおよび本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご利用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、Bookshelf、WindowsのロゴおよびOffice ロゴ(パズルデザイン)は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。AMD、AMDロゴ、AMD Duron、3DNow!、ならびにその組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

Adobe、AcrobatおよびAcrobatロゴはAdobe System Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

nVIDIAおよびVantaは、nVIDIA社の登録商標です。

VirusScanは、米国法人Network Associates, Inc. またはその関係会社の本国またはその他の国における登録商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Corporationの登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとCONEXANT SYSTEMSの商標です。

Sound BlasterはCreative Technology Ltd. の登録商標です。

BIGLOBEは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていない。

本製品の輸出(個人による携帯を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

このマニュアルの構成

このマニュアルは次のような内容で構成されています。

PART1 ハードウェアの活用術

本体各部の名称とその役割やマウス、キーボード、CD-R/RWドライブの使い方など、本機のハードウェア全般の機能について説明しています。

PART2 周辺機器を利用する

周辺機器を取り付ける際の注意点、周辺機器の概要とUSB 対応機器やIEEE1394 対応機器、PC カード、メモリ、PCI ボードなどの別売の周辺機器を取り付ける方法について説明しています。

PART3 トラブル解決 Q&A

パソコンを使っていて、何かトラブルが起きたとき、何か疑問があるときはここを読んでください。

PART4 本機の設定を変更する

ここでは、BIOSセッティングメニューで変更した設定を購入時の状態に戻す方法と設定したパスワードの解除方法について説明しています。

BIOSセッティングメニューによる、その他の各種設定方法については、サポートセンタをご覧ください。

PART5 再セットアップするには

本機に添付されている「システムインストールディスク」や「バックアップ CD-ROM」を使って、本機のシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元する方法を説明しています。

PART6 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載しております。

はじめに	i
このマニュアルの表記について	ii
このマニュアルの構成	viii
ハードウェアの活用術	1
本体各部の名称と役割	2
本体前面	2
本体背面	5
本体底面	7
電源の入れ方/切り方	8
マウス	11
マウスの基本操作	11
スクロールボタンの使い方	11
キーボード	12
キーの役割	12
キーの名称	12
アプリケーションキーとWindowsキーについて	14
Fnキーについて	15
ワンタッチスタートボタンについて	16
日本語入力	18
PC-9800シリーズのキーボードとのキーの違い	21
使用上の注意	21
ディスプレイ	22
解像度と表示色について	22
解像度と表示色の変更	23
別売のディスプレイを使う	24
使用上の注意	24
ハードディスク	25
ドライブ文字の割り当て	25
取り扱い上の注意	26
フロッピーディスク	28
使用できるフロッピーディスクについて	28
使用上の注意	28

フロッピーディスクの入れ方と出し方	29
フロッピーディスクの内容の保護	30
CD-R/RWドライブ	31
再生できるCDの種類	31
CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット	32
CD-ROMの取り扱い上の注意	33
CD-ROMの入れ方と出し方	33
非常時のディスクの取り出し方	37
省電力機能	38
概要	38
省電力機能を使う	40
省電力の設定を変える	44
サウンド機能	45
PCM録音/再生機能	45
スピーカ	45
音量や入力レベルを調整する	47
サウンド全般についての注意	47
周辺機器を利用する	49
取り付けられる周辺機器	50
本体前面に取り付けられる周辺機器	50
本体背面に取り付けられる周辺機器	50
本体内部に取り付けられる周辺機器	51
周辺機器を取り付けるときのポイント	52
接続から準備完了までの流れ	54
ドライバなどをインストールする	55
周辺機器の取り外しと再接続	56
機器を取り付けるときのご注意	58
本体の開け方と閉め方	59
ルーフカバーの取り外し	59
ルーフカバーの取り付け	61
USB対応機器を使う	63
USBコネクタについて	63

USB対応機器を接続する	63
USB対応機器を使用するときの注意	64
IEEE1394対応機器を使う	65
IEEE1394対応機器を接続する	65
IEEE1394対応機器を使用するときの注意	67
PCカードを使う	68
PCカードについて	68
取り付け前の確認	69
PCカードの取り付け	69
PCカードの取り外し	71
PCカードを使用するときの注意	73
メモリを増やす	74
メモリを増やすには	74
増設RAMサブボードの取り外し	75
増設RAMサブボードの取り付け	76
メモリ容量の確認方法	78
PCIボードを使う	79
取り付け前の確認	79
PCIボードの取り付け	80
PCIボードの取り外し	82
SCSIインターフェイス対応機器を使う	83
SCSIインターフェイスについて	83
用意するもの	85
SCSIインターフェイスボードを取り付ける	85
SCSI機器を接続する	86
ハードディスクを増設する	87
用意するもの	87
本体にハードディスクを接続する	88
困ったときのチェックポイント	90

PART

3

トラブル解決 Q&A 93

トラブル解決4つのポイント	94
トラブル予防のポイント	95
お問い合わせの前に(トラブルチェックシート).....	99
パソコンがこわれそう	101
はじめて電源を入れたら	103
電源を入れたが	104
電源を切ろうとしたが	113
画面がおかしい	115
マウスを動かしても	116
キーボードを使っていたら	117
アプリケーションを使っていたら	118
周辺機器を取り付けようとしたら	121
省電力機能を使おうとしたら	126
その他	129
アフターケアについて	133

PART

4

本機の設定を変更する 137

購入時の状態に戻す	138
購入時の状態に戻す方法	138
パスワードの解除	139
パスワードを忘れた場合の手順	139

PART

5

再セットアップするには 141

再セットアップについて	142
再セットアップが必要になるとき	142
再セットアップに関する注意	143
再セットアップの準備	144
再セットアップの方法	146
購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード	147
標準再セットアップの手順	147
データを保護して再セットアップする - データ保護再セットアップモード	157

データ保護再セットアップを行う際の注意	157
データ保護再セットアップの手順	157
全領域を1パーティションにして再セットアップする	
- カスタムモード	161
「全領域を1パーティションにして再セットアップする」の手順	161
Cドライブのみ再セットアップする - カスタムモード	164
「Cドライブのみを再セットアップする」の手順	164
ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする	
- カスタムモード	167
ユーザ設定の手順	167
再セットアップ前に知っておきたいこと	168
付 録	187
本機のお手入れ	188
マウスのクリーニング	189
仕様一覧	191
本機が使用しているリソース	196
割り込みレベル(IRQ)とDMAチャネル	196
索引	197

1

ハードウェアの活用術

ここでは、本体各部の名称とその役割や、マウス、キーボード、CD-R/RWドライブの使い方など、本機のハードウェア全般の機能について説明します。

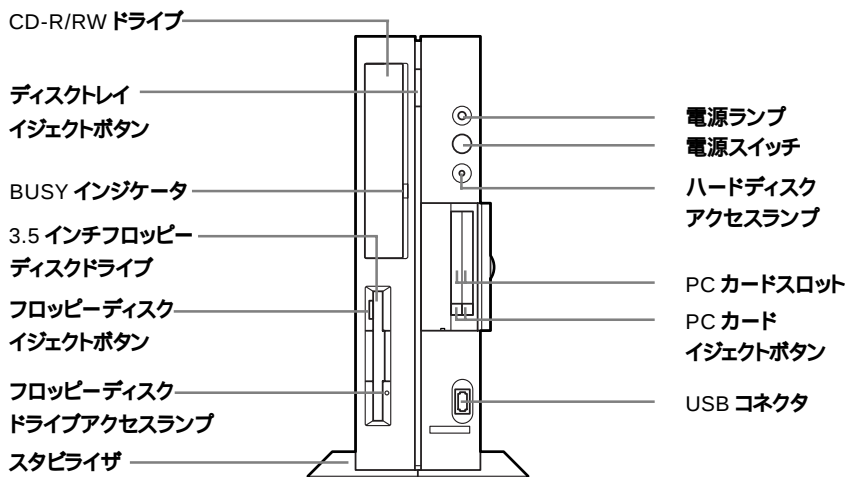
この章の内容

本体各部の名称と役割	2
電源の入れ方/切り方	8
マウス	11
キーボード	12
ディスプレイ	22
ハードディスク	25
フロッピーディスク	28
CD-R/RWドライブ	31
省電力機能	38
サウンド機能	45

本体各部の名称と役割

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。
各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体前面



電源ランプ (①)

電源の状態を表示するランプです。電源が入ると緑色に点灯します。スタンバイ状態のときはオレンジ色に点灯します。休止状態または電源が切れている状態のときは、消灯します。

電源スイッチ (②)

本体の電源を入れたり、休止状態から復帰させるスイッチです。



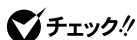
チェック!!

- 電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源が切れます。このPARTの電源の入れ方/切り方 (P.8) をご覧になり、正しい方法で操作してください。
- 電源を入れたり、スタンバイ状態または休止状態にする操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔を空けてください。

ハードディスクアクセスランプ()

ハードディスクが動作しているときに点灯します。

→「ハードディスク」(P.25)



チェック!

点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

PCカードスロット

PCカードを取り付けるスロット。2スロットあります。PCカードには、メモリカードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器を接続するためのSCSIカードなどいろいろな種類があります。

→「PCカードを使う」(P.68)

PCカードイジェクトボタン

PCカードをPCカードスロットから取り出すときに使うボタン。

USBコネクタ()

USB対応機器を接続するためのコネクタ。USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使えるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

→「USB対応機器を使う」(P.63)

CD-R/RWドライブ

CD-ROMや音楽CDを入れるところ。また、CD-R、CD-RWメディアにデータを記録するところ。

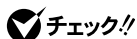
→「CD-R/RWドライブ」(P.31)

ディスクトレイイジェクトボタン

ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

BUSYインジケータ

CD-R/RWドライブからデータを読み出しているときに点灯します。



チェック!

点灯中は電源を切ったり、CD-ROMなどを取り出したりしないでください。故障の原因となります。

3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5インチサイズのフロッピーディスクを入れるところ。

→「フロッピーディスク」(P.28)

フロッピーディスクイジェクトボタン
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すときに使うボタン。

フロッピーディスクドライブアクセスランプ
フロッピーディスクドライブが読み書きしているときに点灯するランプ。

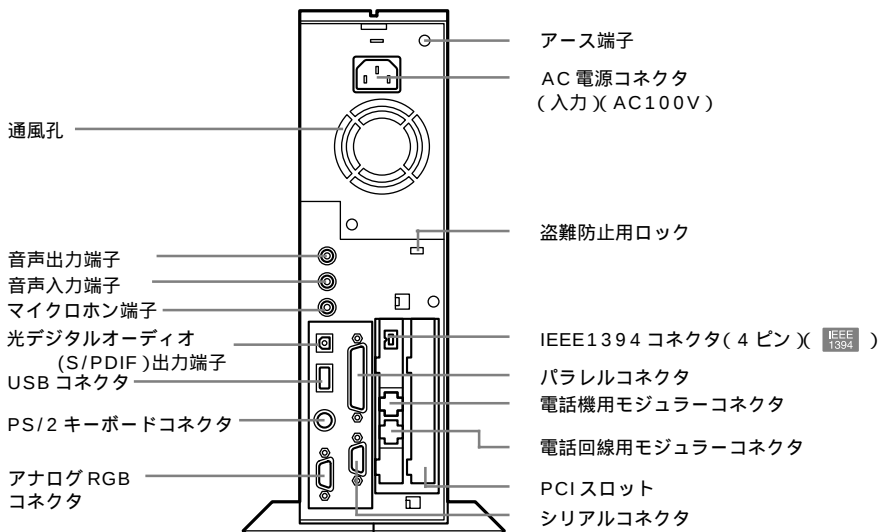
-  **チェック!!** ランプの点灯中は電源スイッチを押したり、フロッピーディスクイジェクトボタンを押したりしないでください。フロッピーディスクドライブやフロッピーディスクがこわれることがあります。

スタビライザ
本体を安定して設置するための脚。

-  **チェック!!** スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。また、本体を横置きにする場合は、ネジとスタビライザをなくさないように保管してください。

本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



アース端子()

アース線を接続するための端子。

AC電源コネクタ(入力) (AC100V)

ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。

本体添付の電源ケーブルは、ACコンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

盗難防止用ロック()

市販の盗難防止用ケーブルを接続できます。

盗難防止用ロックを使用することで、ルーフカバーがロックされるため、本体内部のハードディスクやRAMサブボードなどの盗難を予防できます。



チェック!!

盗難防止用ロックは、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。製品についての連絡先は、以下の通りです(2001年4月現在)。

日本ボラデジタル株式会社 第3営業部

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番2号はごろもビル5F

Tel : 03-3537-1070

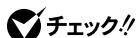
Fax : 03-3537-1071

IEEE1394コネクタ(4ピン) 

IEEE1394対応機器(4ピン)を接続するためのコネクタ。

パラレルコネクタ()

プリンタなどを接続するためのコネクタ。



チェック!

PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。PK-CA101は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)と同時に取り付けることはできません。

電話機用モジュラーコネクタ()

電話機を接続するためのコネクタ。

電話回線用モジュラーコネクタ()

電話回線を接続するためのコネクタ。

PCIスロット

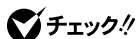
本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、挿入するためのスロット。高速なデータ転送ができるPCIバスに対応。

→「PCIボードを使う」(P.79)

シリアルコネクタ()

周辺機器を接続するためのコネクタ。

モデムやISDNターミナルアダプタ、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。



チェック!

- ・PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。PK-CA102は別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)と同時に取り付けることはできません。
- ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔です。壁などでふさがないように注意してください。

音声出力端子(ステレオ) 

添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力するためのミニジャック端子。

音声入力端子(ステレオ) 

市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)を本体に入力するためのミニジャック端子。

マイクロホン端子(モノラル) 
マイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子 
MDデッキやAVアンプなどデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続する端子。ただし、プラグ形状によっては使用できないものがありますので、ケーブルは、よくお確かめの上、ご購入ください。

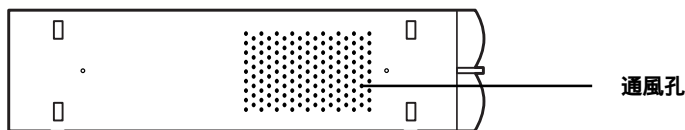
USBコネクタ 
USB対応機器を接続するためのコネクタ。
USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。
→「USB対応機器を使う」(P.63)

PS/2キーボードコネクタ 
PS/2コネクタに対応したキーボードを接続するためのコネクタ。

✓チェック!! PS/2キーボードを抜き差しするときは、本体の電源を切った状態で行ってください。

アナログRGBコネクタ 
アナログRGB対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

本体底面



通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。
底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがない状態になります。

✓チェック!! パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

電源の入れ方/切り方

ここでは、パソコン本体の電源の入れ方と切り方について説明します。周辺機器を取り付けているときは、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れる必要があります。

電源を入れる

1 フロッピーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する

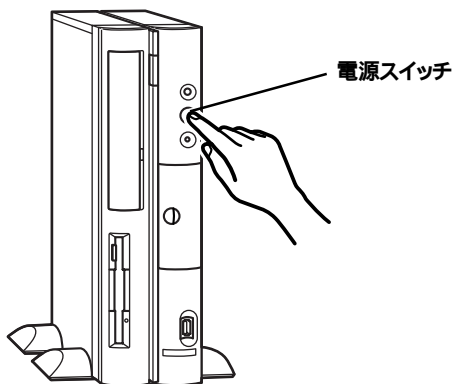
2 スピーカやディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる



チェック!

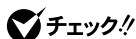
周辺機器によっては、本体より先に電源を入れないと正しく認識されないことがあります。

3 本体の電源スイッチを押す
パソコン本体の電源ランプが緑色に点灯します。



電源を切る

電源は、「Windowsの終了」ウィンドウを使って切ります。



チェック!!

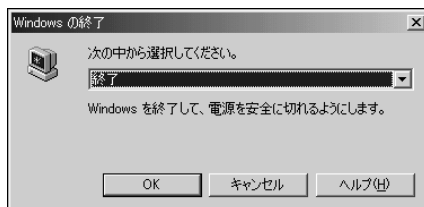
- ・電源を切る前にデータを保存し、アプリケーションを終了しておいてください。
- ・マウスポインタが砂時計表示されていないこと、ハードディスクアクセスランプやフロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。
- ・電源を切るときは、電源スイッチを押さずに、ここで説明する手順で操作することをおすすめします。電源スイッチを押して終了することもできますが、その際は4秒以上押し続けられないでください。4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、パソコンに負担がかかります。

1 作業中のデータを保存してアプリケーションをすべて終了する

2 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック



3 [スタート] ボタンをクリックし、「終了」を選択する



4 「OK」をクリック

本体の電源は自動的に切れます。本体の電源ランプが消えます。

5 本体の電源が切れたことを確認したら、スピーカやディスプレイなど、周辺機器の電源を切る



アプリケーションに異常が起きている場合など、Windowsの操作ができなくなってしまった場合は、まず【Ctrl】と【Alt】を押したまま【Delete】を押して、表示される「プログラムの強制終了」ウィンドウで、アプリケーションの強制終了ができるかどうかを試してください。

この方法でアプリケーションを強制終了できない場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けることによって、強制的に電源を切ることができます。

なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindowsを起動し、「Windowsの終了」ウィンドウから電源を切ってください。

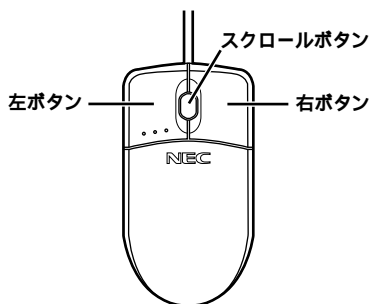
電源を入れ直したときに、スキャンディスクの画面が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

マウス

ここでは、マウスの使用方法について説明します。マウスの設定については、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の「マウス」で行ってください。

参照 Windowsの「ヘルプとサポート」、マウスのプロパティのヘルプ

マウスの基本操作



クリック	マウスの左ボタンを1回押す
右クリック	マウスの右ボタンを1回押す
ダブルクリック	マウスの左ボタンを続けて2回押す
ドラッグ	マウスの左ボタンを押したままマウスを動か かし、適当な位置まできたら、ボタンから 指を離す

スクロールボタンの使い方

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールできます。また、画面を拡大、縮小することもできます。

上下方向にスクロールする	スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く
上下、左右方向にスクロールする	スクロールボタンを真下に押す。マウスポインタの形状が $\leftarrow$ や $\rightarrow$ に変わったら、スクロールしたい方向にマウスを動かす。スクロールボタンをもう一度押すと、マウスポインタの形状が元に戻る
画面を拡大、縮小する	大きさを変えたい画面にマウスポインタを移動し、キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く



チェック!

- ・スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。
- ・動きが悪くなってきたら、ボールとローラーの汚れを掃除してください。

参照

マウスのクリーニング→PART6 付録の「パソコンのお手入れ」の「マウスのクリーニング」(P.189)

キーボード

ここでは、各キーの名称と役割、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。キーボードの設定については、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の「キーボード」で行ってください。

参照 Windowsの「ヘルプとサポート」、キーボードのプロパティのヘルプ

キーの役割

一般的なキーの役割です。

キーボードのキーは、一般的に次のように2種類に分けられます。

- 文字を入力するキー

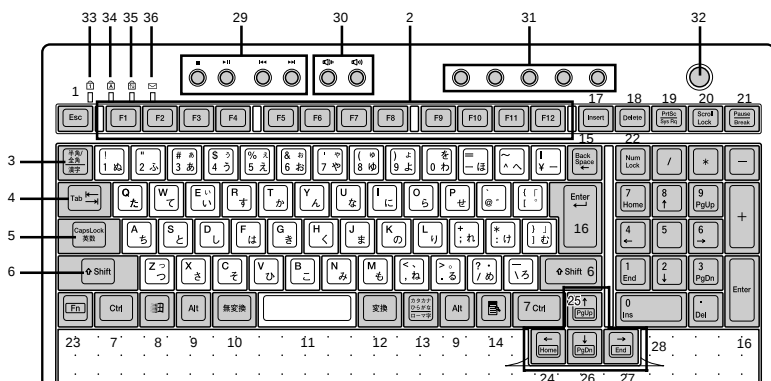
英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。下の図で白くなっている部分のキーです。

- コンピュータに指示を与えるためのキー

コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。下の図でグレーの色が付いている部分のキーです。このキーの働きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、アプリケーションの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。



● キーボード正面

- 1 【Esc】: エスケープキー
- 2 【F1】~【F12】: ファンクションキー
- 3 【半角/全角/漢字】: 半角/全角/漢字キー
- 4 【Tab】: タブキー
- 5 【CapsLock】: キャップスロックキー
- 6 【Shift】: シフトキー
- 7 【Ctrl】: コントロールキー
- 8 【】: Windowsキー
- 9 【Alt】: オルトキー
- 10 【無変換】: 無変換キー
- 11 スペースキー
- 12 【変換】: 変換キー
- 13 【カタカナ/ひらがな/ローマ字】: カタカナ/ひらがな/ローマ字キー
- 14 【】: アプリケーションキー
- 15 【BackSpace】: バックスペースキー
- 16 【Enter】: エンターキー
- 17 【Insert】: インサートキー
- 18 【Delete】: デリートキー
- 19 【PrtSc/SysRq】: プリントスクリーンキー/システムリクエストキー
- 20 【ScrollLock】: スクロールロックキー
- 21 【Pause/Break】: ポーズ/ブレイクキー
- 22 【NumLock】: ニューメリックロックキー
- 23 【Fn】: Fnキー
- 24 【Home/←】: ホームキー/カーソルキー
- 25 【PgUp/↑】: ページアップキー/カーソルキー
- 26 【PgDn/↓】: ページダウンキー/カーソルキー
- 27 【End/→】: エンドキー/カーソルキー
- 28 【↑】【↓】【←】【→】: カーソルキー
- 29 CD/DVD プレーヤボタン
- 30 ボリュームボタン
- 31 ワンタッチスタートボタン
- 32 【スリープ】ボタン
- 33 ニューメリックロックキーランプ
- 34 キャップスロックキーランプ
- 35 スクロールロックキーランプ
- 36 メール着信ランプ

● キーボード裏面

PS/2マウスコネクタ()

添付のPS/2対応マウスを接続するコネクタ。



チェック!! PS/2マウスを抜き差しするときは、本体の電源を切った状態で行ってください。

● キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。

ロック状態は【NumLock】ではキーを押すたびに、【CapsLock】は【Shift】を押したままキーを押すと切り替わります。

それぞれのキーがロックされているときにはキーボード左上のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキーを押すと大文字が入力できます	アルファベットが表示されているキーを押すと小文字が入力されます

アプリケーションキーとWindowsキーについて

アプリケーションキーとWindowsキーは、Windows Meで利用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

アプリケーションキー()

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

Windowsキー()

Windowsキーだけを押すと、「スタート」メニューを表示します。
Windowsキーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。

- 【  】+【 R 】 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する
- 【  】+【 M 】 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
- 【 Shift 】+【  】+【 M 】 【  】+【 M 】でアイコン化したウィンドウを元に戻す
- 【  】+【 F1 】 Windowsのヘルプを起動する
- 【  】+【 F 】 ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
- 【 Ctrl 】+【  】+【 F 】 コンピュータを検索するウィンドウを表示する
- 【  】+【 Tab 】 タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

Fnキーについて

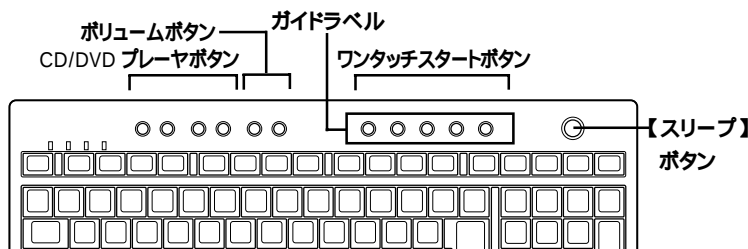
Fnキーを押しながら次のキーを押すと、キーの役割を変えることができます。

- 【 Fn 】+【 ← 】 【 Home 】を押したときと同じです。
- 【 Fn 】+【 → 】 【 End 】を押したときと同じです。
- 【 Fn 】+【 ↑ 】 【 PgUp 】を押したときと同じです。
- 【 Fn 】+【 ↓ 】 【 PgDn 】を押したときと同じです。

✓ **チェック!** キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」画面または、「テキストサービス画面(Office XPモデルの場合)」で設定できます。

ワンタッチスタートボタンについて

ボタンを押すだけでアプリケーションを起動することができるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「ワンタッチスタートボタン」はキーボードの上部に並んでいます。また、「ワンタッチスタートボタン」の左側には「CD/DVDプレーヤボタン」、「ボリュームボタン」、右側には【スリープ】ボタンがあります。



CD/DVD プレーヤボタン

音楽CDやフォトCD、カラオケCD、ビデオCDなどの再生をコントロールできます。DVD-ROMモデル、CD-R/RW with DVD-ROMモデルの場合は、DVD-Videoディスクなどの再生もコントロールできます。各ボタンの役割は以下のとおりです。

- 【■】：停止
- 【▶▶】：再生/一時停止
- 【◀◀】：前のトラック/巻き戻し
- 【▶▶】：次のトラック/早送り



チェック!! 本機にインストールされている「Jet-Audio Player」は削除しないでください。CD/DVD プレーヤボタンの一部の機能が利用できなくなります。

ボリュームボタン

パソコンから出る音楽CDやビデオCDなどの音の大きさを調節できます。各ボタンの役割は以下のとおりです。

- 【◀】：ボリュームダウン
- 【▶】：ボリュームアップ

ワンタッチスタートボタン

【メール】ボタン

このボタンを押すとインターネットに接続できる環境ができていると「Outlook Express」が起動します。

【インターネット】ボタン

このボタンを押すとインターネットに接続できる環境ができているとインターネットエクスプローラが起動します。

【サポート】ボタン

このボタンを押すと、「サポートセンタ」が起動します。

【121ware】ボタン

このボタンを押すと、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」を見ることができます。

【ユーザ】ボタン

購入時には何も登録されていません。好きなアプリケーションを登録できます。

ワンタッチスタートボタンの設定は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で変更することができます。「スタートボタン」→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」で起動します。

参照

ワンタッチスタートボタンの設定方法→「ワンタッチスタートボタンの設定」のヘルプ



「ワンタッチスタートボタンの設定」画面の「ヘルプ」ボタンをクリックするとヘルプが表示されます。

ガイドラベル

ワンタッチスタートボタンにどんなアプリケーションが割り当てられているかを示すラベルです。使い方は、「ワンタッチスタートボタンの設定」ユーティリティのヘルプをご覧ください。

【スリープ】ボタン

パソコン本体をスタンバイ状態にします。

- ✓ **チェック!** Windows Meのセーフモードなど、Windows Meのキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、ワンタッチスタートボタン、【スリープ】ボタンの機能は使えません。

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機で購入時に標準で使用できる日本語入力プログラムは、MS-IME2000(Office XPモデルの場合はMicrosoft IME 2002)です。

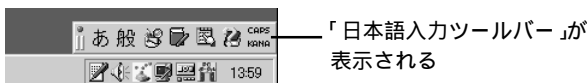
- ✓ **チェック!** スタートメニューに「VALUESTARを使う準備をします」があると、このパソコンで日本語入力ができる準備が整っていないので、日本語入力できません。その場合は「スタート」ボタン→「VALUESTARを使う準備をします」をクリックしてください。

日本語入力のオン / オフ

日本語を入力するには、日本語入力をオンにします。日本語入力がオフのときには、日本語は入力できません。

■ MS-IME 2000の場合

日本語入力がオンのときは、画面右下に次のような表示が出ています。



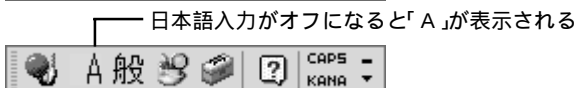
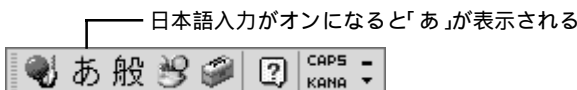
が表示される

(日本語入力がオフになるとになり、「日本語入力ツールバー」が消える)

【半角 / 全角】を押すと、日本語入力のオン / オフが切り替わる

■ Microsoft IME 2002の場合(Office XPモデルの場合)

日本語入力のオン / オフは、画面右下の次の表示で見分けます。



【半角 / 全角】を押すと、日本語入力のオン / オフが切り替わる

ローマ字入力とかな入力

日本語の入力方法には、「ローマ字入力」と「かな入力」があります。入力しやすい方を選択できます。選択は、日本語入力ツールバーで行います。

キー表面のアルファベットを組み合わせて日本語を入力するときは、「ローマ字入力」にする



キー表面のひらがなを使って日本語を入力するときは、「かな入力」にする

ご購入時は「ローマ字入力」になっています。

日本語入力の基本

1 文字を入力する

入力した文字がひらがなで表示されます。

2 【スペース】を押す

入力した文字が漢字に変換されます。変換の結果が正しくない場合は、正しく変換されるまで【スペース】を繰り返し押します。

3 【Enter】を押す

変換結果が確定されます。

キー表面の上段の文字を入力するときは、【Shift】を押しながらそのキーを押します。

• 日本語入力がおンのとき

入力したい文字	ローマ字入力	かな入力
、(読点)	を押す	【Shift】を押したまま を押す
。(句点)	を押す	【Shift】を押したまま を押す
ー(長音、音引き)	を押す	を押す
づ(促音)	母音のあとに子音を 2回続けて押す 【例】おっぱ 	【Shift】を押したまま を押す

● 日本語入力がオフのとき

(チルダ)	【Shift】を押したまま  を押す
(アンダーバー)	【Shift】を押したまま  を押す
@(アットマーク)	 を押す

メモ

日本語入力のしかたについて詳しくは、MS-IME2000またはMicrosoft-IME2002のヘルプをご覧ください。

ヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

・MS-IME2000



ヘルプを見るにはここをクリック

・Microsoft IME 2002(Office XPモデル)



ヘルプを見るにはここをクリック

PC-9800シリーズのキーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードと本機のキーボードとのキーの違いは以下のとおりです。

PC-9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備 考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【ESC】	【Esc】	
【f・1】-【f・10】	【F1】-【F10】	
【vf・1】-【vf・2】	【F11】-【F12】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrtSc】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】または 【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

使用上の注意

Nキーロールオーバー

Nキーロールオーバーとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、本機のキーボードは疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。



ディスプレイ

ディスプレイの解像度と表示色は、お使いの用途に応じて切り替えて使用できます。

解像度と表示色について

解像度

ディスプレイでは文字やグラフィックを、小さな点(ドット)の集まりで画面に表示しています。ディスプレイの解像度とは、ディスプレイの画面上での文字やグラフィックを表現するときの、緻密さの度合いのことです。一度に表示できるドット数を増やすことを「高解像度にする」と表現します。ただし、解像度が高くなるにつれて、画面に表示される文字は小さくなっていきます。画面の文字が見にくくなるときは、解像度を下げるようにしてください。

表示色

ディスプレイの個々のドットを、何種類の色で表現できるかを示す尺度を表示色といいます。本機では通常、次の表示色が表示できます。

- 16,777,216色(1,677万色)
- 65,536色(6万5千色)
- 256色
- 16色

また、6万5千色で表示することを、「High Color(ハイカラー表示)」、1,677万色で表示することを「True Color(トゥルーカラー表示)あるいは「Full Color(フルカラー表示)」と呼ぶこともあります。

本機では、解像度と表示色は、以下の水平走査周波数・垂直走査周波数で表示可能となります。

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]
640×480	16色 ¹	43.3	85.0
	256色	37.5	75.0
	65,536色	31.5	60.0
	1,677万色		
800×600	256色	53.7	85.0
	65,536色	46.9	75.0
	1,677万色	37.9	60.0
1,024×768	256色	68.7	85.0
	65,536色	60.0	75.0
	1,677万色	48.4	60.0
1,280×1,024	256色 65,536色 1,677万色 ²	64.0	60.0

1 16色表示のときは、解像度640×480、水平走査周波数31.3KHz、垂直走査周波数59.6Hz固定となります。

2 セットの15型CRTディスプレイでは表示できません。

画面の調整が必要な場合は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

解像度と表示色の変更

解像度や表示色の変更は、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックしてコントロールパネルを開き、「画面」をダブルクリックして表示される「画面のプロパティ」で行います。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

別売のディスプレイを使う

本機には別売のディスプレイも接続できます。別売のディスプレイを使用する場合は、以下のことに注意してください。

- ・ Windows Meを使用する場合は、640×480ドット以上の解像度に対応したディスプレイを使用してください。
- ・ 別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイに合わせて本体の設定を変更する必要があります。正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。
- ・ 別売のディスプレイを使用する場合は、解像度、走査周波数の条件を満たしていることを確認してください。「解像度と表示色について」(P.22)を参考に、適合するディスプレイを使用してください。
- ・ ディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。
- ・ 次の別売のディスプレイは使用できません。

PC-KM212

PC-KM174

使用上の注意

- ・ リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値は、セットアップが完了したときに、本体とモニタの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定は機種によっては「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。
- ・ マルチモニタ機能を利用する場合、本体内蔵のアクセラレータは、Primary固定となります。
- ・ 本体内蔵のアクセラレータ機能を利用せず、別売のアクセラレータボードを利用する場合は、PART2の「PCIボードを使う」(P.79)をご覧ください。



ハードディスク

ハードディスクは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。コンピュータの使用中にハードディスクで障害が発生することもあります。軽い障害であればスキャンディスクを使って修復することができます。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

ドライブ文字の割り当て

ハードディスクやフロッピーディスクドライブなどには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ文字」といいます。

本機のハードディスクは、購入時には第1パーティション(ドライブ文字:Cドライブ)として約37Gバイトの領域が確保されており、残りのすべてが第2パーティション(ドライブ文字:Dドライブ)として確保されています。

購入時に割り当てられているドライブ文字は次の通りです。

ドライブ文字	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ(第1パーティション) 約37Gバイト(総容量約40Gバイトの場合)
Dドライブ	ハードディスクドライブ(第2パーティション) 残り容量のすべて
Eドライブ	CD-R/RWドライブ

取り扱い上の注意

振動や衝撃を加えない

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

- ・ 電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・ 電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- ・ 電源を切るときは、「電源の入れ方/切り方 (P.8) の手順に従ってください。

使用場所に注意する

- ・ 温度、湿度条件を守ってください。
温度10 ～ 35 、湿度20% ～ 80%
(ただし、結露しないこと)
- ・ ゴミやホコリの多い場所での使用・保管は避けてください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまう、復帰できない可能性があります。受信したメールなど、二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては、自動的に保存場所が決められている場合があります。バックアップをとる場合は、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。本機では、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windows Meの「スキャンディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。

また、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数 が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク容量	正常値
約40Gバイト	40,000,000,000バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

- ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト＝1,000,000バイト、1Gバイト＝1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト＝1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト＝1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、1Mバイト＝1,000,000バイト、1Gバイト＝1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値よりも少ない値で表示されます。
- 本機で使用できる内蔵ハードディスクのセクタ長は、512バイトです。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体からカリカリ、ゴリゴリといった小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

フロッピーディスク

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存できます。

使用できるフロッピーディスクについて

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き ¹	フォーマット
2DD	640Kバイト	×	×
	720Kバイト		
2HD	1.2Mバイト	²	×
	1.44Mバイト		

1 WindowsまたはMS-DOSでフォーマットされたものが使用できます。

フォーマット方法については、「サポートセンタ」の「困ったときのQ&A」の「トラブル解決Q&A」の「フロッピーディスク」の「フロッピーディスクをフォーマットしたい」をご覧ください。

2 3モードFDドライバのインストールが必要です。1.2Mバイトのフロッピーディスクの取り扱いについて詳しくは、アプリケーションCD-ROMの中の次のファイルに書かれている説明をご覧ください。

[CD-ROMドライブ]¥winme¥3modefd¥readme.txt



チェック!!

1.2Mバイトのフロッピーディスクは、Windows Meの「ディスクのコピー」ではバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。

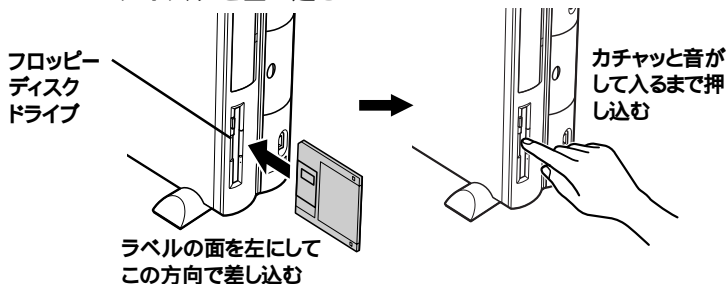
使用上の注意

- ・ フロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。
- ・ フロッピーディスクは、利用するときにだけフロッピーディスクドライブに入れてください。フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れたままで使用すると、ほこりによって読み書きエラーの原因になります。
- ・ 同じフロッピーディスクを連続して使用しないでください。連続使用により、フロッピーディスクに劣化が生じ、読み書きエラーの原因になります。

フロッピーディスクの入れ方と出し方

フロッピーディスクを入れる方法

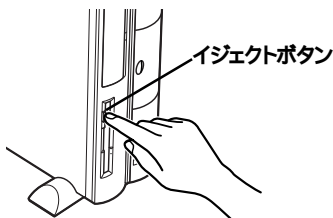
- 1 フロッピーディスクドライブに、ラベルの面を左にしてフロッピーディスクを差し込む



- ✓ **チェック!!** フロッピーディスクは、パソコンの電源を入れてWindowsが起動したあとでセットしてください。

フロッピーディスクを取り出す方法

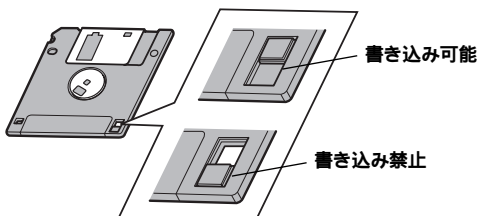
- 1 フロッピーディスクドライブの右側にあるランプが消えていることを確認する
- 2 イジェクトボタンを押し込んで、フロッピーディスクを引き出す



- ✓ **チェック!!** フロッピーディスクドライブの右側にあるランプが緑色に点滅しているときは、フロッピーディスクドライブが読み書きをしているときです。絶対に「イジェクトボタン」を押さないようにしてください。点滅している間に取り出そうとするとフロッピーディスクが壊れることがあります。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。ライトプロテクトノッチを図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



CD-R/RWドライブ

CD-R/RWドライブ(または、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ)が標準で搭載されているモデルでは、CD-RおよびCD-RWへ大量のデータやプログラムを記録できます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けたりしないようにしてください。

警告



けが注意

CD-ROM、DVD-ROM、CD-R、CD-RW媒体は、対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。

大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。また、ディスクがこわれてデータを読み込むことができない場合があります。

再生できるCDの種類

本機では、次のようなディスクを使えます。

種類	概要
CD-ROM	パソコンで見えるための情報が入ったCD。本機で使えるのは「Windows 95」,「Windows 98」または「Windows Me」対応のCD-ROMで、「Windows 2000専用」,「Macintosh専用」のものは使えません。
CD-R/ CD-RW	データ書き込みが可能なCD。CD-R/RWモデルまたはCD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、書き込みもできます。
音楽CD	一般の音楽CDのことです。
ビデオCD / カラオケCD	音声と動画が記録されたCDです。
フォトCD	写真を記録したCDです。
DVD-ROM	CD-ROMの約8倍の量のデータを記録できるディスクです。百科事典や地図が記録されているものなどがあります。CD-R/RW with DVD-ROMモデルとDVD-ROMモデルの場合のみ使えます。
DVD-Video	映画やドキュメンタリーが高画質、高音質で記録されているDVDです。CD-R/RW with DVD-ROMモデルとDVD-ROMモデルの場合のみ使えます。

- Windows 95/98対応のほとんどのCD-ROMはWindows Meで使うことができます。まれに使うことのできないCD-ROMもあるので購入前に確認してください。

- Windows 2000専用のCD-ROMは、Windows Meでは使用できません。MacintoshでもWindowsでも使えるように作られた「ハイブリッドCD」というCDもあります。
- CD-TEXT対応の音楽CDは通常の音楽CDとして再生できる他、Jet-Audio Playerの設定を変更するとCD-TEXTのテキストデータ部分を読み出すことができますようになります。
詳しくは、Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル(「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」)をご覧ください。

CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット

使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、ISO9660、Orange Book PartⅡ(CD-R)およびPartⅢ(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。
書き込みできる容量は、使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、本機に添付のEasy CD Creator、DirectCDのヘルプをご覧ください。

使用するソフトウェア

本機のCD-R/RWドライブを使って、CD-Rへの書き込み、CD-RWのフォーマット/書き換えをするには、Easy CD CreatorまたはDirectCDが必要です。起動方法については『サポートセンタ』の添付ソフトの使い方『Easy CD Creator』または『DirectCD』をご覧ください。なお、DirectCDは、ご購入時の状態ではインストールされていません。ご利用になる場合は、『サポートセンタ』のアプリケーションの追加と削除をご覧ください。



チェック!

- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-R/RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項に従ってください。

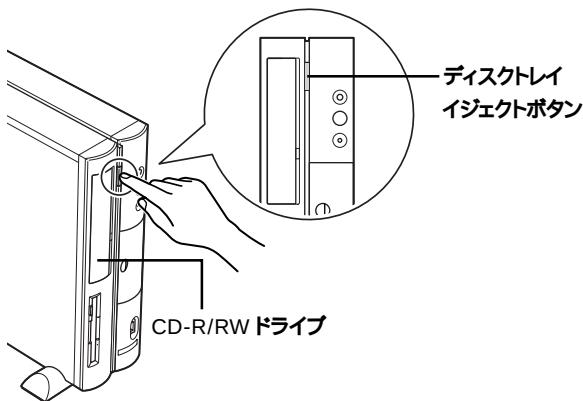
CD-ROMの取り扱い上の注意

- ・ ハード収納ケースから出すときは、ハード収納ケースの中央部分を押しながら取り出します。
- ・ 使用後は、収納ケースに入れるようにしてください。
- ・ 信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- ・ 表面にラベルを貼ったり、文字を書いたり、傷を付けたりしないでください。
- ・ 上に重いものを載せたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- ・ 汚れたときは、やわらかい布で内側から外側に向けて拭いてください。
- ・ 清掃の際はCD専用のスプレーをお使いください。
- ・ ベンジン、シンナーなどで拭かないようにしてください。
- ・ ゴミやホコリの多い場所での使用は避けてください。
- ・ 直射日光のあたる場所や、温度の高い場所に保管しないでください。

CD-ROMの入れ方と出し方

CD-ROMを入れる方法

1 ディスクトレイジェクトボタンを押す

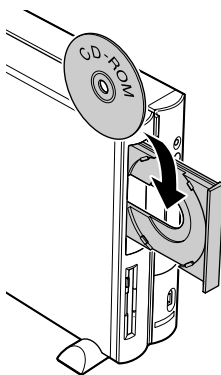


カバーが開いてディスクトレイが出てきます。

- ✓ **チェック!!**
- ・ディスクトレイの出し入れは、本体の電源が入っているときにしかできません。
 - ・CD-R/RWドライブのカバーは、ディスクトレイジェクトボタンを押すと、自動的に開くようになっています。カバーを無理に開こうとすると、カバーが壊れることがあります。

参照 ▶ ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合 → 「非常時のディスクの取り出し方」(P.37)

- 2** CD-ROMのラベル面(文字などが印刷されている面)を左にしてディスクトレイにあるツメにひっかかるように収める
ディスクトレイのツメは、モデルによって形状が異なります。詳しくは次ページをご覧ください。



- ✓ **チェック!!**
- ・CD-ROMが落ちないように確実にツメにひっかけてください。
 - ・パソコン本体を縦置きにするとCDシングル(直径8cmのCD)は使えません。また故障の原因になりますので市販のCDシングル用アダプタは使わないでください。CDシングルを再生したいときは、スタビライザを外して、本体のゴム足が下になるよう(横置き)に置いてください。

参照 ▶ スタビライザの外し方 → PART2の「本体の開け方と閉め方」(P.59)

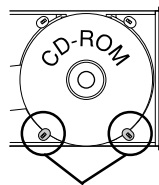
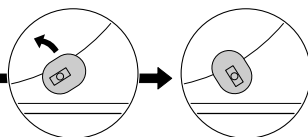
CD-ROMをセットするときは、CD-ROMが落ちないように確実にツメにひっかけてください。ツメには、A、B、C、Dの4タイプがあります。あなたのパソコンのツメのタイプを確認してください。

●各モデルのタイプ

- ・CD-ROMモデルの場合
Cタイプです。
- ・CD-R/RWモデルの場合
BタイプかCタイプかDタイプです。
- ・DVD-ROMモデルの場合
AタイプかCタイプです。
- ・CD-R/RW with DVD-ROMモデルの場合
AタイプかCタイプです。

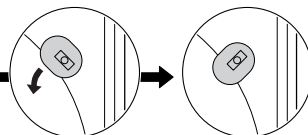
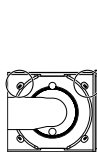
●ツメのタイプ

- ・Aタイプ 下側の2つのツメを出します



下側の2つのツメで押さえる

- ・Bタイプ 上側の2つのツメを出します

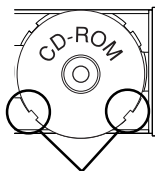


上側の2つのツメで押さえる



チェック!! AタイプとBタイプは形状が似ていますので、間違えないように注意してください。

・Cタイプ



ここのツメで押さえる

・Dタイプ

ツメを出す必要はありません。そのままの状態でお使いください。



ここのツメで押さえる

CD-ROMを取り出す方法

1 ディスクトレイジェクトボタンを押す
カバーが開いてトレイが出てきます。

2 ディスクトレイからCD-ROMを取り出す



チェック!

CD-ROMを取り出した後、ディスクトレイのツメをもとにもどす必要はありません。

3 ディスクトレイを軽く押す
ディスクトレイが収納されてカバーが閉じます。

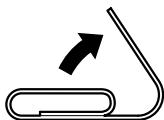
非常時のディスクの取り出し方

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディストレイイジェクトボタンを押してもディストレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

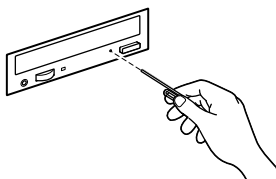
- 1 本体の電源を切る
- 2 パソコン本体を横に倒しルーフカバーを外す

参照 ▶ ルーフカバーを外す → PART2の「ルーフカバーの取り外し」(P.59)

- 3 太さが1.3mm程度、まっすぐな部分の長さが45mm程度(指でつまむ部分を除く)の針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。



- 4 ディストレイの直径2mm程度の穴に、手順3で作った針金を差し込み、強く押し込む
ディストレイが15cmほど飛び出します。



- 5 ディストレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す
- 6 ディストレイの前面を、ディストレイイジェクトボタンを押さないように注意しながら、ディストレイがもとどおりに収納されるまで押し込む
- 7 パソコン本体のルーフカバーを取り付ける

参照 ▶ ルーフカバーを取り付ける → PART2の「ルーフカバーの取り付け」(P.61)



省電力機能

パソコンを使っていないときに、消費電力を節約する省電力機能について説明します。

概要

作業を中断したいことがあるたびにパソコンの電源を切る場合、電源を切る前にデータを保存したり、次に電源を入れたときにWindowsが起動するのに時間がかかるなど手間が多いものです。本機には、こうした手間をかけずに消費電力を抑え、すぐに作業を再開できる「省電力機能」があります。

電源の状態

パソコンの電源の状態には、次の4種類があります。

- 電源が入っている状態

パソコンの電源を入れて、Windowsが起動している状態です。

- 電源が切れている状態

Windowsを終了して、パソコンの電源を切った状態です。

- 休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切ります。消費電力は、Windowsを終了してパソコンの電源を切ったときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態から元の状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただし、スタンバイ状態から元の状態に戻すよりも時間がかかります。

購入時には、マウスやキーボードを操作しなかったり、ハードディスクなどへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に「休止状態」になるように設定されています。

- スタンバイ状態

ディスプレイの表示を消し、ハードディスクの電源を切りますが、パソコンの電源は完全に切れているわけではありません。作業中のデータをメモリに保存しているためわずかに電力を消費しますが、すぐに作業を再開できます。

このような休止状態にする機能やスタンバイ状態にする機能などを「省電力機能」といいます。

省電力機能の特徴

	休止状態	スタンバイ状態
電力	スタンバイ状態に比べ消費しない	わずかに消費する
復帰までの時間	約30秒	約20秒
こんなときに便利	長時間作業を中断するとき	すこしの間作業を中断するとき

() 復帰までの時間は、使用環境により異なるため、おおよその目安にしてください。

 **チェック!** アプリケーションによっては、休止状態のことを「ハイバネーション」、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態やスタンバイ状態から復帰させることを「レジューム」と呼ぶこともあります。

Windows Meで電力を節約する機能を使うための電源管理のモードは、ACPIモードです。APMモードは使用できません。

用語 ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をOSで行うためのしくみです。

用語 APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとはパソコンや周辺機器の電源の管理をBIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

電源ランプ、ディスプレイの表示

電源の状態によって、電源ランプ、ディスプレイの表示は次のように変化します。

電源の状態	パソコン本体の電源ランプ	ディスプレイの電源ランプ	ディスプレイの表示
入っている	緑色に点灯する	緑色に点灯する	表示される
切れている	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
休止状態	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない

別売のディスプレイの場合は、異なることがあります。

省電力機能を使う

休止状態やスタンバイ状態にできないとき

次のようなときには、休止状態やスタンバイ状態にできなかったり、休止状態やスタンバイ状態から復帰するときに、作業前の内容が復元できなかったり、パソコンが正しく動作しなかったりします。このようなときは休止状態やスタンバイ状態にしないでください。また、自動的に休止状態やスタンバイ状態になる設定も行わないでください。



チェック!!

本機は、購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に休止状態になるように設定されています。自動的に休止状態にならないようにするには、この項の「省電力の設定を変える」をご覧ください。

- ・ 休止状態またはスタンバイ状態に対応していないIPCカード(LANカードを含む)を使用しているとき
- ・ SCSIインターフェイスを使って機器を接続しているとき
- ・ プリンタが出力しているとき
- ・ 音声や動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMなどを読み書きしているとき
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態に対応していないアプリケーションや周辺機器を使っているとき

- ・「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているとき
- ・「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」を実行しているとき
- ・モデムを使ってインターネットに接続しているとき

また、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容の記憶中または復元中に、次の操作を行わないでください。

- ・フロッピーディスク、CD-ROMなどを入れ替える
- ・PCカードの抜き差しをするなど、本機の環境を変更する

休止機能

- 休止状態にする
購入時の状態では、休止状態にするには次の2つの方法があります。

- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「休止状態」を選ぶ
「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
「休止状態」を選び、「OK」をクリック

- ・一定時間後に自動的に休止状態にする
本機は、購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと自動的に休止状態になるように設定されています。



参照 自動的に休止状態にならないように設定を変更する→この項の「省電力の設定を変える」(P.44)

- 休止状態にする前の状態に戻す
休止状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。
- ・電源スイッチを押す
- ・FAXモデムによるリング機能を使う
パソコンに電話がかかってきたりしたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

スタンバイ機能

●スタンバイ状態にする

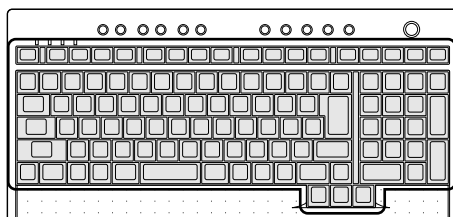
購入時の状態では、スタンバイ状態にするには次の2つの方法があります。

- ・キーボードの【スリープ】ボタンを押す
- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「スタンバイ」を選ぶ
「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
「スタンバイ」を選択して、「OK」をクリック

●スタンバイ状態にする前の状態に戻す

スタンバイ状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

- ・マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー()を押す
それでも画面が表示されない場合は、もう一度同じ操作をしてください。
- () 【スリープ】ボタン、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタンを除く



- ・FAXモデムによるリング機能を使う
パソコンに電話がかかってきたりしたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

省電力機能を使うときの注意

●休止状態にするときの注意

通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続している場合は、休止状態にすると強制的に通信が切断されることがあります。休止状態にする前に必ず通信を終了させてください。

●スタンバイ状態にするときの注意

- ・通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続しているときは、必ず通信を終了してからスタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。

- ・CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・CD-R/RWドライブにフォトCDなどが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に時間がかかることがあります。
- ・スタンバイ状態のときでも、使用環境、温度などによっては、ファンは回りつづけることがあります。
- 休止状態またはスタンバイ状態になっているときの注意
 - ・パソコン本体へ機器を取り付けたり、パソコン本体から機器を取り外したりしないでください。
 - ・スタンバイ状態になっているときに次のことが起こると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。
電源ケーブルが本体やACコンセントから外れた
停電が起きた
電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切った
このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示にしたがってください。

省電力状態からの復帰がうまくいかなかったときは

次のような場合には、省電力状態からの復帰が正しく実行されなかったことを示しています。

- ・復帰直後にアプリケーションが正常に動作しない
- ・休止状態またはスタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・電源スイッチを押しても復帰しない(休止状態のみ)
- ・マウスを動かしたり、キーボードのいずれかのキー(【スリープ】ボタン、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタンを除く)を押しても復帰しない。それでも画面が表示されないの、もう一度同じ操作をしたが復帰しない(スタンバイ状態のみ)
- 休止状態からの復帰がうまくいかなかったときには
PART3 の「省電力機能を使おうとしたら」(P.126)をご覧ください。
- スタンバイ状態からの復帰がうまくいかなかったとき
電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、再度電源を入れてください。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再設定してください。

省電力の設定を変える

省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定する

アプリケーションや周辺機器によっては、休止状態やスタンバイ状態に対応していないものもあります。このようなアプリケーションや周辺機器を利用するときは、自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定を変更する必要があります。また、休止状態やスタンバイ状態になる時間を変更することもできます。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリック

2 「電源の管理」アイコンをダブルクリック
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

✓ **チェック!** 「コントロールパネル」に「電源の管理」アイコンが表示されていない場合は、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

3 「電源設定」タブをクリック
スタンバイ状態にならないようにするには「システムスタンバイ」で「なし」を選択します。休止状態にならないようにするには「システム休止状態」で「なし」を選択します。

✓ **チェック!** 休止機能を使いたくない場合は、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」の  を  にしてください。

4 「OK」をクリック

その他の設定を変更する

「電源の管理」では、次の設定も変更できます。

・省電力の設定ファイルの変更

省電力の設定にファイル名をつけて保存できます。また、保存したファイルの設定を変更できます。

・電源スイッチの役割

本体の電源スイッチを押したときの動作の設定をします。

参照 ▶ 「電源の管理」での設定 → Windowsの「ヘルプとサポート」

サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能があります。音声は、本機に接続した外付けスピーカまたは外部のオーディオ機器から再生できます。

PCM録音/再生機能

本機のサウンド機能は、PCM録音/再生機能と呼ばれるもので、MIDIという規格に準拠しています。

PCM録音/再生機能とは、マイクから入力した音声のアナログ信号をデジタル信号に変換して、その信号にいろいろな処理を加える機能です。音声データを原音に近い音で再生できるだけでなく、入力した音声を編集したり、文書などに貼り付けたりできます。



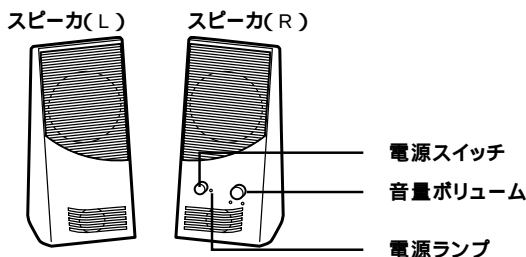
MID〔ミディ〕〔Musical Instruments Digital Interface〕は、パソコンや電子楽器で音楽の情報をやりとりするための規格。通信カラオケなどでも使われている。

スピーカ

本機に添付されている外付けスピーカを接続することで、音声を再生できます。

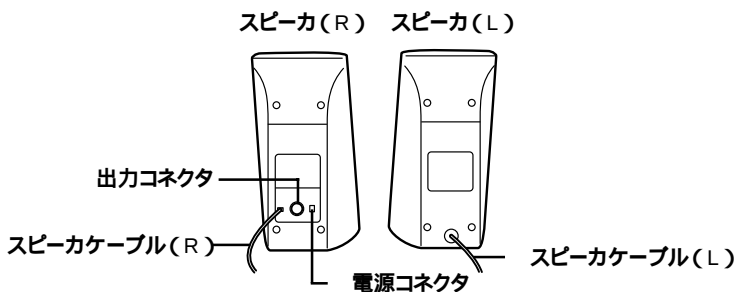
外付けスピーカの各部の名称

前面



電源スイッチやボリュームが付いている方がスピーカ(R)です。

背面



電源スイッチ(①)

スピーカの電源を入れたり切ったりするスイッチです。1回押すと電源が入り、もう1回押すと電源が切れます。

音量ボリューム(㊦)

スピーカの音量を調整します。右に回すと大きく、左に回すと小さくなります。

電源ランプ

スピーカの電源が入っているときは緑色に点灯します。

出力コネクタ(㊦)

左右のスピーカを接続するためのコネクタです。

スピーカケーブル(R)

本体とスピーカを接続するためのケーブルです。

電源コネクタ

添付のACアダプタを接続するためのコネクタです。

スピーカケーブル(L)

左右のスピーカを接続するためのケーブルです。スピーカ(R)の出力コネクタ(㊦)に接続します。

音量や入力レベルを調整する

音源を通じて再生される音声の量や、音源を通じて録音するときの入力レベルは、「ボリュームコントロール」で調整できます。各音源の音量が小さいときや音量が大き過ぎて音が割れたりするときには、「ボリュームコントロール」で調整してみてください。

「ボリュームコントロール」の起動方法

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」の順にクリック

「ボリュームコントロール」で調整できる項目や調整方法については、「ボリュームコントロール」のヘルプをご覧ください。

サウンド全般についての注意

ボリュームコントロールを使用するときの注意

- ・ ディスプレイが低解像度(640×480ドットなど)の場合、「ボリュームコントロール」ウィンドウにすべての音源コントロールが表示されない、または右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。この場合は、ディスプレイの解像度を変更するか、「ボリュームコントロール」ウィンドウに表示される音源コントロールを必要なものだけにしよう「プロパティ」ウィンドウで変更してください。
なお、「ボリュームコントロール」の表示が一部欠けた状態で解像度の切り替えを行っても、「ボリュームコントロール」の表示は変更されません。一度、「ボリュームコントロール」を終了し、再度「ボリュームコントロール」を起動してください。
- ・ CDまたはTVの音から録音したデータを再生したとき、音が小さい場合があります。これは、録音時にCD/TVの出力ボリュームが小さかったためです。したがって、録音する前に、本体側の「ボリュームコントロール」ウィンドウを使用し、CD/TVの音量を大きくしてください。

サウンド機能を使用するときの注意

- ・ 本機では、本体内蔵のサウンド機能や増設した周辺機器を使用して、Windows Me上でマルチメディア機能を利用することができます。
マルチメディア機能の利用の可否は次のとおりです。

ウェーブフォームデータの録音・再生	○
MIDIデータの演奏	○
MIDIデータの記録	×

○: 本体内蔵のサウンド機能で利用することができます。

- ・ MIDI再生機能とウェーブフォームデータ再生機能を同時に使用するアプリケーションでは、エラーが発生したり、音が鳴らない場合があります。

2

周辺機器を利用する

ここでは、周辺機器を取り付ける際の注意点や本機に取り付けられる別売の周辺機器の概要、取り付け方について説明しています。

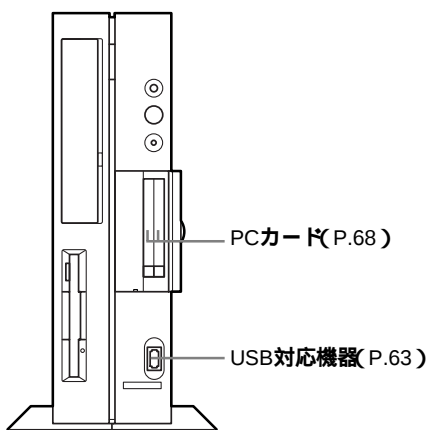
この章の内容

取り付けられる周辺機器	50
周辺機器を取り付けるときのポイント	52
機器を取り付けるときのご注意	58
本体の開け方と閉め方	59
USB対応機器を使う	63
IEEE1394対応機器を使う	65
PCカードを使う	68
メモリを増やす	74
PCIボードを使う	79
SCSIインターフェイス対応機器を使う	83
ハードディスクを増設する	87
困ったときのチェックポイント	90

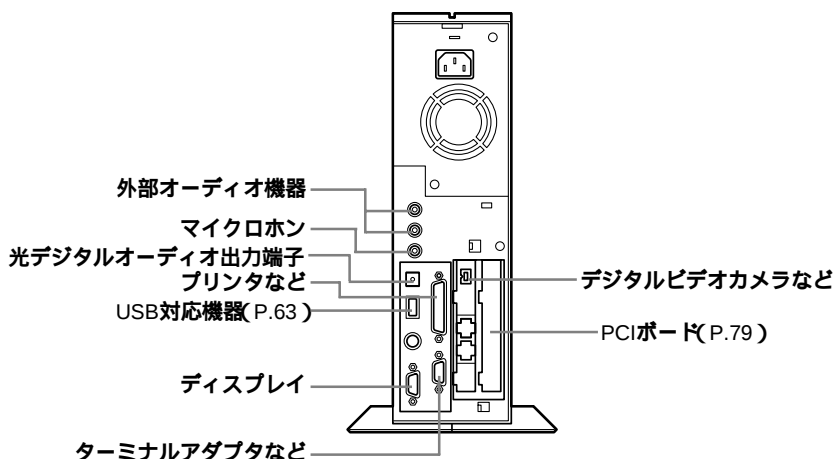
取り付けられる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を取り付けられます。

本体前面に取り付けられる周辺機器



本体背面に取り付けられる周辺機器

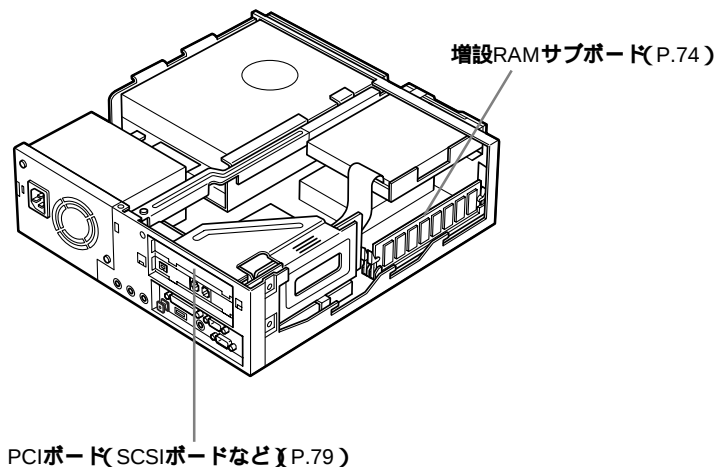


チェック! プラグの形状によっては、使用できないものがありますのでご注意ください。

本体内部に取り付けられる周辺機器

- ✓ **チェック!!** 本体内部に周辺機器を取り付けるときは、ルーフカバーを外す必要があります。

参照 ▶ ルーフカバーの外し方 → 「ルーフカバーの取り外し」(P.59)





周辺機器を取り付けるときのポイント

周辺機器にはさまざまな種類があり、接続の規格にもいろいろあります。機器によっては、本機では使えないものもあります。周辺機器を選ぶときのコツや取り付ける際の注意点を確認しておいてください。

- 本機で使えることを確認する

同じプリンタでも、接続方法や対応パソコンの種類などが機種によって異なり、本機では使えない場合もあります。本機で使えるかどうか、購入前に確認してください。

NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で、本機で使える周辺機器を紹介しています。インターネットに接続できる方は、参考にしてください。

「121ware.com」のアドレス(URL) <http://121ware.com>

NEC製以外の機器については、各メーカーや販売店にお問い合わせください。

- 接続の規格に気を付ける

本機にはシリアルコネクタ(RS-232C)、パラレルコネクタ(セントロニクスなどと記載)、USBコネクタ、IEEE1394コネクタ、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子、PCIスロット、PCカードスロットがあります。周辺機器の中には、同じ種類でも複数の規格に対応しているものがあります。規格には、それぞれ適しているもの、適していないものがありますので、購入するときは、パソコンに詳しい友人やパソコンショップの店員さんなどに相談してください。

- パソコンの電源を切ってから取り付ける

周辺機器を取り付けるときは、原則として、パソコン本体の電源を切り、コンセントから電源ケーブルを抜きます。そうしないと、感電したり、パソコンや周辺機器が故障してしまうかもしれないからです。休止状態(P.38)になると、パソコン本体の電源ランプが消灯し、電源が切れたように見えますが、Windowsは、終了していません。休止状態から復帰させ、Windowsを終了してから、周辺機器を取り付けてください。

- 電源を入れたまま取り付けられる周辺機器

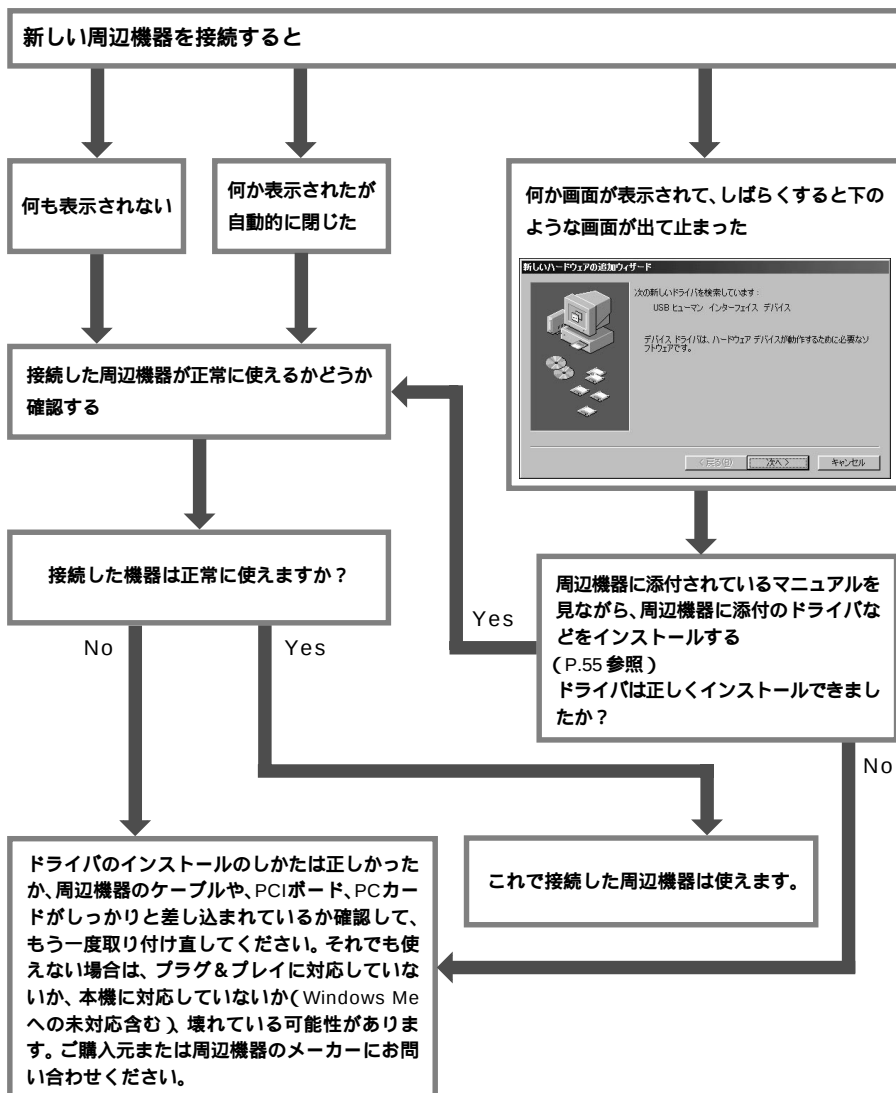
USB対応機器やIEEE1394対応機器、PCカードは、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできます。ふだんは取り外しておいて、必要になったときに接続し、使い終わったらまた取り外す、というような使い方ができます。

- 取り付けただけではすぐに使えない周辺機器

オーディオ機器のように、ケーブルを接続しただけでそのまま使い始められる機器もありますが、ほとんどの周辺機器は、取り付け後にドライバをインストールするなど、パソコン上での設定を行う必要があります。

接続から準備完了までの流れ

はじめて新しい機器を接続したあとの流れは、次の3通りのパターンに分かれます。あらかじめ確認しておいてください。



ドライバなどをインストールする

接続した周辺機器を使うためにはほとんどの場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバは、周辺機器によって異なります。あらかじめパソコンに用意されているドライバが使える場合と、周辺機器に添付されているドライバが必要な場合があります。

- プラグ&プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ&プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールを手動で行います。

詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

- プラグ&プレイに対応している周辺機器の場合

「新しいドライバを検索しています」といったメッセージが表示されたら、まずは画面の指示にしたがって作業を進めます( をクリックしてってください)。

- ・ パソコンに用意されていたドライバが使える場合

「新しいドライバがインストールされました」といったメッセージが表示された場合は、本機にあらかじめ用意されていたドライバがインストールされました。そのまま  をクリックしてください。

- ・ 周辺機器に添付のドライバが必要な場合

「デバイス用のドライバが見つかりません。～」といったメッセージが表示されるのは、周辺機器に添付のドライバが必要な場合です。この場合は周辺機器に添付のマニュアルをご覧になりドライバをインストールしてください。



チェック!

周辺機器に添付のドライバをインストールするときは、ドライバがWindows Meに対応しているかどうか確認してください。Windows Meに対応していないドライバをインストールすると、パソコンが正常に動作なくなることがあります。



プラグ&プレイ

パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。

つなぐ(プラグ)だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。

- 「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示された場合

Windows Meには、新しくドライバを追加した際のトラブルを防ぐため、追加しようとしているドライバがWindows Meで正しく動作するものかどうか、チェックする機能があります。正しく動作することがMicrosoftによって保証されているドライバには、Microsoftデジタル署名が付けられています。デジタル署名についてのメッセージが表示された場合は、周辺機器のメーカーにデジタル署名のついたドライバを入手できないか確認するか、Windows Updateを実行してみてください。

- ドライバをインストールするときの注意

ドライバのインストール後、Windowsを再起動する必要があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

- ドライバのアップデートについて

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることがあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」(<http://121ware.com>)や各周辺機器のメーカーのホームページを時々チェックし、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

周辺機器の取り外しと再接続

プリンタなどのUSB対応機器、デジタルビデオカメラなどのIEEE1394対応機器、メモリカードなどのPCカードは、パソコンの電源を入れたまま、取り付け、取り外しができます。

ただし、取り付けたときにタスクトレイにが表示される周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、本機が正常に起動しなくなることがあります。取り外しを行うときは、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

- 参照 ➤
- ・USB対応機器の取り外し→このPARTの「USB対応機器を取り外す」(P.64)
 - ・IEEE1394対応機器の取り外し→このPARTの「IEEE1394対応機器を取り外す」(P.66)
 - ・PCカードの取り外し→このPARTの「PCカードの取り外し」(P.71)

- 1 タスクトレイのをダブルクリック
「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ハードウェアデバイス」の一覧から取り外す周辺機器を選んで、「停止」をクリック
「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウが表示されます。
- 3 取り外す周辺機器が選択されていることを確認した後、「OK」をクリック
「***は安全に取り外すことができます。」と表示されます。
- 4 「OK」をクリック
これで周辺機器は取り外せます。

同じ周辺機器を再接続したときは、ドライバなどをインストールする必要はありません。ただし、画面が少しのあいだ止まったり、何かウィンドウが表示されたりすることがあります。ウィンドウが表示されたら、ウィンドウの指示にしたがってください。これは機器の故障ではありません。しばらく待てば使えるようになります。

機器を取り付けるときのご注意

本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴り出したら、パソコン、電源ケーブル、ディスプレイケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。



感電注意

濡れた手で触らないでください。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。



感電注意

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。

感電の原因となります。



感電注意

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグを、コンセントから抜いてください。



本機や周辺機器の故障や感電の原因となります。



高温注意

本機の使用直後は、CPUやCPUの周辺に触れないでください。

CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。



発火注意

電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。



感電注意



発火注意

本体を解体した状態で使用しないでください。

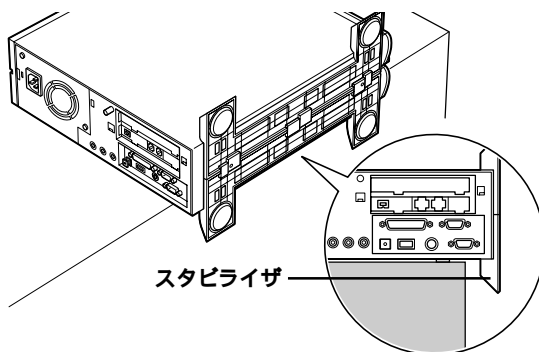
感電や火災の原因となります。

本体の開け方と閉め方

- ✓ **チェック!** ネジの取り付け、取り外しの際に、プラス (+) ドライバーが必要になります。先端がネジ山に合ったものを用意してください。ネジの取り付け、取り外しの際に、本体内部にネジを落とす可能性があるため、先端が磁石になったものをおすすめします。

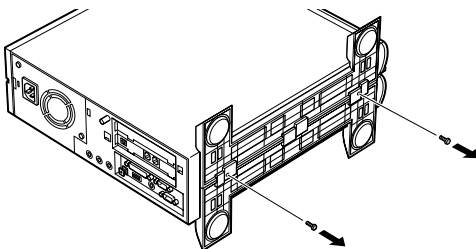
ルーフカバーの取り外し

- 1 本機と、スピーカなどの周辺機器の電源を切る
- 2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜き、本体に接続されているケーブルをすべて取り外す
- 3 本体の左側面 (正面から見て左側) を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く



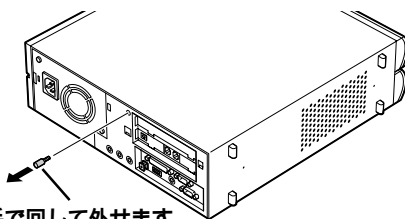
- ✓ **チェック!**
- ・ 本体を横に倒すときは、机やテーブルなどを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
 - ・ スタビライザを外したときに本体が衝撃を受けないように、ちょうどスタビライザの高さの分だけ、本体が机の端などからはみ出るようにおいて安定させます。

4 用意したドライバーで本体底面のネジを2本外し、スタビライザを取り外す



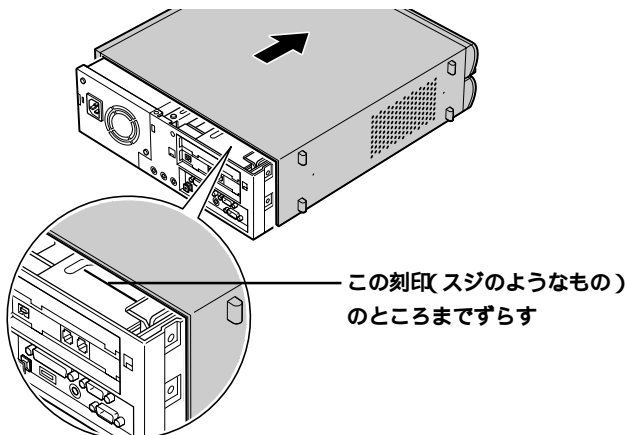
✓**チェック!** スタビライザを落下させないよう、注意してください。また、外したネジをなくさないよう保管してください。

5 本体背面の1本のネジを外す



このネジは手で回して外せます

6 ルーフカバーを下図のように少し前にずらして、ゆっくり上方向に持ち上げて取り外す





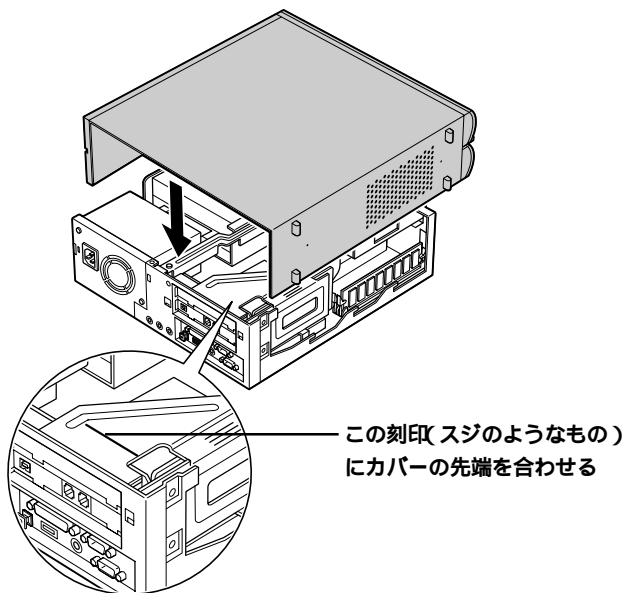
チェック!!

- ・ルーフカバーを取り外す際、PCカードイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ・ルーフカバーを取り外す際は、CD-R/RWドライブのカバーをひっぱったりしないでください。カバーが破損する場合があります。

ルーフカバーの取り付け

機器の取り付けが終わって、ルーフカバーを取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

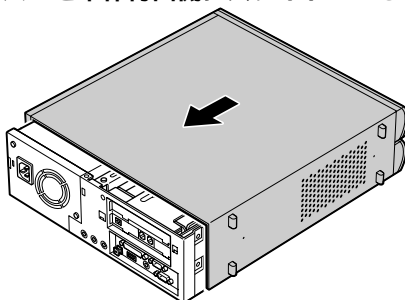
- 1 ルーフカバーの先端を本体背面の刻印に合わせるようにして下におろす



チェック!!

- ・このとき、内部のケーブルや部品を引っ掛けたり、はさんだりしないように気をつけてください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際、PCカードイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際は、CD-R/RWドライブのカバーを押したりしないでください。カバーが破損する場合があります。

2 ルーフカバーを本体背面側にスライドさせる



3 「ルーフカバーの取り外し」の手順5で取り外したネジで固定する

4 スタビライザをもとどおりに取り付ける

参照 ▶ スタビライザの取り付け → 『はじめにお読みください』の「**2** 添付品の接続」

5 「ルーフカバーの取り外し」の手順2で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

USB対応機器を使う

USB(ユーエスピー)とは、プラグ&プレイで簡単に接続できるパソコン用インターフェイスの規格です。接続できる機器にはプリンタやターミナルアダプタ、デジタルカメラなどがあります。

USBコネクタについて

本機には、本体前面に1つ、背面に1つの合計2つのUSBコネクタがあります。接続する機器に応じて、どちらのコネクタを利用しても構いません。すべてのコネクタに別々のUSB対応機器を接続することもできます。

USB対応機器を接続する

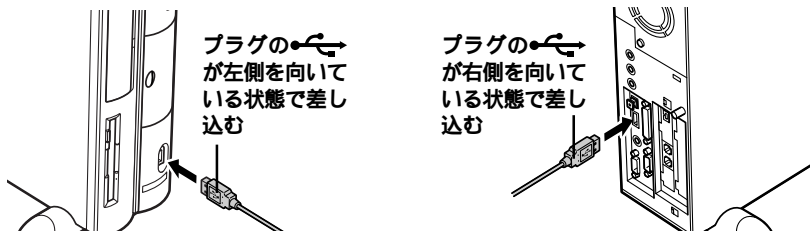
接続する前に

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できます。あらかじめ、パソコンの電源を入れておき、Windowsが使えるようにしておいてください。また、接続するUSB対応機器のマニュアルをよく読んでおいてください。

USBコネクタにプラグを差し込む

- 1 本体前面、背面のUSBコネクタに、周辺機器のプラグを差し込む
プラグを差し込むときの向きは、どこのコネクタを使うかによって、異なります。

- ・ 本体前面のUSBコネクタを使う場合
- ・ 本体背面のUSBコネクタを使う場合



初めて接続するときは、プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、ドライバのインストールが始まります。

次回からは同じ機器を接続するときは、プラグを差し込むだけですぐに使用できます。このとき画面には何も表示されません。

USB対応機器を使う

正しく接続できたか確認する

「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続されたUSB対応機器が登録されていれば、正しく接続できています。USB対応プリンタの場合は、「コントロールパネル」の「プリンタ」をダブルクリックし、接続したプリンタ名が表示されることを確認します。



チェック! 「コントロールパネル」に「システム」が表示されていないときは、画面左のすべてのコントロールパネルのオプションを表示する。をクリックしてください。

USB対応機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続すると、デスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しい手順で取り外さないと、本機が正常に動作しないことがあります。詳しくは、このPARTの「周辺機器の取り外しと再接続」(P.56)をご覧ください。

USB対応機器を使用するときの注意

- USBコネクタの抜き差しを行うときは、3秒以上間隔をおいて行ってください。
- USBデバイスが正常に認識されていない場合は、いったんUSBコネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- 休止状態(またはスタンバイ状態)のときや休止状態(またはスタンバイ状態)に移行中または復帰中に、USBコネクタの抜き差しを行わないでください。
- USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブを本機に接続してから、USBハブに機器を接続して使用してください。USBハブにUSB対応機器を接続したまま、USBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。
- USBのI/Oリソースの変更を行った場合、システムを再起動してください。
- デバイスマネージャでUSBホストコントローラ(HC)を削除または「使用不可」にするとUSBキーボードが使用できません。USB HCの削除、「使用不可」は絶対に行わないでください。

IEEE 1394対応機器を使う

IEEE1394(アイトリプルイーイチサンキューヨン)とは、プラグ&プレイで簡単に接続できるパソコン用インターフェイスの規格です。USBよりも高速で、動画や音声などの大容量のデータを送ることができます。接続できる機器には、デジタルビデオカメラや外付けハードディスクドライブなどがあります。デジタルビデオカメラでは、DV端子と呼ぶこともあります。



IEEE(アイトリプルイー)

米国電気電子技術者協会のことを言います。エレクトロニクス分野では世界最大規模の学会で、電子分野の規格化に大きな影響力をもっています。IEEE1394は、IEEEで標準化されたインターフェイスの規格です。

IEEE 1394対応機器を接続する

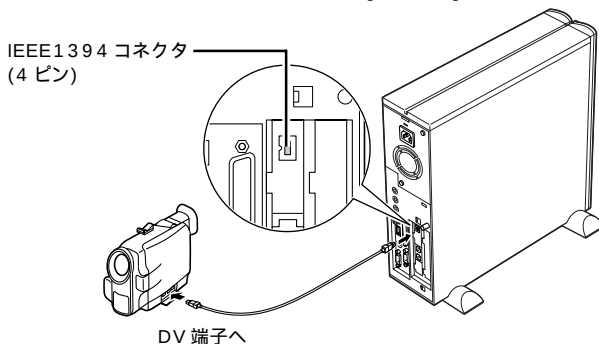
接続する前に

IEEE1394対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態で見ることができます。あらかじめ、パソコンの電源を入れておき、Windowsが使えるようにしておいてください。また、接続するIEEE1394対応機器のマニュアルをよく読んでおいてください。ピン数にも注意してください。

IEEE1394コネクタにプラグを差し込む

1 本体背面のIEEE1394コネクタに、周辺機器のプラグを差し込む

・デジタルビデオカメラを接続する(接続例)



初めて接続するときは、プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、ドライバのインストールが始まります。

次回からは同じ機器を接続するときは、プラグを差し込むだけですぐに使用できます。このとき画面には何も表示されません。

正しく接続できたか確認する

「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続されたIEEE1394対応機器が登録されていれば、正しく接続できています。



チェック!

「コントロールパネル」に「システム」が表示されていないときは、画面左のすべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

IEEE1394対応機器を取り外す

IEEE1394対応機器によっては、機器を接続すると、デスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しい手順で取り外さないと、本機が正常に動作しないことがあります。詳しくは、このPARTの「周辺機器の取り外しと再接続」(P.56)をご覧ください。

IEEE1394対応機器を使用するときの注意

- IEEE1394コネクタの抜き差しを行うときは、3秒以上間隔をおいて行ってください。
- IEEE1394デバイスが正常に認識されていない場合は、いったんIEEE1394コネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- 休止状態(またはスタンバイ状態)のときや休止状態(またはスタンバイ状態)に移行中または復帰中に、IEEE1394コネクタの抜き差しを行わないでください。
- IEEE1394ハブ経由でIEEE1394対応機器を使用するときは、IEEE1394ハブを本機に接続してから、IEEE1394ハブに機器を接続して使用してください。IEEE1394ハブにIEEE1394対応機器を接続したまま、IEEE1394ハブを本機に接続すると、IEEE1394対応機器が正常に認識されないことがあります。
- IEEE1394のI/Oリソースの変更を行った場合、システムを再起動してください。
- 「デバイスマネージャ」にある「IEEE1394ホストコントローラ」は絶対に削除しないでください。

PCカードを使う

PCカードスロットに、本機の機能を拡張するための各種PCカードを取り付けることができます。

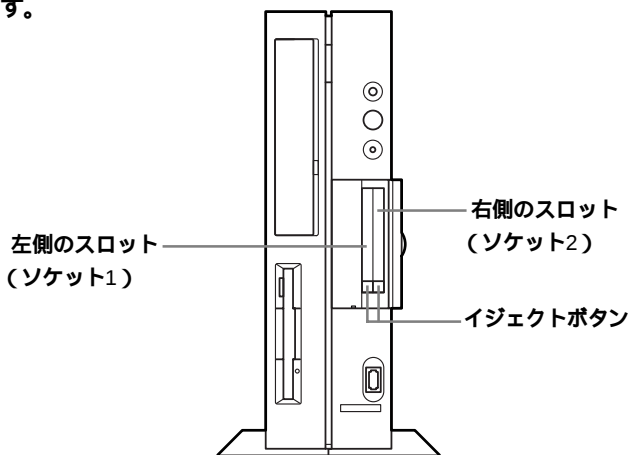
PCカードについて

本機にはPCカードスロットがあり、PC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

PC Card Standard準拠のPCカードは、カードの厚さによってTYPE I、TYPE II、TYPE IIIの3種類に分けられます。

- TYPE IのPCカード 厚さ約3.3mm
- TYPE IIのPCカード 厚さ約5.0mm
- TYPE IIIのPCカード 厚さ約10.5mm

本機のPCカードスロットは、図のように左右2つのスロットがあり、それぞれのスロットにTYPE IまたはTYPE IIのPCカードを1枚ずつ、または左右のスロットを合わせてTYPE IIIのPCカードを1枚、セットして使用できます。



● CardBus対応PCカードについて

CardBus(カードバス)はPCカードの拡張仕様で、高速なデータ転送ができます。本機では、CardBus対応のPCカードを、左右のスロットに1枚ずつ、計2枚同時に使用することができます。

取り付け前の確認

- ・ PCカードをセットする前にイジェクトボタンが収納されているか確認してください。ボタンが飛び出したままの状態ではPCカードをセットすると、イジェクトボタンが収納できなくなり、PCカードスロットカバーが閉まりません。
- ・ PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。本機では、PCカードの表面(ラベルの貼ってある面)を左に向けて差し込んでください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- ・ アプリケーションソフトを使用中は、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態で、PCカードの抜き差しを行わないでください。休止状態またはスタンバイ状態時のデータが消えてしまい、正常に復帰できなくなってしまうことがあります。
- ・ イジェクトボタン付きのPCカードアダプタをPCカードスロットにセットしたときは、PCカードスロットカバーを開めないでください。PCカードアダプタのイジェクトボタンが押され、アダプタに装着したメモ리카ード等が外れることがあります。
- ・ 使用するPCカードによってはPCカードスロットカバーが閉まらないものがあります。

PCカードの取り付け

⚠注意



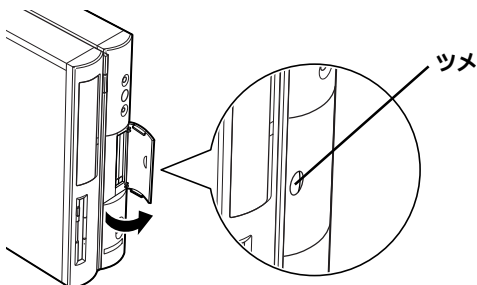
けが注意

PCカードを取り出すときは、ゆっくりイジェクトボタンを押してください。

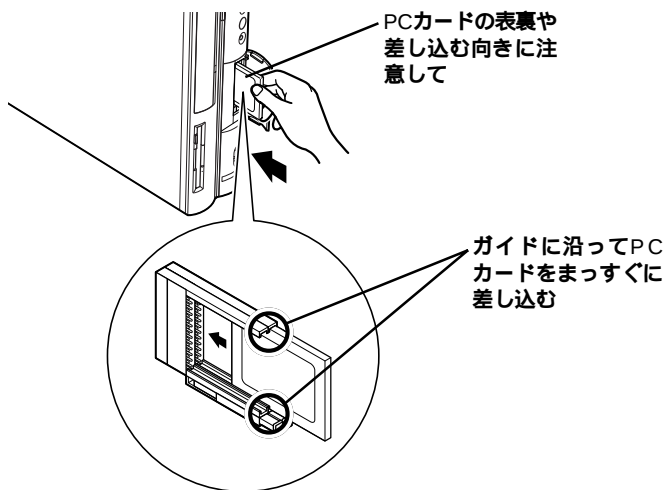
イジェクトボタンを強く押しすぎると、PCカードの取り出し口に指をぶつけてけがをする恐れがあります。

- 1 パソコンの電源が入っている場合は、すべてのアプリケーションが終了していることを確認する
PCカードはパソコンの電源を入れたまま、抜き差しができます。

- 2** 本体前面のPCカードスロットカバーを開ける
ツメに指を引っかけて、矢印の方向に開きます。



- 3** PCカードを図のように持ち、PCカードスロットに静かに差し込む



- 4** PCカードがスロット内にすべておさまるように、奥までしっかり押し込んでセットする



チェック!

コネクタを破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

● PCカードの設定

PCカードをセットすると、パソコンが自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。PCカードの種類によっては、デスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。

ただし、一度も使ったことのないPCカードをセットしたときは、設定が自動的に行われず、ドライバのインストールを行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって操作してください。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。なお、この操作を一回行えば、次回以降そのPCカードを使うときは、セットしたらすぐに使えるようになります。

参照 ▶ ドライバのインストールについて→「ドライバなどをインストールする」(P.55)

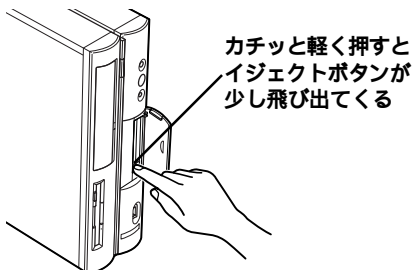


PCカードのデータは、デスクトップの「マイコンピュータ」の中のPCカードのデータが入っているドライブをダブルクリックすると表示されます。購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、Fドライブになります。なお、デスクトップの「マイドキュメント」の中の「My Pictures」フォルダ内に画像データを移動させると、縮小表示された画像を見ることができます。

PCカードの取り外し

PCカードによっては、次の手順で取り出さないと、本機が正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

- 1 「周辺機器の取り外しと再接続」(P.56)の手順1～4を行う
- 2 イジェクトボタンを軽く押す



- ✔ **チェック!!** PCカードを2枚セットしたときは、同時に取り出さずに、1枚ずつイジェクトボタンを押して取り出してください。イジェクトボタンを押すときに、手順1で指定したPCカードとソケット番号の対応を間違えないようにしてください。どちらのソケットが分からなくなったときは、「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」で確認できます。

参照▶ PCカードスロットのソケット番号の確認→このPARTの「PCカードについて」(P.68)

- 3** もう一度イジェクトボタンを押す
ボタンが飛び出した状態でイジェクトボタンを押し込むと、PCカードスロットにセットされていたPCカードが、少しだけ飛び出します。

- 4** 出てきたPCカードを、まっすぐに静かに引き抜く

- ✔ **チェック!!** PCカードを取り出したときに「予期しないPCカードの取り外し」という画面が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

- 5** PCカードスロットカバーを閉める

- ✔ **チェック!!** イジェクトボタンが出ている状態ではカバーを閉めることができません。

PCカードを使用するときの注意

- PCカードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
 - 高温、多湿、低温の場所に放置しない
 - 湿らさない
 - 重いものを載せない
 - ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
 - 曲げない
 - PCカードの端子部分に金属などを入れない
 - PC Card Standardに準拠していないPCカードを無理に押し込まない
- PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できない場合があります。
- 本機ではZVポート対応のPCカードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。
- 休止状態またはスタンバイ状態に対応していないPCカード（LANカードを含む）を使用中は、休止状態やスタンバイ状態にしないでください。購入時には、約20分何も操作しないと、自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。
- マルチファンクションカード（LANとモデムなど2つの機能を兼ね備えたPCカード）とATAカードを同時に使用する場合は、右側のPCカードスロット（ソケット2）にマルチファンクションカードを、左側のPCカードスロット（ソケット1）にATAカードをセットしてください。
- CardBus対応PCカードのドライバ組み込み中に例外エラーが発生することがあります。この場合は、Windowsを再起動すると、正常にドライバの組み込みができることがあります。
- PCカードスロットにATAカードをセットしているときにスタンバイ状態にすると、通常よりスタンバイ状態から復帰するのに時間がかかります。
- 休止状態またはスタンバイ状態にするときには、必ずPCカードをPCカードスロットから取り外してください。



参照 自動的に休止状態にならないように設定する → PART1の「省電力の設定を変える」(P.44)

メモリを増やす

本機のメモリは、最大512Mバイトまで増設することができます。大量のメモリを必要とするOSやアプリケーションを使用する場合には、別売の増設RAMサブボードを取り付けてメモリを増やします。

⚠ 注意



発火注意

- 増設RAMサブボードは以下の手順に従って正しく取り付けて下さい。
正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因となります。



けが注意

- 増設RAMサブボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

メモリを増やすには

メモリを増やすには、本機に増設RAMサブボードを取り付けます。取り付けられる増設RAMサブボード、取り付け順序、スロットの位置を確認します。

- 取り付けられる増設RAMサブボード

本機には、次の増設RAMサブボードを1枚単位で、最大2枚まで増設できます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M031	64Mバイト
PK-UG-M032	128Mバイト
PK-UG-M033	256Mバイト

- スロットへの取り付け順序

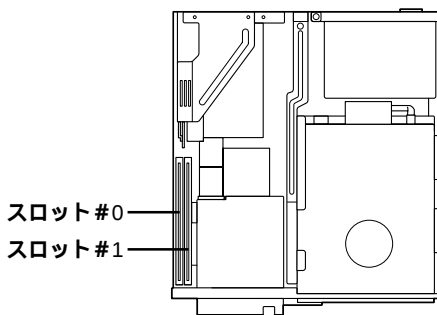
必ずスロット番号が小さい方から埋まるように取り付けてください。スロット#0から順番に取り付けることになります。メモリ容量による取り付け順序の制限はありません。

増設RAMサブボード組み合わせ例

合計容量	スロット#0	スロット#1
128Mバイト	128Mバイト	-
	64Mバイト	64Mバイト
192Mバイト	64Mバイト	128Mバイト
256Mバイト	256Mバイト	-
	128Mバイト	128Mバイト
320Mバイト	64Mバイト	256Mバイト
384Mバイト	256Mバイト	128Mバイト
512Mバイト	256Mバイト	256Mバイト

● スロットの位置

購入時には、スロット #0 に 64M バイトの RAM サブボード が取り付けられています。



本体前面方向



チェック!

増設RAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと、増設RAMサブボードが破損する原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMサブボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。

増設RAMサブボードの取り外し

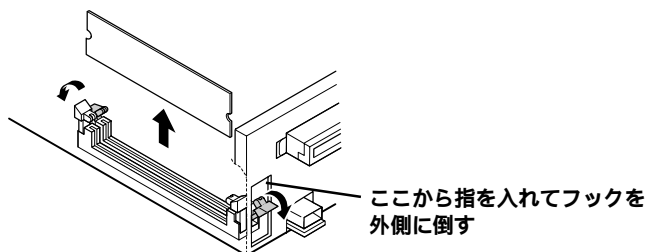
1 「ルーフカバーの取り外し（P.59）」の手順で、ルーフカバーを取り外す



チェック!

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体から全て取り外してください。

- 2 取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりとボードを垂直に引き抜く

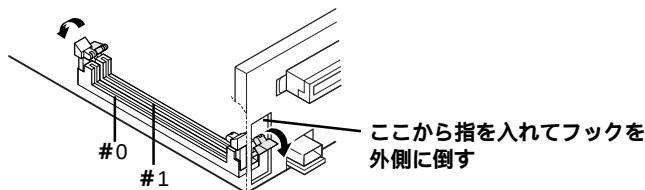


✓チェック!! フックを開きすぎて破損してしまわないように注意してください。

- 3 「ルーフカバーの取り付け (P.61) の手順で、ルーフカバーを取り付ける

増設RAMサブボードの取り付け

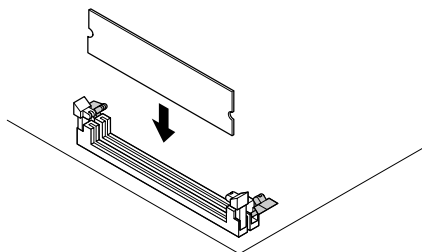
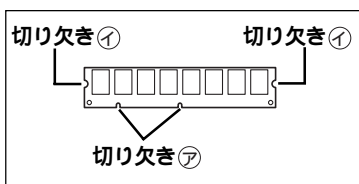
- 1 「ルーフカバーの取り外し (P.59) の手順で、ルーフカバーを取り外す
- 2 ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く



上の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。

3 切り欠き⑦の方向とコネクタの溝が合うように、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む

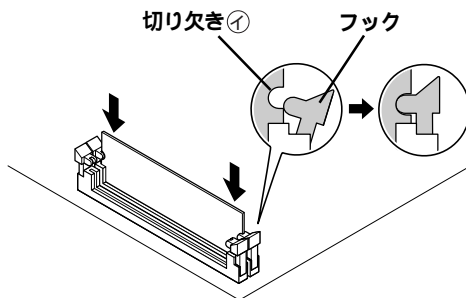
- ✓ **チェック!** ボードを差し込むときは、必ずコネクタの溝とボードの切り欠き⑦の位置を確認してから差し込んでください。



- ✓ **チェック!**
- ・増設RAMサブボードは、両手で持ってください。
 - ・増設RAMサブボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
 - ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

4 そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き①に引っかかるまで、強く押し込む

増設RAMサブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順3で差し込んだときに切り欠き⑦をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。



- ✓ **チェック!**
- ・増設RAMサブボードの取り付け / 取り外しを行うときに、指をはさんだり、切ったりしないように注意してください。
 - ・増設RAMサブボードがしっかり押し込まれたことを確認してください。しっかり押し込まれていないと故障の原因となります。

5 「ルーフカバーの取り付け」(P.61)の手順で、ルーフカバーを取り付ける

メモリ容量の確認方法

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

2 「システム」をダブルクリック
「システムのプロパティ」の「全般」タブの中にメモリ容量が表示されます。

✓**チェック!!** 「コントロールパネル」に「システム」が表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

メモ

表示されたメモリ容量が正しくない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、本機で使えるメモリを取り付けているかを確認してください。

✓**チェック!!**

- ・システムのプロパティでメモリの容量を確認すると、搭載されている容量より数Mバイト少ない容量が表示される場合がありますが、故障ではありません。
- ・メモリを増設した場合、初期化のため、電源スイッチを押した後にディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

PCIボードを使う

PCIスロットには、本機の機能を拡張するための各種PCIボードを取り付けることができます。

⚠ 注意



けが注意

PCIボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

取り付け前の確認

PCIボードには、SCSIインターフェイス対応機器を接続するためのSCSIインターフェイスボードや本機をLANに接続するためのLANボードなどいろいろな種類があります。PCIボード購入時には、必ず本機で動くかどうかメーカー、ご購入元に確認してください。



チェック!!

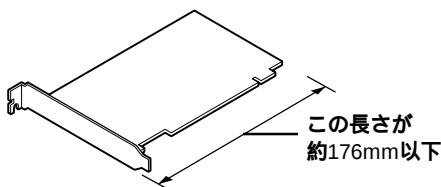
1Mバイト空間のメモリリソースを使用するPCIボードは、正常に動作しない場合があります。

本機にはPCIスロットが1スロットあり、ハーフサイズのPCIボードを1枚取り付けることができます。



チェック!!

- ・本機には、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。
- ・ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられない場合があります。ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。

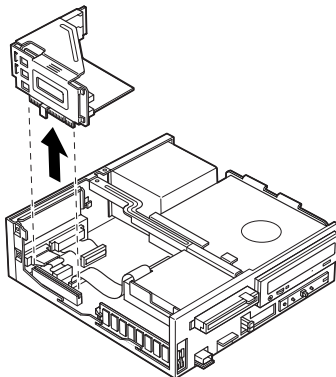


PCIボードの取り付け

1 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

参照 ▶ ルーフカバーの外し方 → このPARTの「ルーフカバーの取り外し」(P.59)

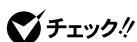
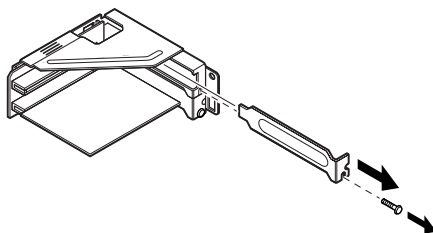
2 PCIユニットを上へ引き抜くようにして取り外す



チェック!!

- ・電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・机やケーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
- ・PCIユニットの取り付け、取り外しをするときは、PCIユニットや本体内部の部品、ケーブルなどを破損しないよう、慎重に行ってください。
- ・標準で取り付けられているPCIボードを取り外して、別のPCIボードを取り付けた場合は、サポートの対象外となります。
- ・PCIユニットの取り付け／取り外しをするときに、指を切ったり、ぶつけないよう注意してください。

3 PCIユニットを下図のような向きにして、スロットカバーをとめているネジ1本を外し、スロットカバーを取り外す

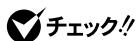


チェック!

- ・スロットカバーは、ここで取り付けしたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。
- ・PCIボードを持つときは、ボード上の部品やツメ(端子)部分に触れないように注意してください。
- ・外したネジは、PCIボードを固定するときに使います。なくさないように気をつけてください。

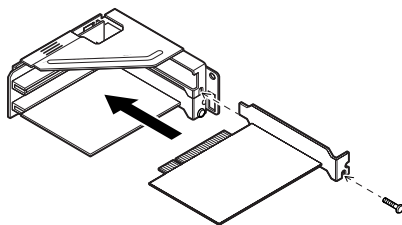
4 PCIボードを、両手で支えながらスロットに慎重に差し込み、手順3で外したネジ1本を使って、固定する

PCIボードをしっかりと差し込むには、強い力が必要です。ボードのツメの先端がPCIユニットのコネクタにきちんと合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。

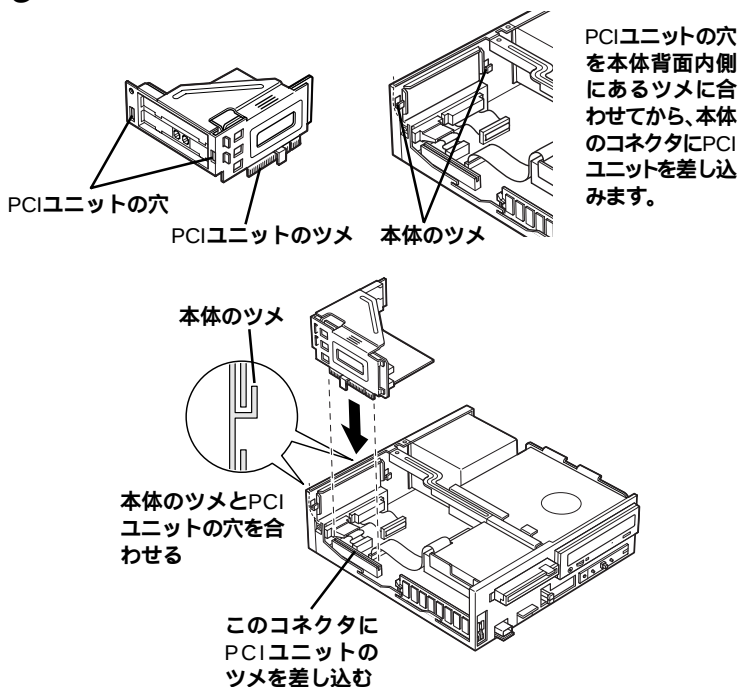


チェック!

しっかりと差し込んでおかないと、故障の原因になります。



5 PCIユニットを本体に取り付ける



- ✓ **チェック!!** PCIユニットをしっかりと差し込むには、強い力が必要です。PCIユニットのツメの先端が本体のコネクタにきちんと合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

6 正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

参照 ルーフカバーの取り付け方→このPARTの「ルーフカバーの取り付け」(P.61)

PCIボードの取り外し

PCIボードの取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

- ✓ **チェック!!** FAXモデムボードもPCIボードと同じ方法で取り付けられています。FAXモデムボードの取り付け、取り外しは、PCIボードと同じように行うことができます。

SCSIインターフェイス対応機器を使う

本機でSCSI(スカジー)インターフェイスに対応した周辺機器を使うには、SCSIインターフェイスボードが必要です。ここでは、SCSIの基礎知識、SCSIインターフェイスボードの取り付け方、SCSIインターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。

SCSIインターフェイスについて

接続できるSCSI機器

SCSIインターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

- | | |
|----------------------|------------------|
| ・ハードディスク | ・PDユニット |
| ・CD-ROMドライブ | ・Zipドライブ |
| ・DVD-RAMドライブ | ・ミニカートリッジテープユニット |
| ・DVD-ROMドライブ | ・カセット磁気テープユニット |
| ・CD-R/RWドライブ | ・イメージスキャナ |
| ・MOディスク(光磁気ディスク)ドライブ | など |

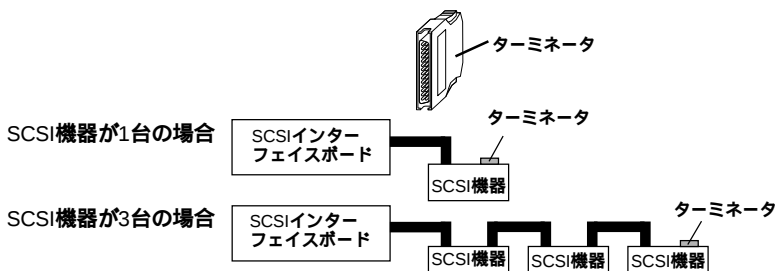
SCSIに関する基礎知識

● SCSI機器の接続方法について

SCSI機器は、「デジチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数(最大7台)の機器をつなぐことができます。

また、その終端となるSCSI機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置をつけることになっています。

ターミネータは、「終端BOX」と呼ばれます。SCSI機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用するSCSI機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。



- SCSI IDについて

SCSI機器は、SCSI IDという0～7の認識番号で区別します。このSCSI IDが重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。

通常、SCSIインターフェイスボード自身が7番を使用します。一般的に、外付けのSCSI機器のSCSI IDは0～6番を使います。また、通常、0番はSCSIハードディスクで使います(その他の機器でも0番を使えないわけではありません)。

- SCSI機器接続ケーブルの長さについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m以内になるようにしてください。



チェック!

- Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m以内になるようにしてください。ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。
- SCSIインターフェイスを使って機器を増設した場合は、本機を休止状態にできません。SCSI機器をご利用になる場合は、本機が自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。



参照

自動的に休止状態にならないように設定する → PART1の「省電力の設定を変える」(P.44)

SCSIインターフェイスの種類

現在一般的に使われているSCSIインターフェイスの規格には、次の4種類があります。

- ・SCSIインターフェイス
- ・SCSI-2インターフェイス
- ・Ultra SCSIインターフェイス
- ・Ultra Wide SCSIインターフェイス

規格によってデータの転送速度が異なります。それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスでSCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2インターフェイスでSCSIインターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

用意するもの

市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルなどが必要になります。

- SCSIインターフェイスボード

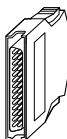
PCIスロットに対応したSCSIインターフェイスボードが1枚必要です。

本機で利用できるのは、「ハーフサイズ」のSCSIインターフェイスボード(長さが約176mm以下のもの)です。また、SCSIカードを使うこともできます。SCSIカードはPCカードスロットに差し込みます。

- SCSI機器接続ケーブル

SCSI機器接続ケーブルは、プラグ部分の形状やケーブルの長さ、対応しているSCSIインターフェイス規格の違いによって、いくつかの種類があります。ボードや機器に添付のマニュアルを参照して、適切なケーブルを用意してください。

- ターミネータ(終端BOX)



ターミネータ(終端)機能を内蔵しているタイプのSCSI機器を接続するときは、不要です。詳しくは、SCSI機器に添付のマニュアルをご覧ください。

SCSIインターフェイスボードを取り付ける

SCSIインターフェイスボードは、本体のPCIスロットに取り付けます。取り付け方は、一般のPCIボードと同じです。

参照 ▶ PCIボードの取り付け → このPARTの「PCIボードの取り付け」(P.80)

SCSI機器を接続する

SCSI機器は次のように接続します。

1 SCSI機器のSCSI IDを設定する
SCSI IDの設定方法については、各SCSI機器に添付のマニュアルをご覧ください。

2 本体に取り付けたSCSIインターフェイスボードのSCSIコネクタに、SCSIケーブルのプラグを差し込む



チェック!!

- ・接続はパソコン本体とSCSI機器の電源を切ってから行ってください。
- ・SCSIケーブルのコネクタは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。
- ・コネクタによっては、左右のフックでコネクタが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

3 SCSI機器のSCSIコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のプラグを差し込む
SCSI機器のSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。

4 SCSI機器の残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む
複数のSCSI機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう1本のSCSIケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法でSCSI機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。

ハードディスクを増設する

本機でハードディスクを増設するには、SCSIインターフェイスボードを使って、外付けタイプのハードディスクを接続します。



チェック!!

- ・本機では、本体に内蔵するタイプのハードディスクは増設できません。
- ・標準で本体に内蔵されているハードディスクを交換すると、サポートの対象外となります。

用意するもの

市販の外付け用ハードディスクやSCSIインターフェイスボードなどが必要になります。

● ハードディスク

市販の「SCSIインターフェイス対応」の外付け用ハードディスクを用意します。

ハードディスクとSCSIインターフェイスボードの組み合わせによっては、うまく接続できなかったり、専用の変換コネクタが必要になったりするので、購入前に確認してください。

● SCSIインターフェイスボードなど

ハードディスクをパソコン本体に接続するために、市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブル、ターミネータ(終端BOX)などが必要です。SCSIインターフェイスボードには、PCカードスロットにセットできるタイプ(SCSIカード)もあります。



参照

SCSIインターフェイスボードの取り付け→このPARTの「SCSIインターフェイス対応機器を使う」(P.83)

本体にハードディスクを接続する

先にパソコン本体にSCSIインターフェイスボードを取り付け、ボードのSCSIコネクタにハードディスクを接続します。

- 1 本体とハードディスクの電源が切れていることを確認する
- 2 正しい手順で、本体にSCSIインターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う

 参照 SCSIインターフェイスボードの取り付けと設定→このPARTの「SCSIインターフェイス対応機器を使う」(P.83)

- 3 接続しようとするハードディスクのSCSI IDを確認し、必要ならば設定を変更する

0～6のいずれかの番号に設定します。他のSCSI機器も接続している場合には、それらの機器の番号と重複しないように気をつけてください。

SCSI機器は、SCSI IDという0～7の番号で識別します。ハードディスクにはこの番号を設定するボタンが付いているので、それを使って設定してください。

- 4 本体に取り付けたSCSIインターフェイスボードのSCSIコネクタにSCSI機器接続ケーブルのプラグを差し込む



チェック!

- ・SCSI機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。コネクタの向きをよく確認し、無理に押し込まないようにしてください。
- ・コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

- 5 増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む

ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。



チェック!

ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

6 増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む

ターミネータを取り付けないと、ハードディスクが正しく認識されない場合があります。

参照 ターミネータについて → このPARTの「SCSIインターフェイスについて」
(P.83)

7 必要に応じて、フォーマットの作業に進む

ハードディスクのフォーマットについては、ハードディスクに付属のマニュアルなどをご覧ください。



困ったときのチェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

- 周辺機器に添付のマニュアルに沿って正しく取り付けましたか？
周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しく取り付けたか、正しく設定したか、もう一度確認してください。また、そのマニュアルにQ&A情報があれば参照してください。
- 電源は入っていますか？
外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。
- 取り付けた周辺機器は、本機で使えるものですか？
取り付けた周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだりメーカーへ問い合わせ、確認してください。また、その機器がWindows Meに対応しているのかも確認してください。
- ケーブルは正しく接続されていますか？
見落としがちなことですが、本体や周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。
- 本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？
本体内部に機器を取り付けたときに、気づかぬうちに内部の信号ケーブルなどを引っぱって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。
- ドライバは組み込みましたか？
周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバやソフトを組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しくドライバを組み込んでください。
ドライバの情報は、本機に入っている追加情報や周辺機器のReadmeファイルに書いてあることがあります。

参照

- ドライバについて→このPARTの「ドライバなどをインストールする」(P.55)
- 本機のドライバ情報→「スタート」・「NEC電子マニュアル」・「追加情報」
「1.周辺機器を使おうとしたら…」

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせ、最新のドライバを入手してください。

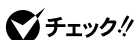
なお、NEC製の最新ドライバは、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で提供しています。

● 周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

● 他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。リソースの競合が起こっているかどうかは、「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」タブで確認できます。ドライバの異常、リソースの競合などで何らかの障害があると、アイコンに黄色い「！」マークや赤い「×」マークが表示されます。



チェック！

・「ネットワークアダプタ」の「Microsoft仮想プライベート ネットワーク アダプタ」に赤い「×」が表示されますが、異常ではありません。

・USB接続のマウスをご使用の場合に、PS/2互換マウスポートに黄色い「！」が表示されることがありますが、これはPS/2互換マウスを接続していないことが原因なので異常ではありません。

異常が表示された場合は、まずその機器のプロパティを開いてください。「デバイスの状態」の欄に、異常の原因が表示されます。異常の原因がリソースの競合であった場合は、次の方法で解決することができます。

1 「リソース」タブを開く

2 「自動設定」のチェックを外す

3 「リソースの種類」から競合しているリソースを選択し、ダブルクリック

4 表示されたリソースの設定値を変更する



チェック!!

選択した機器やリソースの種類によっては、設定値を変更できない場合があります。その場合、競合を起こしているもう一方の機器の設定値を変更してください。なお、本機のリソースについては、PART6の「本機が使用しているリソース」(P.196)をご覧ください。

- 休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け/取り外しを行いませんでしたか？

休止状態やスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け/取り外しを行うと、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容が失われたり、復帰できなかったりすることがあります。周辺機器を休止状態やスタンバイ状態にする前の状態に戻してから、電源を入れ直してください。

3

トラブル解決 Q&A

パソコンを使っていて、何かトラブルが起きたときにご覧ください。
「トラブル解決4つのポイント」を読んで、どうしてそうなったかを考え、
あてはまる項目を探してください。
何か疑問があるときも、ここを読んでください。
また、本機に登録されている「スタート」ボタン→「ヘルプ」→「サポートセン
タ」の「トラブル解決Q&A」もあわせてご覧ください。

この章の内容

トラブル解決4つのポイント	94	画面がおかしい	115
トラブル予防のポイント	95	マウスを動かしても	116
お問い合わせの前に		キーボードを使っていたら	117
(トラブルチェックシート).....	99	アプリケーションを使っていたら	118
パソコンがこわれそう	101	周辺機器を取り付けようとしたら	121
はじめて電源を入れたら	103	省電力機能を使おうとしたら	126
電源を入れたが	104	その他	129
電源を切ろうとしたが	113	アフターケアについて	133

トラブル解決4つのポイント

1

- 落ち着いて対処する

あわてて電源を切ったり、マウスを何度もクリックしたりせず、しばらくそのまま待ってください。しばらく待っても動かないときは、強制終了(P.113)を行ってください。

- メッセージが表示されているときはメモしておく

後で問い合わせるために、表示されているメッセージをメモしておくことをおすすめします。また、「元に戻す」「取り消し」などの機能があったら、その機能を使ってください。

- 原因が何かを考える

操作を間違えなかったか、どんな操作をしたときに問題が起きたのかなど、原因を考えてみましょう。

2

- このマニュアルまたは「サポートセンタ」の「トラブル解決Q&A」で調べる

このマニュアルの目次を見て、自分のトラブルに当てはまる項目があったら、そのページを読んでください。また、本機に登録されている「サポートセンタ」を調べて解決のヒントがないか探してください。

- Windowsのヘルプからトラブル対策を探す

本機にある「ヘルプとサポート」を使えば、調べたい項目を探すことができます。

- インターネットからトラブル対策を探す

Q&A情報を提供しているホームページには次のようなものがあります。

NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」(<http://121ware.com>)

マイクロソフトサポート情報 <http://www.microsoft.com/japan/support>

アプリケーションでトラブルが起きたときは、そのマニュアルやヘルプなどを読んでから、開発元のホームページを見てみましょう。

3

- 「スキャンディスク」や「システムの復元」を試してみる

Windowsやアプリケーションが起動しない、動作が不安定などといったトラブルは、ハードディスクやシステムファイルに問題があることが多くあります。このようなときは、Windows Meの「ヘルプとサポート」をご覧ください。「スキャンディスク」や「システムの復元」を行ってみてください。

4

- トラブルチェックシートに記入する

NECに問い合わせるときは、どんなトラブルが起こったかを、「トラブルチェックシート」(P.99)に記入しておいてください。

- 問い合わせる

NECのお問い合わせ先は、添付の『121wareガイドブック』をご覧ください。パソコンとは別に購入した周辺機器やアプリケーションに関するトラブルは、その製品のお問い合わせ先にご相談ください。

解決

トラブル予防のポイント

電源は正しい順序で入れる / 切る

電源の入れ方や切り方を間違えると、周辺機器が正しく動作しなかったり、本体の故障の原因となったりします。正しい手順で電源を入れるようにしてください。

参照

電源を入れる/切る → PART1の「電源の入れ方/切り方」(P.8)

ケーブル類を整理し、電源が入っているときに電源プラグを抜かない

特に、足などで引っかけてしまう場所に電源ケーブルがないかどうか確認してください。ケーブルに足が引っかかって、電源プラグが抜けたりパソコンが倒れると、けがや故障、大切なデータの消失の原因になります。

ハードディスクの空き容量を十分に確保する

Windows を快適に使うには、ハードディスクに十分な空き容量が必要です。空き容量が不足してくると、ファイルの読み書きやアプリケーションの起動に時間がかかるようになり、最後にはハードディスクそのものが動作しなくなります。Cドライブの空き容量は、常に100Mバイト以上確保してください。ハードディスクの空き容量が不足してきたら、不要なファイルを削除するか、ハードディスクを増設してください。不要なファイルを削除するには、「ディスククリーンアップ」を使うと便利です。

参照

・ディスククリーンアップの使い方 → Windows の「ヘルプとサポート」
・ハードディスクドライブの増設 → PART2の「ハードディスクを増設する」(P.87)

● ハードディスクの空き容量の確認

1 デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック

2 「WINDOWS ME(C:)」にマウスポインタをあわせてクリック
画面の左側に使用領域と空き領域が表示されます。

大切なデータはバックアップをとっておく

パソコンを使っていると、うっかりファイルを消してしまったり、ドライブが故障してしまったりと、大切なデータをなくしてしまうことがあります。そんなときにもフロッピーディスクや外付けのハードディスク、MOなどにデータをコピーして予備のデータをとっておくと安心です。また、トラブルを解決するために再セットアップする場合には、ご自分でハードディスク内に作成されたデータは、ほとんどの場合、すべて消去されます。必ず、再セットアップする前に、これらのデータをバックアップしてください。本機にインストールされている「バックアップ・NX」を使うと、アプリケーションで作成したデータのバックアップや復元が手軽にできます。「バックアップ・NX」を利用して、定期的にデータのバックアップをとるようにしてください。「バックアップ・NX」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「アプリケーション」→「バックアップ・NX」をクリックして、起動します。

参照 バックアップ・NXの操作方法→バックアップ・NXのヘルプ

定期的にハードディスクを点検する

トラブルを防止するために、定期的に「スキャンディスク」でハードディスクをチェックすることをおすすめします。また、メンテナンスウィザードを利用すると、スキャンディスクなどのシステムツールを定期的に実行するように設定できます。

メンテナンスウィザードは、次の手順で起動します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」の「メンテナンスウィザード」をクリック

コンピュータウイルスの侵入を防ぐ

パソコンを使っていると、インターネット、パソコン通信上のやりとりやフロッピーディスク、CD-ROMの受け渡しなど、さまざまなかたちでコンピュータウイルスに感染する可能性があります。パソコンをコンピュータウイルスから守るには、次の点に注意してください。

- ・ パソコンのウイルス検査は定期的に行う
- ・ 出所不明なフロッピーディスク、CD-ROM、プログラムは使用しない
- ・ 入手したデータやプログラムはウイルス検査を済ませてから使用する

- ・ インターネットやパソコン通信から、むやみにデータやプログラムをダウンロードしない
- ・ 覚えがない電子メールや添付ファイルは開かずに削除する
- ・ ワクチンソフトは最新版になるように定期的に更新する

また、VirusScanによってコンピュータウイルスが検出されたらこのPARTの「その他」の「コンピュータウイルスが検出された」(P.129)をご覧ください。ウイルスの削除を行ってください。

参照

VirusScanについて→『はじめにお読みください』の「5 パソコンのプログラムやデータを守る」の「ウイルスの検査と駆除(VirusScan)」

あらかじめ起動ディスクを作っておく

Windowsの調子がおかしくなったり、ちょっと設定を変更したらWindowsそのものが起動しなくなってしまうことがあります。こんなときに、起動ディスク(Windowsを起動するフロッピーディスク)を使って本機を起動して、本機を検査したり、設定を変更したりすると解決に役立つことがあります。

起動ディスクは、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」の「起動ディスク」タブの「ディスクの作成」で作成できます。

アプリケーションの動作に必要な環境を確保する

アプリケーションを使うには、リソース(動作に必要な作業領域)が必要です。複数のアプリケーションを同時に起動すると、リソースが少なくなり、アプリケーションの動きが遅くなったり、パソコンが動かなくなってしまうことがあります。このような現象を防ぐためには、使わないアプリケーションをこまめに終了するようにしましょう。

また、ファイルサイズの大きな壁紙を使用している場合にもパソコンの動きが遅くなることがあります。この場合は、ファイルサイズの小さい壁紙に変更してください。

用語 リソース

パソコンのメモリやハードディスクなど、パソコンを使うときに必要な装置全般。また、Windowsでは、OSの動作に必要な特殊なメモリ領域のことを「システムリソース」と呼ぶ。

改造をしない

本機に添付のマニュアルに記載されている方法以外で、本機の改造や修理をしないでください。マニュアルに記載されている方法以外で改造や修理をした製品については、当社のサービスの対象外となることがあります。

保守サービス(有料)で定期的にメンテナンスを行う

本機を、業務用などに24時間連続で利用したり、信頼性を必要とする設備として利用する場合は、必ず保守契約を行い、定期的にメンテナンスを実施することをおすすめします。ハードディスクなどの消耗部品の交換も依頼できます。NECフィールディングでは、さまざまな保守サービス(有料)を用意しています。ご利用環境に合わせて、保守契約を結んでください。

参照

- ・消耗部品について→このPARTの「アフターケアについて」(P.133)
- ・保守サービス(有料)について→『121wareガイドブック』

お問い合わせの前に(トラブルチェックシート)

お問い合わせの際には、お使いになっているパソコンの構成やトラブルの具体的な状況をお知らせいただく必要があります。

あらかじめ、このシートの各項目にご記入いただくと、お問い合わせの際により的確で迅速な対応を受ける助けになります。

ぜひ、ご利用ください。

トラブルチェックシート 1 あなたのパソコンの構成

■ ハードウェア

本体	
型名(保証書に記載されています)	
製造番号(保証書番号)	
メモリの容量	_____ MB(メガバイト)
ハードディスク(Cドライブ)の容量	_____ GB(ギガバイト)
ハードディスク(Cドライブ)の空き領域	_____ MB(メガバイト)
ハードディスクの容量、空き領域を調べるには -- マイコンピュータのハードディスクのアイコンをクリックしてください。容量や空き領域が表示されます。	
周辺機器	品名・型名(メーカー名)
ディスプレイ	
プリンタ	
増設ハードディスク	
その他の周辺機器	

■ ソフトウェア

OSのバージョン
☐ Windows Me ☐ Windows 2000
トラブルが起きたときに起動していたアプリケーション

トラブルチェックシート 2 具体的なトラブルの内容

● どのようなトラブルが起きましたか？ トラブルの内容を書いてください。

● 画面にエラーメッセージや番号などが表示されませんでしたか？
メッセージや番号を書いてください。

● そのトラブルはどんなときに起きましたか？

- ☐ パソコンを起動するときに起きる
- ☐ そのアプリケーションを起動するときに起きる
- ☐ 特定の操作を行うと起きる
- ☐ はじめて起きた

● その他に気付いたことがあれば書いてください。

パソコンがこわれそう



パソコンの様子がおかしい。煙や異臭、異常な音がしたり、手でさわれないほど熱い。パソコンやケーブル類に目に見える異常が生じた

すぐ電源を切って、電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜き、ご購入元または、NECにお問い合わせください。



参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』



チェック!!

本機を安全に使用するための注意事項を『はじめにお読みください』に記載しています。本機をお使いになるときは、必ず注意事項を守ってください。



キーボードに飲み物をこぼしてしまった

「PART6 付録」の「本機のお手入れ (P.188)」に従って、柔らかい布などでふき取ってください。

キーとキーの間に入ってしまったときは、水分が乾くのを待ってからお使いください。

乾いた後で、キーを押しても文字が入力されないなどの不具合があるときは、ご購入元または、NECにお問い合わせください。



参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』



ジュースなどをこぼしたときは、きれいにふき取っても内部に糖分などが残り、キーボードが故障することがあります。また、パソコンのそばで、飲食、喫煙をすると、飲食物やタバコの灰がパソコン内部に入り、故障の原因となります。



安全ピン、クリップなど異物を本体内部に入れてしまった

すぐに電源を切り、電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜き、ご購入元または、NECにお問い合わせください。

参照

NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』



CD-ROMなどを利用中に本体から異常な音をする

CD-ROMなどにラベルなどを貼っていませんか？

CD-ROMなどにラベルなどを貼ると、回転時にバランスがとれず、異常な音が出る場合があります。

CD-ROMなどの表面にはラベルなどを貼らないでください。

はじめて電源を入れたら

買ってきて、はじめてパソコンを使うときは、まず、設定などの作業が必要です。

参照 『はじめにお読みください』



セットアップの途中で、誤って電源を切ってしまった

電源スイッチを押して電源を入れてください。「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されたら、そのままセットアップを続けてください。電源を入れても何も表示されなかったり、エラーメッセージが表示された場合は、再セットアップが必要になります。本書の「PART5 再セットアップするには」をご覧ください、再セットアップをしてください。

参照 再セットアップ→「PART5 再セットアップするには」(P.141)



ハードウェアの検出中にパソコンが動かなくなった(フリーズした)

Windowsのセットアップでは、正常に処理が行われていても、同一画面のままで数分間、その状態が続くことがあります。すぐに電源は切らないでください。

十分待っても画面の表示が変わらないときや、Windowsのセットアップ中ではないのにパソコンが反応していないとき(ハードディスクアクセスランプが点滅しないときなど)は、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、5秒以上待ってから、もう一度電源を入れます。再起動後、このページの「セットアップの途中で、誤って電源を切ってしまった」と同じ手順で問題を解決してください。



電源を入れたが

電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。電源を入れたときにトラブルが発生したら、こちらをご覧ください。



電源が入らない / ディスプレイに何も表示されない

ディスプレイの電源ランプは点灯していますか？

ディスプレイの電源ランプが点灯していないときは、ディスプレイのマニュアルに従って、電源を入れてください。

それでも点灯しないときは、『はじめにお読みください』をご覧くださいになり、ディスプレイの電源ケーブルを接続し直してください。

もう一度、ディスプレイの電源を入れても、ディスプレイの電源ランプが点灯しないときは、ディスプレイの故障が考えられます。ご購入元または、NECにお問い合わせください。

参照

▶ NECのお問い合わせ先 → 『121wareガイドブック』

ディスプレイケーブルが本体に正しく接続されていますか？

『はじめにお読みください』をご覧くださいになり、ディスプレイケーブルを接続し直してください。

パソコン本体の電源ランプは点灯していますか？

パソコン本体の電源ランプが点灯していないときは、一度、電源ケーブルをコンセントから抜き、『はじめにお読みください』に従って、もう一度電源ケーブルを接続し直してください。

電源ケーブルを接続し直して、電源を入れても本体の電源ランプが点灯していないときは、本体の故障が考えられます。ご購入元または、NECにお問い合わせください。

参照

▶ NECのお問い合わせ先 → 『121wareガイドブック』

ディスプレイの輝度(明るさ)コントラストが、小さくなっていますか？

ディスプレイのマニュアルを見て、画面の輝度とコントラストを調整してください。

これらのチェックを行ってもディスプレイに何も表示されないときは、パソコン本体やディスプレイの故障が考えられます。ご購入元または、NECにお問い合わせください。

参照

NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』



「ピーッ」という音がしない

画面になにか表示されていますか？

画面になにも表示されていないときは、「電源が入らない」/ディスプレイに何も表示されない(P.104)をご覧ください。

スピーカのボリュームが小さくなっていますか？

PART1 の「サウンド機能」(P.45)をご覧ください。スピーカのボリュームを調節してください。



CRTディスプレイの画面の色が部分的におかしい

テレビや、ステレオのスピーカなど、CRTディスプレイのそばに強力な磁気を発生する電気製品がありませんか？

強力な磁気を発生する電気製品があるときは、その電気製品の電源を切るか、CRTディスプレイから遠ざけてください。なお、添付のスピーカは防磁設計されているので、CRTディスプレイのそばで使っても問題ありません。

CRTディスプレイの消磁は行ってみましたか？

CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。画面を消磁してください。

メモ

強力な磁気を発生する電気製品などによって、画面自身が磁気を帯びてしまうことがあります。その電気製品の電源を切ったり、ディスプレイから遠ざけても、画面の色がおかしいときは、消磁(デガウス)を行ってください。



電源を入れてしばらくすると、画面が真っ暗になる

電源を入れてしばらくすると画面が真っ暗になる場合、次の原因が考えられます。

- 自動的に休止状態やスタンバイ状態になった
本機は、指定された時間内に何も操作しなかったりハードディスクなどへのアクセスがなかった場合、自動的に休止状態やスタンバイ状態にする機能があります。ご購入時の状態では、約20分間で休止状態になるように設定されています。
設定の変更方法については、PART1 の「省電力の設定を変える」(P.44)をご覧ください。

次の点を確認してみてください。

- パソコン本体とディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯しているとき

スタンバイ状態になっていると考えられます。マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー()を押すと、画面が表示されます。それでも画面が表示されない場合は、もう一度同じ操作をしてください。

【スリープ】ボタン、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタンを除く



チェック!

電源が入っているときやスタンバイ状態のときに、電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れてしまうので、注意してください。スタンバイ状態のときに強制的に電源を切ると元の状態に復帰できなくなります。

- 本体の電源ランプが消灯、ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯しているとき
休止状態になっていると考えられます。電源スイッチを押すと、画面が表示されます。
- ディスプレイの省電力機能が働いた
添付されているディスプレイは省電力機能に対応しているので、「コントロールパネル」→「電源の管理」→「電源設定」タブで省電力の設定をすると、設定した時間になると、ディスプレイを省電力モードにしたり、ディスプレイの電源を切ったりできます。
ディスプレイの省電力機能が働くと本体の電源ランプが緑色に点灯し、ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯します。マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキーを押すと、画面が表示されます。



Windowsが起動しない

いったん電源を切り、セーフモードで起動して問題を解決してください。セーフモードで起動できない場合は、Windows Me起動ディスクを使って起動してください。

- セーフモードで起動して問題を解決する

セーフモードは、Windowsの正常な起動を行えるようにするための、特殊な診断モードです。以下の手順でセーフモードを起動させてください。

1 本機の電源を入れる

2 「NEC」のロゴの画面が表示されたら、すぐに【Ctrl】を「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されるまで押し続ける

【Ctrl】を押し続けても「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されない場合は、再起動して「NEC」のロゴ画面が表示された後、すぐに【F8】を何回か押してください。

3 「3.Safe mode」を選択し、【Enter】を押す

Windowsがセーフモードで起動します。

Windowsの「ヘルプとサポート」の「セーフモードに関するトラブルシューティング」が表示されます。必要であれば「ヘルプとサポート」の指示にしたがって問題を解決してください。

セーフモードで起動すると画面のデザイン、配色や解像度などが通常とは異なりますが、必要最低限の機能は使えるようになります。ただし、CD-R/RWドライブやプリンタ、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、【スリープ】ボタンなどは使えません。

セーフモードで起動した後、「スタート」メニューの「Windowsの終了」をクリックし、「再起動」を選択して「OK」をクリックします。再起動して問題がなければ、元の状態に戻ります。

セーフモードで起動し、「ヘルプとサポート」の指示にしたがったり、スキャンディスクを実行後に再起動しても問題が解決しなかったときは、システムに障害が発生している可能性があります。その場合は再セットアップが必要になりますので、「PART5 再セットアップするには」(P.141)をご覧ください。再セットアップをしてください。

セーフモードで起動できなかった場合は、次の「Windows Me起動ディスクから起動する」をご覧ください。

● Windows Me起動ディスクから起動する

Windows Me起動ディスクは、ハードディスクからWindows Meが起動できなくなったときに、フロッピーディスクからWindows Meのシステムを起動するためのものです。「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で作成できます。システムが起動しなくなったときのために、Windows Me起動ディスクを作成しておくことをおすすめします。

1 電源スイッチを4秒以上押して、電源を切る

2 5秒以上待ってから電源を入れ、すぐにフロッピーディスクドライブにWindows Me起動ディスクをセットする

3 「Start Computer with CD-ROM support.」を選択して、【Enter】を押す
しばらくすると、「キーボードのタイプを判定します」と表示されます。

4 【半角/全角/漢字】を押す
「106キーボードが選択されました」と表示されます。
しばらくするとコマンドプロンプト(A:\>_)が表示されます。

5 キーボードから次のように入力する
c:【Enter】
scandisk c:【Enter】
スキャンディスクが実行され、ハードディスクのチェックが始まります。
「クラスタスキャンを実行しますか?」というメッセージが表示されます。

6 <いいえ(N)>を選択し、【Enter】を押す

7 【X】を押す

スキャンディスクが終了します。ハードディスクから再起動したいときは、Windows Me起動ディスクを取り出してから電源を切り、5秒以上待ってから電源を入れなおしてください。

スキャンディスクを行っても、Windowsが起動しなかったり、重大な問題が発見されたというメッセージが表示された場合は、再セットアップを行ってください。

システムの設定を購入時の状態に戻して再起動してください。
システム(BIOSセットアップメニュー)の設定が正しくない可能性があります。
次の手順でシステムの設定を購入時の状態に戻して再起動してください。

別売の拡張ボードを取り付けている場合は、そのボードを取り外す

参照 ▶ ボードの取り外し方→PART2の「PCIボードを使う」(P.79)

システムの設定を購入時の状態に戻す

参照 ▶ システムの設定を購入時の状態に戻す→PART4の「購入時の状態に戻す」(P.138)



BIOSセットアップメニューで設定したパスワードは初期値には戻りません。

それでもWindowsが起動しない場合は、セーフモードでWindowsを起動して問題を解決してください。



「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示され、
「Enter a choice:」に「3 (3.Safe mode)」が表示される

前回パソコンを使ったときに、何らかのトラブルが発生したものと考えられます。Windowsを正常に動作させるために、次の手順で、一時的にWindowsをセーフモードで起動してください。

1 「Safe mode」が反転表示されているのを確認して、【Enter】を押す

Windowsがセーフモードで起動します。

Windowsの「ヘルプとサポート」の「セーフモードに関するトラブルシューティング」が表示されます。必要であれば「ヘルプとサポート」の指示にしたがって問題を解決してください。

セーフモードで起動すると画面のデザイン、配色や解像度などが通常とは異なりますが、必要最低限の機能は使えるようになります。ただし、CD-R/RWドライブやプリンタ、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、【スリープ】ボタンなどは使えません。「スタート」メニューの「Windowsの終了」をクリックし、「再起動」を選択して「OK」をクリックすると再起動します。問題がなければ、元の状態に戻ります。

セーフモードで起動し、「ヘルプとサポート」の指示にしたがったり、スキャンディスクを実行後に再起動しても問題が解決しなかったときは、システムに障害が発生している可能性があります。その場合は再セットアップが必要になりますので、「PART5 再セットアップするには」(P.141)をご覧ください。再セットアップをしてください。



自動的にスキャンディスクが始まった

ハードディスクに異常がないかチェックが行われます。異常がなければ、Windows が起動します。

正常に起動しなかったときは、画面の指示に従ってください。再セットアップの必要があるときは、再セットアップしてください。



前回、電源を切ったときに、正しく電源を切らなかったときや、スタンバイ状態のときに、電源ケーブルがACコンセントから抜けたり停電したりすると、起動時に自動的にスキャンディスクが始まる場合があります。スキャンディスクを実行してシステムファイルに異常が見つかったときや、スキャンディスクで異常は見つからないがうまく起動できない、あるいは動作が不安定なときは、再セットアップが必要になります。定期的にスキャンディスクプログラムを実行してディスクに異常がないかどうか確認してください。



- ・再セットアップ→「PART5 再セットアップするには」(P.141)
- ・スキャンディスク→Windowsの「ヘルプとサポート」



「Invalid system disk Replace the disk....」と表示される

フロッピーディスクがセットされている場合

フロッピーディスクから起動したいときは、システムの入ったフロッピーディスクをセットし直して何かキーを押してください。ハードディスクから起動したいときは、フロッピーディスクを取り出して、電源を入れ直し、再起動してください。

フロッピーディスクがセットされていない場合

Windows Me起動ディスクを使って本機を起動し、スキャンディスクを実行して、ハードディスクを調べてください。

問題が発見された場合は画面の指示に従ってください。スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は、「システムの復元」を行ってみてください。それで問題が解決しない場合は、本書の「PART5 再セットアップするには」(P.141)をご覧ください、再セットアップしてください。

また、ハードディスクがフォーマットされただけでWindows Meがインストールされていない場合も、再セットアップしてください。



Windows Meでフォーマットしただけでシステムの入っていないフロッピーディスクがセットされていたり、フォーマットされただけのハードディスクが接続されているとこのようなメッセージが表示されます。



電源を入れるとピーッと音がするまたは何かメッセージが表示されるまたは何も表示されない

フロッピーディスクがセットされている場合

フロッピーディスクがセットされている場合は、そのフロッピーディスクにシステムが入っていないか、本機では扱えないフロッピーディスクであることを示しています。フロッピーディスクから起動したい場合は、本機で利用できるシステムの入ったフロッピーディスクをセットし直して、何かキーを押すか再起動してください。

ハードディスクから起動したい場合は、フロッピーディスクを取り出して、電源を入れ直し、再起動してください。



本機で利用できるフロッピーディスクについて→PART1の「フロッピーディスク」(P.28)

フロッピーディスクがセットされていない場合

フロッピーディスクがセットされていないのに起動時にエラーメッセージが表示されたりする場合は、メッセージや症状を書き留めて、ご購入元または、NECにお問い合わせください。

 参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』



エラーメッセージが表示された

エラーメッセージをメモして、ご購入元または、NECにお問い合わせください。

 参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』



Windows起動時に、「コンピュータは何度かスタンバイ状態になり応答を停止しました。今後、スタンバイ状態にならないようにしますか？」とメッセージが表示された

「いいえ」を選択してください。「はい」を選択すると、以後スタンバイ機能が使えなくなります。



パスワードを忘れてしまった

BIOSセットアップメニューのパスワード(ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード)の場合

BIOSセットアップメニューで設定したパスワードを忘れてしまった場合は、PART4の「パスワードの解除」(P.139)をご覧ください。パスワードを解除した後、再設定してください。

Windowsのパスワードの場合

Windowsのパスワードを忘れてしまった場合は、パスワードの入力画面が表示されているときに【Esc】を押すと、Windowsが起動します。本体は使用できますがネットワークには接続できなくなります。再設定したい場合には、再セットアップが必要になりますので、本書の「PART5 再セットアップするには」(P.141)をご覧ください。再セットアップしてください。



Windowsのパスワードは、ネットワークの設定などをしたら、設定されるようになります。ネットワークへのログインパスワードについては、ネットワーク管理者にご相談ください。

電源を切ろうとしたが

電源を切ろうとしたときにトラブルが発生したら、こちらをご覧ください。本機の電源は正しい手順で切ってください。手順を守らないと、データやプログラム、本機がこわれてしまう場合があるので、特に注意してください。



電源を切れない。強制的に電源を切りたい

本機の電源を切るときは、次の「正しい電源の切りかた」の手順で操作してください。

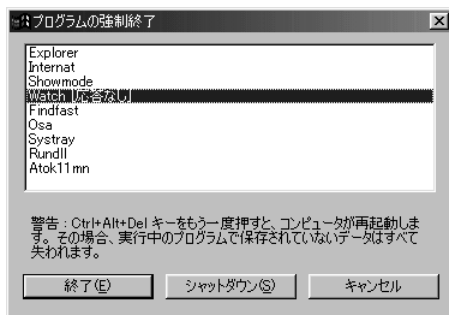
正しい電源の切りかた

「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックし、「終了」が選択されていることを確認して、「OK」をクリックします。しばらくすると、自動的に電源が切れます。

この方法で電源を切れないときには、アプリケーションに異常が起きていると考えられます。次の「プログラムの強制終了」に従ってください。

プログラムの強制終了

【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Delete】を同時に押すと、「プログラムの強制終了」の画面が表示されます。



プログラム名の右側に「応答なし」と表示されているプログラム(アプリケーション)をクリックし、「終了」をクリックします(このアプリケーションで編集した文書、画像などは保存できません)。この方法で異常が起きていたアプリケーションを終了できたら「スタート」ボタン→「Windowsの終了」を選択して、正しい手順で電源を切ってください。

この方法でも電源を切れないときは、次の「強制的に電源を切る方法」に従ってください。

強制的に電源を切る方法

本体の電源スイッチを4秒以上押し続けてください。



- ・ 強制的に電源を切った場合は、電源を入れ直してWindowsを起動した後、もう一度正しい手順で電源を切ってください。
- ・ Windowsセットアップ中には、動作が止まったように見えても、セットアッププログラムは動作していることがあります。画面表示をよく確認し、正常動作中は電源を切ったりしないでください。



電話回線を使用中のまま、パソコンの電源を切ってしまった

パソコンに異常がある場合、電源を切っても電話回線が切断されないことがあります。

いったんパソコンの電源ケーブルを抜いてください。電話回線が切断されます。

パソコンの電源を切ると、ダウンロード中のデータは正常に保存されません。



チェック!!

電話回線を使うアプリケーションを起動しているときは、アプリケーションを終了してから電源を切ってください。



画面がおかしい

参照 PART1の「ディスプレイ」(P.22)またはディスプレイに添付のマニュアル



画面の表示位置やサイズがおかしい

セットのディスプレイを使っているとき

ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

また、表示できる解像度と表示色についてはPART1の「ディスプレイ」(P.22)も合わせてご覧ください。

別売のディスプレイを使っているとき

ディスプレイで表示位置やサイズを調節できることがあります。詳しくはディスプレイのマニュアルをご覧ください。

マウスを動かしても

正常な状態では、マウスを動かすと、画面のマウスポインタが移動します。マウスポインタは    など、マウスポインタの位置やパソコンの動作状態によって形が変わることがあります。

参照

マウスの設定を変えるには→Windowsの「ヘルプとサポート」マウスのプロパティのヘルプ



マウスを動かしても、何も反応しない

マウスポインタが砂時計の形になっていませんか？



砂時計のマウスポインタ

マウスポインタが砂時計の形になっているときは、パソコンがプログラムの処理をしているので、マウスの操作は受け付けられません。処理が終わるまで待ってください。



 の形になっているときは、処理の途中でも、マウスの操作を受け付けられます。

マウスとキーボード、キーボードと本体の接続を確認してください。

『はじめにお読みください』をご覧ください。マウスとキーボードと本体を接続しなおしてください。マウスのコネクタがキーボードから抜けていたり、きちんと差し込まれていないとマウスの操作はできません。

しばらく待っても、マウスの操作ができないとき

プログラムに異常が発生して動かなくなった(フリーズした)と思われます。Windowsの処理を止めているアプリケーションを強制終了してください。保存していないデータはなくなります。

参照

プログラムの強制終了の方法→このPARTの「電源を切ろうとしたが」(P.113)

キーボードを使っていたら

漢字やひらがななど、日本語の文字を入力するときは、【半角/全角/漢字】を押して、日本語入力をオンにします。

参照

キーボードの設定を変えるには→Windowsの「ヘルプとサポート」、キーボードのプロパティのヘルプ



ひらがなや漢字の入力(日本語入力)ができない

スタートメニューに「VALUESTARを使う準備をします」がありますか？
スタートメニューに「VALUESTARを使う準備をします」があるところのパソコンで日本語入力ができる準備が整っていないため、日本語入力できません。
「スタート」ボタン→「VALUESTARを使う準備をします」をクリックしてください。



キーボードのキーを押しても、何も反応しない

マウスポインタが砂時計の形に変わっていませんか？



砂時計のマウスポインタ

マウスポインタが砂時計の形になっているときは、パソコンがプログラムの処理をしているので、キーボードからの操作は受け付けられません。処理が終わるまで待ってください。

キーボードと本体の接続を確認してください。

『はじめにお読みください』をご覧ください。キーボードと本体を接続しておしてください。

キーボードのコネクタが本体から抜けていたり、きちんと奥まで差し込まれていないとキーボードの操作はできません。

しばらく待っても、キーボードの操作ができないとき

プログラムに異常が発生して動かなくなった(フリーズした)ものと思われます。Windowsの処理を止めているアプリケーションを強制終了してください。アプリケーションの強制終了ができない場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切ってください。このとき、保存していなかったデータはなくなります。

参照

プログラムの強制終了の方法→このPARTの「電源を切ろうとしたが」(P.113)

キーボードを使っていたら



アプリケーションを使っていたら

アプリケーションを使っていてトラブルが起きたときはここを見てください。



休止状態またはスタンバイ状態から復帰しない

そのアプリケーションは休止機能またはスタンバイ機能に対応していますか？

対応していないアプリケーションで休止機能またはスタンバイ機能を使うと、正常に動作しなくなることがあります。対応していないアプリケーションでは、休止機能またはスタンバイ機能は使わないでください。休止状態から復帰しない場合は、「省電力機能を使おうとしたら」の「休止状態からの復帰(再開)」に失敗した(P.127)をご覧ください、対処してください。

スタンバイ機能を使って、電源を切ることができなくなったときは、電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ってください。



休止機能、スタンバイ機能 → PART1の「省電力機能」(P.38)



アプリケーションが起動しなくなった

他のアプリケーションを起動していませんか？

すでに他のアプリケーションが起動しているときは、それらを終了してから、起動してみてください。それでも起動しないときは、パソコンを再起動してください。



- ・トラブルを予防するために、メンテナンスウィザードで登録したシステムツールで、定期的にチェックをすることをおすすめします。
- ・複数のアプリケーションが起動していると、メモリが不足して、新にアプリケーションを起動できないことがあります。

アプリケーションを起動するのに必要なだけのメモリはありますか？

アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量は、そのアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

本機には、購入時には64 Mバイトのメモリが搭載されています。それ以上のメモリが必要な場合は、メモリを増設してください。

参照 メモリを増設するには→PART2の「メモリを増やす」(P.74)

ファイルサイズの大きな壁紙を使っていませんか？

ファイルサイズの大きな壁紙を使っていると、メモリが不足してアプリケーションを起動できなくなることがあります。壁紙のファイルサイズを確認して、ファイルサイズの小さい壁紙に変更してください。

そのアプリケーションは休止状態やスタンバイ状態に対応していますか？

対応していないアプリケーションで休止状態やスタンバイ状態にすると、正常に動作しなくなることがあります。対応していないアプリケーションでは、休止状態やスタンバイ状態にしないでください。この機能を使って電源を切ることができなくなったときには、電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ってください。

参照 休止状態、スタンバイ状態→PART1の「省電力機能」(P.38)



アプリケーションが突然止まった(フリーズした)

Windowsでアプリケーションを使っていると、突然キーボードやマウスの操作ができなくなってしまうことがあります。パソコンが故障したわけではありません。この原因はさまざまですが、停止してしまったアプリケーションだけを強制的に終了させることで、Windowsの操作を続けることができます。「電源を切ろうとしたが」の「プログラムの強制終了」(P.113)にしたがって、アプリケーションを終了させてください。



チェック!

「例外エラー」、「一般保護違反」などの画面が表示された場合、強制終了したり、電源スイッチを押したりする前に、メッセージの内容やエラーコードの内容をP.99のトラブルチェックシートにメモしておいてください。お問い合わせの際、トラブルの原因を調べるのに役立ちます。



「リソースが足りない」という意味のメッセージが表示されて、アプリケーションが正常に動作しない

複数のアプリケーションを同時に起動していると、メモリが不足して新たなアプリケーションを起動できなくなることがあります。すでに複数のアプリケーションが起動しているときには、使わないアプリケーションを終了してから新しいアプリケーションを起動してください。それでもアプリケーションが起動しない場合は、パソコンを再起動してください。

周辺機器を取り付けようとしたら

周辺機器を取り付けるときは、周辺機器のマニュアルを見て接続してください。

参照

周辺機器に添付のマニュアルまたは、本書の「PART2 周辺機器を利用する」(P.49)



新しく周辺機器を取り付けたらWindowsが起動しなくなった
このようなときは周辺機器のドライバが原因でWindowsが起動できなくなったと考えられます。

セーフモードでWindowsを起動して、トラブルになったドライバを無効にし、正しいドライバをインストールするか、ドライバそのものを削除する必要があります。

次の手順で、セーフモードで本機を起動してドライバを設定してください。

- セーフモードでWindowsを再起動する

1 パソコンの電源を入れる

2 「NEC」のロゴ画面が表示されたら、【Ctrl】を押し続ける

【Ctrl】を押し続けても「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されない場合は、再起動して「NEC」のロゴ画面が表示された後、すぐに【F8】を何回か押してください。

「ヘルプとサポート」の「セーフモードに関するトラブルシューティング」が表示されます。

3 をクリックして「ヘルプとサポート」を終了する



チェック

セーフモードで起動しなかったときは、もう一度、上記の手順1～3を行ってください。

- 新しく取り付けた周辺機器のドライバを無効にする

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」「コントロールパネル」の順にクリック

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2 「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリック
デバイスマネージャが表示されます。

 **チェック!** コントロールパネルに「システム」アイコンが表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

- 3 追加した周辺機器のアイコンをダブルクリック
選択した周辺機器のプロパティが表示されます。
- 4 「全般」タブをクリックし、「すべてのハードウェア プロファイルで使用する」の ☒ をクリックして ☐ (オフ)にする
- 5 「OK」をクリック
周辺機器のプロパティが閉じられます。
- 6 「閉じる」をクリック
- 7 パソコンを再起動する
通常モードでWindowsが起動します。

 **チェック!** この方法でもパソコンが起動しないときは、パソコンの電源を切ってから新しく取り付けた周辺機器を外してください。

- 周辺機器を使いたいときはドライバを更新する
周辺機器の最新のドライバを用意してください。

- 1 前ページの「新しく取り付けた周辺機器のドライバを無効にする」の手順1から3を行う
- 2 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリック
以降は画面の指示に従ってください。



最新のドライバは周辺機器メーカーのホームページなどでダウンロードしてください。また、Windows Updateを行うと最新のドライバをダウンロードでき、周辺機器のドライバを更新できることがあります。Windows Updateをするには「スタート」ボタン→「Windows Update」をクリックしてください。

なお、これらの操作を行うには、本機がインターネットに接続できる状態になっている必要があります。



「Windows Me CD-ROM ラベルの付いたディスクを挿入して [OK] をクリックしてください。」というメッセージが表示されたプリンタなどの周辺機器に添付されているフロッピーディスクからドライバをインストールする場合に表示されることがあります。この場合、次のようにして対処してください。

- 1 「OK」をクリック
「ファイルのコピー元」を入力する画面が表示されます。
- 2 「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥INSTALL」と入力し、「OK」をクリック
以降は画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



「ドライバが見つかりません」と表示されてドライバのインストールができない

新しく周辺機器を接続して、周辺機器に添付されているWindows Me用のドライバディスクなどからドライバをインストールする場合、次のようにして対処してください。

- 1 「新しいハードウェアの追加」ウィンドウで、「完了」をクリックし、処理を終了させる
- 2 コントロールパネルを開き、「システム」をダブルクリック
「システムのプロパティ」が表示されます。



チェック!

「システム」アイコンが表示されていない場合は、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリック
デバイスの一覧が表示されます。
- 4 「その他のデバイス」の左の $\oplus$ をクリック
- 5 該当するデバイス名をクリックし、「プロパティ」をクリック
- 6 「ドライバ」タブをクリック
- 7 「ドライバの更新」をクリック
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 8 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択して、「次へ」をクリック
- 9 「現在使用しているドライバよりさらに適したドライバを検索する(推奨)」が選択されていることを確認して、「検索場所の指定」の $\square$ をクリックして $\checkmark$ にする
- 10 周辺機器のマニュアルなどを確認し、ドライバの入っているフォルダを指定する
- 11 「次へ」をクリック

以降は画面の指示にしたがって、ドライバをインストールしてください。詳しくは、周辺機器のマニュアルをご覧ください。



PCIボードを取り付けたが動作しない。PCIボードを取りつけたらパソコンが起動しなくなった。他の機能が使えなくなった

PCIボードのドライバは組み込まれていますか？

PCIボードを動作させるためには、ドライバが必要です。PCIボードに添付のマニュアルをご覧になり、ドライバを組み込んでください。ドライバを組み込んでいるにもかかわらず、動作しない場合は、最新のドライバを用意してください。お持ちのドライバが最新かどうかわからないときは、各メーカーへお問い合わせください。

割り込みが不足していませんか？

PCIボードをパソコンに取り付けようとしても、割り込みレベルが不足していることがあります。そのときは、BIOSセットアップメニューで、使っていないデバイスの割り込みを、「使用しない」に設定してください。例えば「シリアルポートA」を「使用しない」に設定すると、それまでシリアルポートに割り当てられていた割り込みをPCIボードに割り当てることができます。

例)

- 1 本機の電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴの画面が表示されたら、【F2】を押してBIOSセットアップメニューを起動させる
- 3 BIOSセットアップメニューの「詳細」→「周辺機器設定」→「シリアルポートA」の設定を「使用しない」にする
- 4 【F10】を押し、【Enter】を押してBIOSセットアップメニューを終了させ、再起動する



最新のドライバは周辺機器メーカーのホームページなどでダウンロードしてください。また、Windows Updateを行うと最新のドライバをダウンロードでき、周辺機器のドライバを更新できます。Windows Updateするには「スタート」ボタン→「Windows Update」をクリックしてください。

なお、これらの操作を行うには、本機がインターネットに接続できる状態になっている必要があります。

省電力機能を使おうとしたら

本機は、指定された時間内にキーボードやマウスなどからの入力がない場合、自動的に休止状態やスタンバイ状態にする機能があります。

参照 ▶ 休止状態、スタンバイ状態 → PART1の「省電力機能」(P.38)



休止状態やスタンバイ状態にする前の状態の画面が表示されない

アプリケーションや周辺機器は休止状態やスタンバイ状態に対応していますか？

休止状態やスタンバイ状態に対応していないアプリケーションや周辺機器で休止状態やスタンバイ状態にしようとする、正常に動作しなくなることがあります。このようなアプリケーションや周辺機器を使うときは、休止状態やスタンバイ状態にしないでください。

スタンバイ状態にしていた場合、電源ケーブルは正しく接続されていますか？

電源ケーブルをコンセントに接続します。正しく接続されていなかった場合、作業内容は保持されません。

スタンバイ状態のときに停電したり、電源ケーブルが抜けたりしませんでしたか？

スタンバイ状態のときに停電したり、電源ケーブルが抜けたりすると、保持(記憶)した内容は消えてしまいます。

スタンバイ状態のときやディスプレイの省電力機能によって画面が暗くなっているときに、電源スイッチを4秒以上押しつづけていませんか？

スタンバイ状態のときやディスプレイの省電力機能によって画面が暗くなっているときに、電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源が切れ、保持(記憶)した内容は消えてしまいます。

画面が暗くなったままもとに戻らないときは、電源スイッチを4秒以上押しつづけて強制的に電源を切ってください。



自動的に休止状態やスタンバイ状態になってしまう

本機には、指定された時間内に何も操作しなかったりハードディスクなどへのアクセスがなかった場合、自動的に休止状態やスタンバイ状態にする機能があります。ご購入時の状態では、20分間で休止状態になるように設定されています。設定の変更方法については、PART1の「省電力機能」の「省電力の設定を変える」(P.44)をご覧ください。



休止状態からの復帰(再開)に失敗した

Windowsが起動する場合

Windowsの「ヘルプとサポート」をご覧ください、対処してください。

参照

ヘルプとサポート→トラブルシューティング→ハードウェアとシステムデバイスに関する問題→システムデバイスと電源の管理に関するトラブルシューティング



チェック!

休止状態からの復帰に失敗している場合は、Windowsが起動しても、休止状態にする前の作業内容が復元されないことがあります。保存していないデータは失われてしまいますので、休止状態にする前に、必要なデータは必ず保存するようにしてください。

Windowsが起動しない場合



チェック!

次の操作を行って、Windowsが正常に起動しても休止状態にする前の作業内容は復元されません。保存していないデータは失われてしまいますので、休止状態にする前に、必要なデータは必ず保存するようにしてください。

休止状態の間に、コンピュータの設定を変更したり、周辺機器などの機器構成を変更しませんでしたか？

休止状態(ハイバネーション)のときに本機の設定を変更したり、周辺機器などの機器構成を変更すると、Windowsが起動しなくなることがあります。このような場合は、設定や機器構成を元の状態に戻してから電源スイッチを操作してください。

また、電源を入れたときに「 Previous resume from hibernate failed.Would you like to try again[Enter=Y,Esc=N]? 」というメッセージが表示された場合は【N】を押すと、通常どおり本機を起動できます。

上記の手順でもWindowsが起動しない場合には、次の手順でハイバネートファイルを削除してください。

- 1 Windows Me起動ディスクをセットして、本体の電源スイッチを押す。
- 2 スタートアップメニューが表示されたら、【↑】と【↓】を使って、[Start computer with CD-ROM support]を選択し、【Enter】を押す
- 3 コマンドプロンプトが表示されたら、次のように入力する
c:【Enter】
cd windows【Enter】
attrib -r -a -s -h vmmhiber.w9x【Enter】
del vmmhiber.w9x【Enter】
- 4 フロッピーディスクドライブからWindows Me起動ディスクを取り出す
- 5 コンピュータを再起動する



休止状態またはスタンバイ状態にしようとしたら「デバイスドライバかプログラムが原因で待機モードに入れません。すべてのプログラムを終了してから、もう一度やり直してください。」と表示された。または休止状態やスタンバイ状態にできない

実行中のプログラムをすべて終了してから、もう一度設定をやり直してください。電話回線を使用中のときは、回線を切ってから休止状態またはスタンバイ状態にしてください。

その他

これ以前のところで質問が見つからなかったときは、ここを見てください。



コンピュータウイルスが検出された

VirusScanなどによってコンピュータウイルスに感染したファイルが検出されたら、すぐにウイルスを駆除し、被害を届け出てください。



チェック!

VirusScanは購入時の状態ではインストールされていません。お使いになる場合は、「スタート」ボタン→「ヘルプ」→「サポートセンタ」→「アプリケーションの追加と削除」の「VirusScan」を参照してVirusScanをインストールしてください。

● ウイルスを駆除する

ウイルスを駆除するには、ウイルスが感染したファイルを削除するのが最も確実です。アプリケーションのファイルであれば、削除してインストールし直してください。バックアップがあるファイルは、削除した後、コピーし直してください。バックアップファイルも感染している可能性があるので、ウイルス検査をしてください。

削除できないファイルの場合は、「VirusScan」などのウイルス除去機能があるソフトウェアでそのファイルのウイルスを除去してください。さらに、2次感染を防ぐため、使っていたハードディスク、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW、MO（光磁気ディスク）などはすべてウイルス検査をしてください。

本機に添付のVirusScanでは新種のウイルスを検出できない場合があります。

常に新種のウイルスに対応するためには、ウイルス定義ファイル（DAT）とスキャンエンジン（ウイルス検出エンジン）の更新が必要です。なお、スキャンエンジンの更新にはユーザ登録が必要です。

詳しくは、「スタート」「プログラム」「McAfee ウィルススキャン」「ウィルススキャン ユーザー登録」をご覧ください。

● 検査結果を届け出る

日本では、コンピュータウイルスを発見したら、企業、個人に関わらず、次の届け出先に届けることが義務づけられています（1997年9月24日付通商産業省告示第535号）。届け出をしなくても罰則の規定はありませんが、被害対策のための貴重な情報になるので積極的に報告してください。

● 届け出先

情報処理振興事業協会(通称IPA)セキュリティセンターウイルス対策室

本部 〒113-6591 東京都文京区本駒込2丁目28番8号

文京グリーンコート センターオフィス16階

電話 03-5978-7509

FAX 03-5978-7518

ホームページアドレス <http://www.ipa.go.jp/>



VirusScanのエマージェンシーディスクでのウイルスの検索が最後まで行われない

次の手順に従って、もう一度ウイルスの検索を行ってください。



チェック!! エマージェンシーディスクウィザードで作成したエマージェンシーディスク #2 は使用しません。

- 1 Windowsを終了する
- 2 エマージェンシーディスク #1をフロッピーディスクドライブに挿入し本機を起動する
- 3 「エマージェンシーディスク #2に差し替えて、キーボードからEdWiz16と入力し、リターンキーを押してください。」と表示されたら、VirusScanをインストールしたフォルダから「scan.exe/ADL/ALL/CLEAN」を実行する
例)インストール時にインストール先を変更していない場合は、下記のコマンドを入力し、【Enter】を押してください。
C:\Progra 1¥common 1¥networ 1¥virus 1¥40 1.xx¥Scan.exe/
ADL/ALL/CLEAN

4 スキャンが終了したら、本機の電源を切る



データ保護再セットアップ中にエラーメッセージが表示された

次のようなメッセージが表示される場合、データ保護再セットアップできません。

- 「Cドライブに十分な空き容量が無いため、データ保護再セットアップが完了していません。」と表示される
この場合は、次のように対処してください。

1 Windowsを起動する

「Microsoft Windowsへようこそ」が表示されます。

2 Windowsの設定をする

参照 Windowsの設定→PART5の「購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード」の「3.Windowsの設定をする」(P.151)

3 バックアップ-NXを使って、データをDドライブにバックアップする

参照 バックアップ-NXの使い方→バックアップ-NXのヘルプ

4 「Cドライブのみ再セットアップ」を行う

参照 Cドライブのみ再セットアップ→PART5の「Cドライブのみ再セットアップする - カスタムモード」(P.164)

5 手順3でDドライブにバックアップしたデータを、バックアップ-NXを使って復元する

- 「保護するデータを設定したファイルが無いか、無効なため、データ保護再セットアップモードができません。」と表示される

この場合、Windowsが起動できるときには、バックアップ-NXでCドライブ以外にデータをバックアップし、Cドライブのみ再セットアップする方法で再セットアップを行ってください。

Windowsが起動できないときには、データを保護することはできません。

標準再セットアップモード、またはカスタムモードで再セットアップを行ってください。

- 「Cドライブに十分な空き容量が無いため、データ保護再セットアップができません。」と表示される

データを保護することはできません。

標準再セットアップモード、またはカスタムモードで再セットアップを行ってください。



本機を海外で使いたい

海外では使えません。



テレビやラジオに雑音が入る

テレビ、ラジオや他の電子機器は、本機から遠ざけてください。また、本機は、それらの機器とは別のACコンセントにつないでください。



本機で使えるOSの種類を知りたい

次のOSが使えます。

- ・ 本機にあらかじめインストールされているWindows Millennium Edition(市販のWindows Meは、日本語版、英語版、ともに利用できません)

- ・ Microsoft® Windows® 2000 Professional

Windows 2000を使う場合は、アプリケーションCD-ROMにある次のファイルに書かれている説明をご覧ください。

<CD-R/RWドライブ名>:¥WIN2K¥Readme.txt

なお、標準搭載デバイスや増設機器、周辺機器、インストールアプリケーションがWindows 2000では利用できない場合があります。それらの情報は、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で、順次ご提供します。

「121ware.com」のアドレス(URL) <http://121ware.com>

なお、弊社製以外の製品については、各メーカーにお問い合わせください。



チェック! 本機では、以下のOSは利用できません。

- ・ Microsoft® Windows® 2000 Server
- ・ Windows 95
- ・ Windows 98
- ・ Windows NT

アフターケアについて



保守サービスについて

お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、ご購入元、または『121wareガイドブック』の「レスキューサービス」に記載のNECフィールディングの各支店・営業所で承っております。お問い合わせ窓口やお問い合わせの方法など、詳しくは『121wareガイドブック』または本書をご覧ください。

本機に添付されているアプリケーションに関するお問い合わせは、添付の『ソフトウェア使用条件適用一覧』に記載されている「添付ソフトウェアサポート窓口一覧」をご覧ください、各社へお問い合わせください。

また、本機と別に購入した周辺機器やメモリ、アプリケーションに関するお問い合わせは、その製品の問い合わせ先にご相談ください。



消耗品と消耗部品について

本機の添付品のうち、消耗品と消耗部品は次の通りです。

種類	概要	本機の場合
消耗品	使用頻度あるいは経過年数により消耗し、一般的には再生が不可能なもので、お客様ご自身で購入し、交換していただくものです。保証期間内であっても、有料です。	フロッピーディスク CD-ROM
消耗部品 (有償交換部品)	使用頻度あるいは経過年数により消耗、摩耗または劣化し、修理再生が不可能な部分です。NECフィールディングの各支店・営業所などで交換し、お客さまに部品代を請求するものです。保証期間内であっても有料の場合があります。	CRTディスプレイ(ブラウン管)、CPUのファン、ハードディスクドライブ、キーボード、マウス、CD-R/RWドライブ、フロッピーディスクドライブ、電源ユニット

本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後7年です。



添付品の修復、再入手方法について

本機の添付品のうち、次のものについては、修復または再入手が可能です（有料）。

- ・ フロッピーディスク
- ・ CD-ROM
- ・ NEC製のマニュアル

フロッピーディスクの修復、CD-ROMの再入手についてのお問い合わせ先は、添付の『121wareガイドブック』をご覧ください。NEC製のマニュアルの再入手についてのお問い合わせ先は、サポートセンタをご覧ください。



本製品の譲渡 / 廃棄について

本製品を第三者に譲渡する場合は、所定の条件に従ってください。
また、譲渡を受けられた場合には、所定の手続きに従って、お客様登録を行ってください。

譲渡するお客様へ

本製品を第三者に譲渡（売却）する場合は、以下の条件を満たす必要があります。

本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと

各ソフトウェアに添付されている『ソフトウェアのご使用条件』の譲渡、移転に関する条件を満たすこと

譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後、譲渡すること（本体に添付されている『ソフトウェア使用条件適用一覧』をご覧ください）



チェック!!

- ・ パソコン内のデータには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように譲渡の際には、これらの情報を削除することをおすすめします。
ハードディスクに一度記憶されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしても復元できる場合があります。市販のソフト（別売）などを使うとデータを消せます。
- ・ ご登録されている製品を第三者に譲渡（売却）する場合は、121ware（ワントゥワンウェア）登録センター（TEL: 0120-469-121）までご連絡のうえ、必ず登録削除の手続きをお願いいたします。

譲渡を受けられるお客様へ

お客様登録(ユーザ登録)に必要な下記の事項を記入し、お手数ですが官製ハガキまたは封書でお送りください。

記載内容

型名(型番)および保証番号(本体背面、側面または保証書に記載)
以前に使用されていた方の氏名、住所、電話番号もしくは中古購入
されたお店の名称、住所、電話番号
あなたの氏名、住所、電話番号

返送先

〒183-8501 東京都府中市日新町1-10(NEC府中事業場)
121ware登録センター係

本機を廃棄するには

本機の所有者が事業者の場合には、本機を廃棄するときにマニフェスト(廃棄物管理票)の発行が義務づけられています。廃棄方法およびマニフェストに関しましては、各都道府県産業廃棄物協会へお問い合わせください。

なお、本機の所有者が個人の場合には、マニフェストの発行義務はありません。廃棄方法に関しては、市町村等の各自治体にお問い合わせください。



チェック!!

- ・パソコン内のデータには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように譲渡の際には、これらの情報を削除することをおすすめします。
ハードディスクに一度記憶されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしても復元できる場合があります。市販のソフト(別売)などを使うとデータを消せます。
- ・ご登録されている製品を第三者に譲渡(売却)する場合は、121ware(ワントゥワンウェア)登録センター(TEL: 0120-469-121)までご連絡のうえ、必ず登録削除の手続きをお願いいたします。

4

本機の設定を変更する

ここでは、本機の使用環境を設定するBIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、日付と時間の設定、ハードウェア環境の確認と変更、セキュリティの設定、省電力の設定、起動デバイスからの起動順位の設定ができます。詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」→「サポートセンタ」→「ハードウェア情報」の「BIOSの設定」をご覧ください。

この章の内容

購入時の状態に戻す	138
パスワードの解除	139

購入時の状態に戻す

ここでは、BIOSセットアップメニューで変更した設定を、購入時の設定に戻す方法について説明します。各項目の設定値を変更したいときは、『サポートセンタ』の『BIOSの設定』をご覧ください。

参照 『サポートセンタ』→『はじめにお読みください』の「7 マニュアルの利用方法」

購入時の状態に戻す方法

- 1 電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「<F2>」キーを押すと、BIOSセットアップメニューを起動します。と表示されたら、すぐに【F2】を押す
「セットアップを起動しています。…」と表示された後、BIOSセットアップメニューが起動します。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ				メニューバー
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理	
システム時刻: システム日付:		[XX:XX:XX] [XXXX/XX/XX]	項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。	パラメータ
言語: フロッピーディスクA:		[日本語 (JP)] [1.44/1.25Mb 3.5"]		
▶ プライマリマスタ		[XXXXXX]		
▶ プライマリスレーブ		[XXXXXX]		
▶ セカンダリマスタ		[なし]		
▶ セカンダリスレーブ		[なし]		
▶ キーボード機能				
起動時の自己診断画面		[使用しない]		
システムメモリ:		640KB		
拡張メモリ:		××KB		
BIOS リビジョン		XXXX		
F1 ヘルプ	↑ ↓ 項目の選択	← → 値の変更	F9 デフォルトの設定	キーステータスバー
Esc 終了	→ メニューの選択	Enter サブメニューの選択	F10 保存して終了	

✓チェック! Windowsが起動した場合は、Windowsを終了して電源を切り、もう一度手順1からやり直してください。

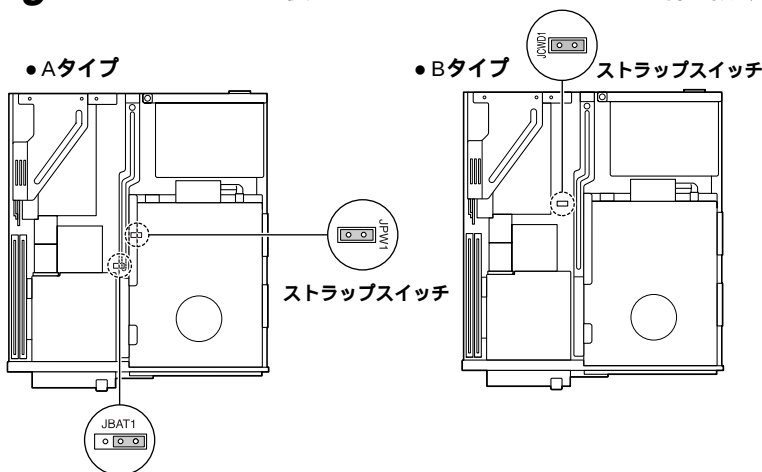
- 2 【F9】を押す
「セットアップ確認」画面が表示されます。
- 3 【← →】で「はい」を選んで【Enter】を押す
すべての設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻します。また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

パスワードの解除

本機では、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れると、本機を起動できなくなります。パスワードを忘れた場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。

パスワードを忘れた場合の手順

- 1 パソコンの電源を切り、電源ケーブルや本体背面に接続されたケーブルをすべて抜く
- 2 「ルーフカバーの取り外し (P.59) の手順でルーフカバーを取り外す
- 3 ピンセットなどを使ってストラップスイッチを上に取り外す



こちらのスイッチはストラップスイッチではありません。間違えて解除しないようにしてください。

✓ **チェック!** 抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

4 正しい順序でルーフカバーを取り付ける

 参照 ▶ ルーフカバーの取り付け方 → PART2の「ルーフカバーの取り付け」(P.61)

5 本体背面から外したケーブルを元通りに接続して、本機の電源を入れる

Windowsが起動します。

6 Windowsを終了し、本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く

7 手順3で引き抜いたストラップスイッチを元通りに差し込む ピンセットなどを使ってストラップスイッチを元通りに取り付けてください。

8 正しい手順でルーフカバーを取り付ける

9 外したケーブルを元通りに接続する

5

再セットアップするには

本機に添付されている「システムインストールディスク」や「バックアップCD-ROM」を使って、本機のシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元する方法を説明しています。

この章の内容

再セットアップについて	142
購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード	147
データを保護して再セットアップする	
- データ保護再セットアップモード	157
全領域を1パーティションにして再セットアップする	
- カスタムモード	161
Cドライブのみ再セットアップする	
- カスタムモード	164
ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする	
- カスタムモード	167



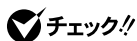
再セットアップについて

再セットアップを行うと、こわれてしまったパソコンのシステムを復旧することができます。ただし、ハードディスクに保存したファイルが消えてしまう場合があります。時間もかかる作業なので再セットアップが必要かどうかをよく確認してから始めてください。

再セットアップが必要になるとき

次のようなとき、パソコンの再セットアップが必要です。

- ・ 電源を入れても、電源ランプは点灯するが、Windowsが動作しない。
- ・ ハードディスクの中のプログラムが正常に動作しない。
- ・ ハードディスク内のシステムファイルを誤って消してしまった。
- ・ スキャンディスクを行っても修復できない。
- ・ セーフモードで起動しても問題が解決できない。
- ・ ハードディスクを1つのパーティションで利用したい。
- ・ Cドライブの容量を変えたい。



チェック!

購入時の状態では本機はFAT32に設定されています。他のOSを利用したいときや、FAT16でのみ利用できるソフトウェアを利用したいときは、カスタムモードの「ユーザ設定」を実行してFAT16を選択してください。

再セットアップに関する注意

- ・ 再セットアップは途中でやめないでください。

再セットアップを始めたら、本書の手順通りに、最後まで行ってください。途中でやめた場合は、最初から再セットアップを行ってください。

- ・ 別売のアプリケーションは再セットアップ完了後にインストールを行ってください。

別売のアプリケーションも再セットアップによってすべて消去されます。再セットアップがすべて完了してから、インストールを行ってください。

- ・ ハードディスクのボリュームラベルを確認してください。

カスタムモードで再セットアップを行う場合、ハードディスクのボリュームラベルが全角文字または半角カタカナで入力されていると、領域の削除ができません。

「マイコンピュータ」でハードディスクドライブのアイコンを右クリックして「プロパティ」で半角英数字に入力し直すか、ボリュームラベルを削除してください。

Windows が起動しない場合は、「起動ディスク」を使って本機を起動し、コマンドプロンプトから以下のように入力してボリュームラベルを変更してください。

C:¥WINDOWS¥COMMAND¥LABEL ドライブ名 :【Enter】

再セットアップの準備

- ✓ **チェック!!** 大切なデータは、再セットアップする前にバックアップをとってください。ただし、Windowsが起動しない状態や、ハードディスクドライブに深刻な障害が発生している場合は、バックアップできない場合があります。

再セットアップをするには、まず次の手順を行ってください。

1 バックアップをとる

「バックアップCD-ROM」で再セットアップできるのは、本機に購入時から入っていたソフトウェアだけです。標準再セットアップモードやカスタムモードでは、購入後に保存したファイルや、インストールしたアプリケーションは復元されません。データ保護再セットアップモードでも、復元されない場合があります。

Windowsが起動できる状態で再セットアップを行いたいときは、必ず大切なデータのバックアップをとってから再セットアップを行ってください。

大量のデータのバックアップをとる場合には、外付けのハードディスクやMOディスクなどを使用すると便利です。

- ✓ **チェック!!** <バックアップしたデータの保存先には要注意>

バックアップしたデータの保存先には注意が必要です。再セットアップすると、内蔵ハードディスクのデータはすべて消えてしまいます(「データ保護再セットアップモード」または「Cドライブのみ再セットアップする」を除く)。ハードディスクのバックアップデータも消えてしまいますので、再セットアップするときは、必ず外付けのハードディスクやフロッピーディスク、MO、Zip、CD-R/RWなどにバックアップを取るようにしてください。

再セットアップ方法	バックアップ先
標準再セットアップ (P.147)	・外付けのハードディスク ・フロッピーディスク ・MO、Zip、CD-R/RW など
全領域を1パーティションにして再セットアップする (P.161)	
ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする (P.167)	
データを保護して再セットアップする (P.157)	・Dドライブ ・外付けのハードディスク ・フロッピーディスク ・MO、Zip、CD-R/RW など
Cドライブのみ再セットアップする (P.164)	

2 パソコンの設定を控える

再セットアップを行うと、インターネットやネットワークの設定などはすべて購入時の状態に戻ってしまいます。再セットアップ後も現在と同じ設定に戻すために、インターネットやネットワークの設定を控えてください。

また、BIOSの設定を変更していた場合には、BIOSセットアップメニューを起動して、現在の設定を控え、変更した設定を購入時の状態に戻してください。

 参照 ▶ 購入時の状態に戻す → PART4 の「購入時の状態に戻す」(P.138)

3 別売の周辺機器を取り外す

添付の『はじめにお読みください』に従って、本機に付属していた機器のみを接続した状態にしてください。

増設機器が接続されたまま再セットアップを行うと、正常に動作しなくなる場合があります。

ハードディスクを増設している場合は、増設したハードディスクを取り外してから再セットアップを行ってください(ハードディスクを増設したまま再セットアップを行うと、増設したハードディスクの内容も失われる場合があります)。

4 必要なものを準備する

再セットアップの作業に入る前に、本機に添付されている、次のCD-ROM、フロッピーディスクを準備してください。

「バックアップCD-ROM」

「システムインストールディスク」

「Microsoft® Office XP Personal」CD-ROM(Office XPモデルのみ)



準備するものは、再セットアップ中に表示される「再セットアップの準備」の画面で確認して、すべて準備するようにしてください。

また、本機を購入後にインストールしたアプリケーションを、再セットアップを行った後も使用する場合は、そのアプリケーションのインストール用のディスクが必要です。

これで再セットアップの準備は完了しました。次に「再セットアップの方法」の説明をご覧ください。

再セットアップの方法

再セットアップには、「標準再セットアップモード」「データ保護再セットアップモード」「カスタムモード」の3つがあります。「カスタムモード」については、さらに3つのパターンに分かれています。ここでは、以下の5つのパターンに分けて再セットアップの手順を説明します。パソコンの利用状況に適した再セットアップ方法を選択してください。

標準再セットアップモード(P.147)

ハードディスクを購入したときと同じ状態に戻します。ハードディスクについての知識のない方は、この方法で再セットアップすることをおすすめします。

データ保護再セットアップモード(P.157)

「バックアップ・NX」で設定したデータを保護して、再セットアップします。また、Cドライブ以外のハードディスクのデータも残しておけます。Windowsが起動しない場合は、この方法で再セットアップすることをおすすめします。

カスタムモード

- 全領域を1パーティションにして再セットアップする(P.161)
Dドライブを作成しないですべての領域をCドライブにして再セットアップします。Cドライブのハードディスク容量を最大にすることができます。
- Cドライブのみ再セットアップする(P.164)
Cドライブの容量を変更しないで、Cドライブのみを再セットアップするときに、この方法で再セットアップします。Cドライブ以外のハードディスクのデータを残しておくことができます。
- ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする(ユーザ設定)(P.167)
FDISKコマンドを使って、ハードディスクの領域を変更して再セットアップすることができます。Cドライブのハードディスク容量を変更したいときはこの方法で再セットアップします。

購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード

「標準再セットアップモード」で再セットアップを行うと、パソコンを購入時と同じ状態に戻すことができます。

標準再セットアップの手順

標準再セットアップは次の手順で行います。作業にかかる時間の目安を書いておきます。参考にしてください。

- 1 「再セットアップの準備」の手順1～4を行う(P.144)
- 2 システムを再セットアップする(約40分)
- 3 Windowsの設定をする(約10分)
- 4 別売の周辺機器を取り付けて設定をやり直す
- 5 購入後に行ったインターネットなどの設定をやり直す
- 6 本機を購入後にインストールしたアプリケーションを再インストールする



チェック!!

再セットアップは途中で中断しないでください。もし中断したときは、最初からやり直してください。

1.「再セットアップの準備」の手順1～4を行う(P.144)

データのバックアップや、パソコンの設定を控えてください。また、周辺機器は取り外してください。

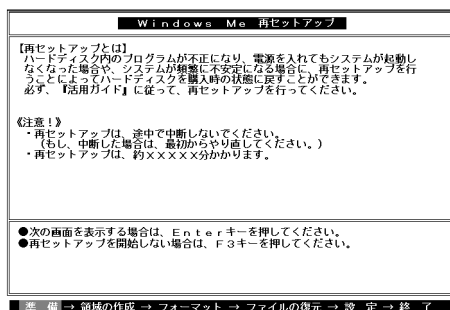
ハードディスクを増設している場合は、増設したハードディスクを取り外してから再セットアップを行ってください。ハードディスクを増設したまま再セットアップを行うと、増設したハードディスクの内容も失われる場合があります。

2. システムを再セットアップする

再セットアップは、ハードディスクのCドライブに対して行われます。

1 本機の電源を入れる

2 電源ランプがついたら、すぐに「システムインストールディスク(起動用)」をフロッピーディスクドライブにセットする 次の画面が表示されます。



メモ

再セットアップにかかる時間は、この画面で確認してください。

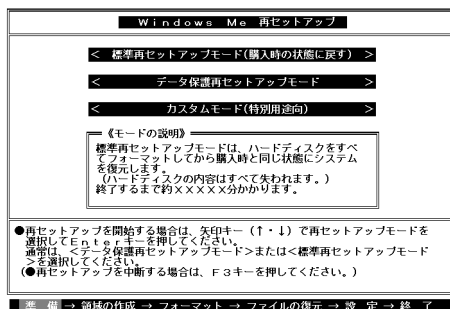
「システムインストールディスク(起動用)」のセットが遅いと、この画面は表示されません。その場合は、ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源を切って、手順1からやり直してください。

「Invalid system disk Replace the disk....」と表示された場合は、別のフロッピーディスクがセットされています。「システムインストールディスク(起動用)」をセットし直して、何かキーを押してください。

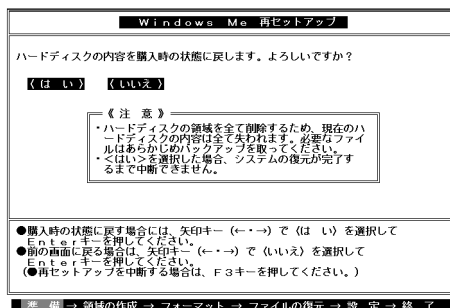
3 CD-R/RWドライブに「バックアップCD-ROM(1枚目)」をセットする

4 【Enter】を押す 「再セットアップの準備」の画面が表示されます。

5 【Enter】を押す



6 「標準再セットアップモード(購入時の状態に戻す)」を選択し、【Enter】を押す 「ハードディスクの内容を購入時の状態に戻します。よろしいですか?」と表示されます。



7 「はい」を選択し、【Enter】を押す

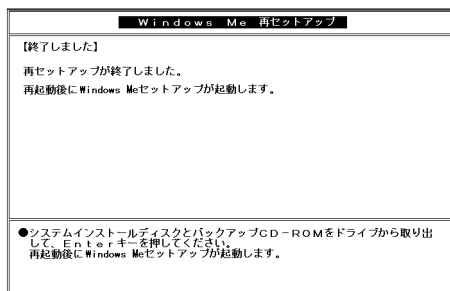
ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップが始まります。途中でフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージが表示されたら、指示に従って入れ替えてください。



チェック!!

- ・ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップ中は、画面からの指示がない限り、CD-ROMやフロッピーディスクを取り出したり、電源スイッチを押したりしないでください。
- ・再セットアップ中に数回ビーブ音(ピーという音)が鳴りますが、問題ないので無視してください。

ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップが終わると次の画面が表示されます。



準備 → 領域の作成 → フォーマット → ファイルの復元 → 設定 → 終了



チェック!!

この画面が表示されなかったときは、再セットアップは正常に行われていません。はじめからやり直してください。

8 フロッピーディスクドライブから「システムインストールディスク」を取り出す

9 CD-R/RWドライブから「バックアップCD-ROM」を取り出す

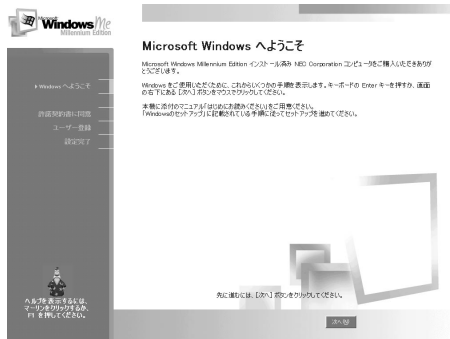
10 【Enter】を押す

パソコンが再起動し、しばらくすると「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されます。

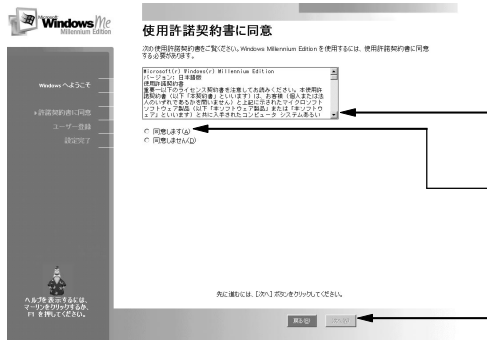
3.Windowsの設定をする

ここで行う操作は、はじめて本機を使ったときに行ったWindowsのセットアップ(『はじめにお読みください』)と同じ操作です。

1 「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック



2 「使用許諾契約書に同意」の画面を確認する 内容をよくお読みになり、次に進んでください。



▼をクリックして
続きを見る

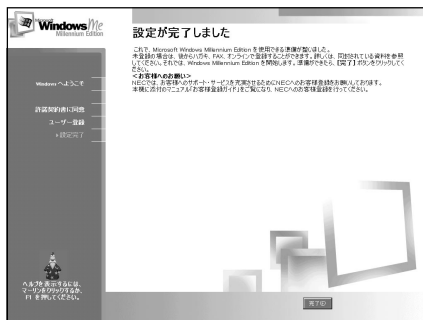
使用許諾契約書
を読んで「同意し
ます」をクリック

「次へ」をクリック

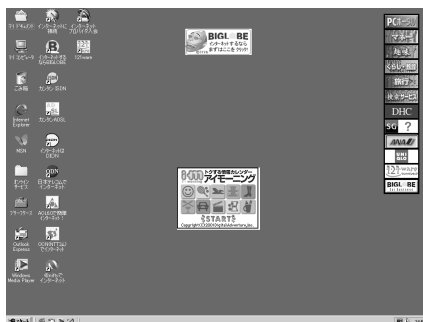
3 「登録先:Microsoft」の画面が表示されたら、「いいえ、今は登録しません」を選択して、「次へ」をクリック



4 「設定が完了しました」の画面が表示されたら、「完了」をクリック



次の画面が表示されるまでしばらく時間がかかります。



Office XPモデルの場合、ここでOfficeをインストールします。
Office XPモデル以外の場合、P.155の手順5に進んでください。

Office XP Personalをセットアップする(Office XPモデルの場合)

本機にセットアップされている「Office XP Personal」は、音声認識機能以外の機能がセットアップされています。必要のない機能を削除する方法や、削除した機能を再追加する方法については、添付の「Office XP Personal」のマニュアルをご覧ください。ここでは、「カスタム」で音声認識以外の機能をセットアップする方法を説明します。

(1)「Microsoft® Office XP Personal」CD-ROMをCD-R/RWドライブにセット

「Microsoft Office セットアップ」ウィンドウが表示されます。

「Microsoft Office セットアップ」ウィンドウが自動表示されない場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックし、CD-ROMアイコンをダブルクリックしてください。

(2)「次へ」をクリック

ユーザー情報(ユーザー名、頭文字、所属、プロダクトキー)は入力しないでください。ここでは、日本語入力等ができません。「使用許諾契約書」と表示されます。

(3)内容に同意の上、「使用許諾契約書」の条項に同意します」の☐を☒にして、「次へ」をクリック

「インストールの種類を指定してください」と表示されます。

(4)「カスタム」の☐をクリックして☒にする

インストール先を変更する場合は「参照」をクリックし、インストール先を選び、「OK」をクリックしてください。

インストール先をDドライブに指定した場合、ランチ-NXには、Word、Excel、Outlookは自動登録されません。ランチ-NXに登録するには、「添付ソフトの使い方」「ランチ-NX」をご覧ください。

(5)「次へ」をクリック

(6)「アプリケーションごとにオプションを指定してインストールします」の☐をクリックして☒にする

- (7) 「次へ」をクリック
「Officeのアプリケーションとツールのインストールオプションを指定してください」と表示されます。
- (8) 「Microsoft Office」の左側に表示されているアイコンをクリック
プルダウンメニューが表示されます。
- (9) 「マイコンピュータからすべて実行」をクリック
- (10) 「Microsoft Excel for Windows」「読み上げ」の左側に表示されているアイコンをクリック
プルダウンメニューが表示されます。
- (11) 「インストールしない」をクリック
- (12) 「Office共有機能」「入力システムの拡張」「音声」の左側に表示されているアイコンをクリック
プルダウンメニューが表示されます。
- (13) 「インストールしない」をクリック
- (14) 「Office共有機能」「入力システムの拡張」「IME」「IMEパッドアプレット」の左側に表示されているアイコンをクリック
プルダウンメニューが表示されます。
- (15) 「インストールしない」をクリック
- (16) 「Officeツール」「高速検索のサポート」の左側に表示されているアイコンをクリック
プルダウンメニューが表示されます。
- (17) 「インストールしない」をクリック
- (18) 「次へ」をクリック
「インストールを開始します」と表示されます。
- (19) 「完了」をクリック
インストールが始まります。

(20) 再起動を促すメッセージが表示された場合は「はい」をクリック

Windowsが再起動します。

(21) CD-R/RWから、CD-ROMを取り出す

以上で、Office XP Personalのセットアップは終了です。

●再セットアップ後、Office XP Personalを利用するときの注意
パソコンの再セットアップ後、Office XP Personalの各アプリケーション (WordやExcelなど)を最初に起動したときに、「Office XP 使用許諾契約書」ウインドウが表示されます。この場合は、次の手順で、ライセンス認証手続きを行ってください。

☑チェック!! ライセンス認証手続きは、必ずパソコンの再セットアップの作業がすべて終わった後に行ってください。

1 「同意する」をクリックします。
「Microsoft Office XP セットアップ」ウインドウが表示されます。

2 ユーザー情報を入力し、「OK」をクリックします。
「ライセンス認証ウィザード」が表示されます。
ウィザードの画面の案内に従って、ライセンス認証手続きを行ってください。認証手続きのしかたについて、詳しくは添付の「Office XP Personal」のマニュアルをご覧ください。

☑チェック!! ここではまだ日本語入力できません。
必ず再セットアップが終わったあとで、この操作を行ってください。

5 「スタート」ボタン→「VALUESTARを使う準備をします」をクリック

6 「VALUESTARを使う準備が終わりました」の画面が表示されたら「OK」をクリック
本機が再起動します。

☑チェック!! この操作をしないと本機では日本語入力できません。必ず実行してください。

4. 別売の周辺機器を取り付けて設定をやり直す

「再セットアップの準備」(P.144)の手順3「別売の周辺機器を取り外す」で取り外した別売の周辺機器を取り付けて、それぞれのセットアップ、設定を行ってください。複数の周辺機器を取り付ける場合は、一度にすべての周辺機器を取り付けずに、1つずつ取り付け、設定をしてください。

参照

周辺機器の設定→「PART2 周辺機器を利用する」(P.49)または、周辺機器のマニュアル

5. 購入後に行ったインターネットなどの設定をやり直す

パソコン購入後に行った設定は、再セットアップによってすべて購入時の状態になっているので、設定し直してください。

インターネットを使っていたときや、BIOSの設定を変更していたときは、「再セットアップの準備」(P.144)の手順2「パソコンの設定を控える」で控えたメモの設定に戻してください。IDやアドレスはすでに取得しているものを使えます。サインアップをやり直す必要はありません。ワンタッチスタートボタンの設定も購入時の状態に戻っていますので、再設定してください。

6. 本機を購入後にインストールしたアプリケーションを再インストールする

パソコン購入後にインストールしたアプリケーションも消去されているので、ご利用になる場合には、インストールし直してください。

データを保護して再セットアップする - データ保護再セットアップモード

Windowsが起動しない状態で再セットアップするときやデータを保護して再セットアップしたいときは、この方法で行います。

データ保護再セットアップを行う際の注意

データ保護再セットアップを行うときは、次の点に注意してください。

- ・再セットアップ後、インターネットの設定は購入時の状態に戻ります。セットアップ終了後に設定しなおしてください。
- ・データ保護再セットアップでは、次のものはバックアップ-NXで設定していない場合は、保護されません。

本機の購入時にインストールされていないアプリケーションのデータ

Outlook Expressのアドレス帳

- ・次の場合は、データ保護再セットアップはできません。

保護するデータを設定したファイルがないか、設定した内容に問題がある

- ・次のようにバックアップ-NXで設定したデータの総容量が大きい場合は、バックアップ-NXで設定したデータが保護できない場合があります。

$$(\text{Cドライブの容量}) < (\text{バックアップ-NXで設定してあるデータの容量}) + (\text{ご購入時のCドライブの使用量})$$



チェック!!

Windowsが起動して、バックアップがとれるときは、「バックアップ-NX」などを使って、必ずバックアップをとってください。データ保護再セットアップモードで再セットアップを行っても、データが完全には保護されない場合があります。

データ保護再セットアップの手順

次の手順で行います。作業にかかる時間の目安を書いておきます。参考にしてください。

再セットアップを始めたらず途中でやめしないで、必ず手順通り最後まで行ってください。

1 バックアップをとる

2 「再セットアップの準備」の手順2～4を行う(P.144)

✓ **チェック!** Windowsが起動しない場合は、「再セットアップの準備」(P.144)の手順3から行ってください。

3 システムを再セットアップする(約1時間)

4 Windowsの設定をする(約10分)

5 別売の周辺機器を取り付けて設定をやり直す

6 購入後に行ったインターネットなどの設定をやり直す

7 本機を購入後にインストールしたアプリケーションを再インストールする

1. バックアップをとる

「データ保護再セットアップ」では、バックアップ-NXで設定したデータを保護したまま再セットアップします。残しておきたいデータを、バックアップ-NXで設定しておいてください。

✓ **チェック!** 再セットアップに失敗すると、保護できるはずのDドライブ以降のデータや、バックアップ-NXで設定したデータも失われてしまうことがあります。大切なデータは必ず、MOや外付けのハードディスクなどにもバックアップをとっておいてください。

参照

- ・バックアップ-NX→「バックアップ-NX」のヘルプ
- ・データ保護再セットアップを行うときの注意→この項の「データ保護再セットアップを行う際の注意」(P.157)

2. 「再セットアップの準備」の手順2～4を行う(P.144)

パソコンの設定を控えて、周辺機器を取り外してください。
ハードディスクを増設している場合は、増設したハードディスクを取り外してから再セットアップを行ってください。ハードディスクを増設したまま再セットアップを行うと、増設したハードディスクの内容も失われる場合があります。

3. システムを再セットアップする

1 本機の電源を入れる

2 電源ランプがついたらすぐに「システムインストールディスク(起動用)」をフロッピーディスクドライブにセットする 「再セットアップとは」の画面が表示されます。



再セットアップにかかる時間はこの画面で確認してください。

「システムインストールディスク(起動用)」のセットが遅いと、「再セットアップとは」の画面が表示されません。その場合はディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源を切って、手順1からやり直してください。

「Invalid system disk ...」と表示されたときは、別のフロッピーディスクがセットされています。「システムインストールディスク(起動用)」をセットし直して、【Enter】などのキーを押してください。

3 【Enter】を押す

「再セットアップの準備」の画面が表示されます。

4 【Enter】を押す

再セットアップモードを選択する画面が表示されます。

5 「データ保護再セットアップモード」を選択し、【Enter】を押す

6 【Enter】を押す

「Cドライブの内容から、バックアップ-NXで設定されているデータを残して、その他のファイルを削除し、システムを復元します よろしいですか?」と表示されます。

7 CD-R/RWドライブに「バックアップCD-ROM(1枚目)」をセットする

8 「はい」を選択し、【Enter】を押す

「しばらくお待ちください」と表示されます。

不要なファイルの削除とシステムの再セットアップが始まります。

途中で、フロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージが表示されたら、指示に従って入れ替えてください。

システムの再セットアップまで終わると「終了しました」の画面が表示されます。「終了しました」の画面が表示されなかったときは、再セットアップが正常に行われていない可能性があります。PART3の「データ保護再セットアップ中にエラーメッセージが表示された」(P.130)をご覧ください。

- ✓ **チェック!**
- ・不要なファイルの削除とシステムの再セットアップ中は、画面からの指示がない限り、CD-ROMやフロッピーディスクを取り出したり電源スイッチを押したりしないでください。
 - ・再セットアップ中に数回ビーブ音(ビーという音)が鳴りますが、問題ないので無視してください。

9 フロッピーディスクドライブから「システムインストールディスク」を取り出す

10 CD-R/RWドライブから「バックアップCD-ROM」を取り出す

11 【Enter】を押す

パソコンが再起動し、しばらくすると「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されます。

これ以降の操作は、標準再セットアップの場合と同じです。

「購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード」の「3.Windowsの設定をする」(P.151)に進んで、その後の操作を行ってください。

- ✓ **チェック!**
- 再セットアップの作業は、これで終わりではありません。必ず「購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード」の「3.Windowsの設定をする」(P.151)以降の操作を行ってください。



全領域を1パーティションにして再セットアップする - カスタムモード

ハードディスクの領域を1つのドライブとして作成したいときは、この方法で行います。

「全領域を1パーティションにして再セットアップする」の手順

次の手順で行います。作業にかかる時間の目安を書いておきます。参考にしてください。

再セットアップを始めたらず途中でやめしないで、必ず手順通り最後まで行ってください。

- 1** 「再セットアップの準備」の手順1～4を行う(P.144)
- 2** システムを再セットアップする(約50分)
- 3** Windowsの設定をする(約10分)
- 4** 別売の周辺機器を取り付けて設定をやり直す
- 5** 購入後に行ったインターネットなどの設定をやり直す
- 6** 本機を購入後にインストールしたアプリケーションを再インストールする

1.「再セットアップの準備」の手順1～4を行う(P.144)

データのバックアップやパソコンの設定を控えてください。また、周辺機器は取り外してください。

ハードディスクを増設している場合は、増設したハードディスクを取り外してから再セットアップを行ってください(ハードディスクを増設したまま再セットアップを行うと、増設したハードディスクの内容も失われる場合があります)。

2. システムを再セットアップする

1 本機の電源を入れる

2 電源ランプがついたらすぐに「システムインストールディスク(起動用)」をフロッピーディスクドライブにセットする 「再セットアップとは」の画面が表示されます。



再セットアップにかかる時間は、この画面で確認してください。

「システムインストールディスク(起動用)」のセットが遅いと、「再セットアップとは」の画面が表示されません。その場合はディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源を切って、手順1からやり直してください。

「Invalid system disk ...」と表示されたときは、別のフロッピーディスクがセットされています。「システムインストールディスク(起動用)」をセットし直して、【Enter】などのキーを押してください。

3 【Enter】を押す

「再セットアップの準備」の画面が表示されます。

4 【Enter】を押す

再セットアップモードを選択する画面が表示されます。

5 「カスタムモード(特別用途向)」を選択し、【Enter】を押す カスタムモードの種類を選ぶ画面が表示されます。

6 「全領域を1パーティションにして再セットアップ」を選択し、 【Enter】を押す

「ハードディスクの領域を下記の様に設定し、システムを購入時の状態に戻します。よろしいですか？」と表示されます。

7 CD-R/RW ドライブに「バックアップCD-ROM(1枚目)」をセットする

- 8** 「はい」を選択し、【Enter】を押す
 「ハードディスクの領域作成中です。」と表示されます。
 ハードディスクの領域作成とシステムの再セットアップが始まります。
 途中で、フロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージが表示されたら、指示に従って入れ替えてください。
 システムの再セットアップまで終わると「終了しました」の画面が表示されます。

- ✓ **チェック!** ・ハードディスクの領域の作成とシステムの再セットアップ中は、画面からの指示がない限り、CD-ROMやフロッピーディスクを取り出したり電源スイッチを押したりしないでください。
 ・再セットアップ中に数回ビーブ音(ビーという音)が鳴りますが、問題ないので無視してください。

- 9** フロッピーディスクドライブから「システムインストールディスク」を取り出す

- 10** CD-R/RWドライブから「バックアップCD-ROM」を取り出す

- 11** 【Enter】を押す
 パソコンが再起動し、しばらくすると「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されます。
 これ以降の操作は、標準再セットアップの場合と同じです。
 「購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード」の「3.Windowsの設定をする」(P.151)に進んで、その後の操作を行ってください。

- ✓ **チェック!** 再セットアップの作業は、これで終わりではありません。必ず「購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード」の「3.Windowsの設定をする」(P.151)以降の操作を行ってください。



Cドライブのみ再セットアップする - カスタムモード

Cドライブのみを再セットアップします。Dドライブ以降のデータはそのままなので、Cドライブだけを再セットアップしたい場合にこの方法で再セットアップしてください。ただし、この方法では、Cドライブの容量を変えることはできません。

「Cドライブのみを再セットアップする」の手順

次の手順で行います。作業にかかる時間の目安を書いておきます。参考にしてください。

再セットアップを始めたらず途中でやめしないで、必ず手順通り最後まで行ってください。

✓**チェック!** この方法では、Cドライブにあるシステムやアプリケーション、データもすべて削除されます。再セットアップする前に、必要なデータなどは必ずバックアップをとってください。

- 1 「再セットアップの準備」の手順1～4を行う(P.144)
- 2 システムを再セットアップする(約50分)
- 3 Windowsの設定をする(約10分)
- 4 別売の周辺機器を取り付けて設定をやり直す
- 5 購入後に行ったインターネットなどの設定をやり直す
- 6 本機を購入後にインストールしたアプリケーションを再インストールする

✓**チェック!** Cドライブのみの再セットアップを行った場合、Cドライブ以外のハードディスクにインストールしていたアプリケーションがそのまま残っていたとしても、そのアプリケーションがうまく動作しないことがあります。この場合、再セットアップ後にそのアプリケーションの再インストールも行ってください。

1. 「再セットアップの準備」の手順1～4を行う(P.144)

データのバックアップやパソコンの設定を控えてください。再セットアップに失敗すると、保護できるはずのDドライブ以降のデータも失われてしまうことがあります。大切なデータは必ず、MOや外付けのハードディスクなどにもバックアップをとっておいてください。

また、周辺機器は取り外してください。ハードディスクを増設している場合は、増設したハードディスクを取り外してから再セットアップを行ってください(ハードディスクを増設したまま再セットアップを行うと、増設したハードディスクの内容も失われる場合があります)。

2. システムを再セットアップする

1 本機の電源を入れる

2 電源ランプがついたらすぐに「システムインストールディスク(起動用)」をフロッピーディスクドライブにセットする 「再セットアップとは」の画面が表示されます。



再セットアップにかかる時間は、この画面で確認してください。

「システムインストールディスク(起動用)」のセットが遅いと、「再セットアップとは」の画面が表示されません。その場合はディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源を切って、手順1からやり直してください。

「Invalid system disk...」と表示されたときは、別のフロッピーディスクがセットされています。「システムインストールディスク(起動用)」をセットし直して、【Enter】などのキーを押してください。

3 【Enter】を押す

「再セットアップの準備」の画面が表示されます。

4 【Enter】を押す

再セットアップモードを選択する画面が表示されます。

5 「カスタムモード(特別用途向)」を選択し、【Enter】を押す カスタムモードの種類を選ぶ画面が表示されます。

6 「Cドライブのみ再セットアップ」を選択し、【Enter】を押す
「Cドライブの内容を消去し、システムを購入時の状態に戻します。
よろしいですか?」と表示されます。

7 CD-R/RWドライブに「バックアップCD-ROM(1枚目)」をセットする

8 「はい」を選択し、【Enter】を押す
システムの再セットアップが始まります。
途中で、フロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージ
が表示されたら、指示に従って入れ替えてください。
システムの再セットアップまで終わると「終了しました」の画面が
表示されます。

-  **チェック!** ・ハードディスクのフォーマットとシステムの復元中は、画面からの指示がない限り、CD-ROMやフロッピーディスクを取り出したり電源スイッチを押したりしないでください。
・再セットアップ中に数回ピープ音(ピーという音)が鳴りますが、問題ないので無視してください。

9 フロッピーディスクドライブから「システムインストールディスク」を取り出す

10 CD-R/RWドライブから「バックアップCD-ROM」を取り出す

11 【Enter】を押す
パソコンが再起動し、しばらくすると「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されます。
これ以降の操作は、標準再セットアップの場合と同じです。
「購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード」の
「3.Windowsの設定をする」(P.151)に進んで、その後の操作を行ってください。

-  **チェック!** 再セットアップの作業は、これで終わりではありません。必ず「購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード」の「3.Windowsの設定をする」(P.151)以降の操作を行ってください。

ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする - カスタムモード

Cドライブのハードディスク領域を自由に変えたいときは、ユーザ設定で行います。初心者の方や、ハードディスクの知識があまりない方は、この方法で再セットアップしないでください。



チェック!

ここに掲載されている画面は、機種によって、実際に表示されている画面と異なることがあります。

ユーザ設定の手順

次の手順で行います。作業にかかる時間の目安を書いております。参考にしてください。

再セットアップを始めたらず途中でやめしないで、必ず手順通り最後まで行ってください。

1 「再セットアップの準備」の手順1～4を行う(P.144)

2 領域を削除する(約5分)



チェック!

ハードディスクのボリュームラベルが全角文字または半角カタカナで入力されているときは、領域の削除ができません。「マイコンピュータ」でハードディスクドライブのアイコンを右クリックして「プロパティ」で半角英数字に入力し直すか、ボリュームラベルを削除してください。

3 領域を作成する(約5分)

4 ドライブを初期化(フォーマット)する(約5～15分)

5 システムを再セットアップする(約50分)

6 Windows の設定をする(約10分)

7 フォーマットできなかったハードディスクドライブをフォーマットする

- 8 別売の周辺機器を取り付けて設定をやり直す
- 9 購入後に行ったインターネットなどの設定をやり直す
- 10 本機を購入後にインストールしたアプリケーションを再インストールする

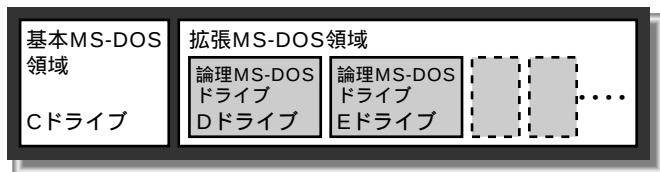
再セットアップ前に知っておきたいこと

基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域

カスタム再セットアップでは、カスタム再セットアップの画面からFDISKというコマンドを実行して、まずハードディスクの領域を削除し、領域を好みの容量にして作り直します。

ハードディスクを基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に分け、さらに、拡張MS-DOS領域を論理MS-DOSドライブに分けます。基本MS-DOS領域がCドライブ(Windowsを起動するドライブ)になり、論理MS-DOSドライブがD以降のドライブになります。

ハードディスクの領域



領域の削除は、論理MS-DOSドライブ→拡張MS-DOS領域→基本MS-DOS領域の順に削除してください。領域の作成は、逆に基本MS-DOS領域→拡張MS-DOS領域→論理MS-DOSドライブの順で作成してください。領域を作った後、カスタム再セットアップの画面からFORMATコマンドを実行してそれぞれのドライブをフォーマットします。



基本MS-DOS領域

起動することができるドライブです。Cドライブが割り当てられ、ここにWindowsをインストールします。1つのハードディスクに1つしか作成できません。

拡張MS-DOS領域

基本MS-DOS領域以外のMS-DOS領域です。ここから起動することはできません。1つのハードディスクに1つしか作成できません。この中に論理MS-DOSドライブ(Dドライブ以降のドライブ)を割り当てます。

論理MS-DOSドライブ

拡張MS-DOS領域の中に作ります。Dドライブ以降の複数のドライブを作成することができます。

FAT32ファイルシステムとFAT16ファイルシステム

本機はご購入時の状態では、FAT32ファイルシステムと呼ばれるファイルの管理方法を使って次のようにハードディスクの領域が作成されています。

ハードディスク総容量	Cドライブ	Dドライブ
約40G バイトの場合	約37G バイト (FAT32ファイルシステム)	残りの容量(FAT32ファイルシステム) モデルによってDドライブの領域は異なります

ハードディスクの管理方法にはFAT32ファイルシステムとFAT16ファイルシステムの2つがあります。Windows Meではどちらでも利用できます。「ユーザ設定」の方法を使うと、再セットアップ中にFAT32ファイルシステムにするかFAT16ファイルシステムにするかを選択することができます。どちらのファイルシステムを利用すればいいのか、次の注意を参考にしてください。

- FAT16ファイルシステムを利用するときのご注意
- ・ ハードディスクの領域は最大2,047Mバイトまでしか作成できません。
- ・ 2,048Mバイト以上の領域は、FAT32ファイルシステムで作成する必要があります。

- ・ ハードディスクの領域が512Mバイトより小さいと自動的にFAT16ファイルシステムが選択されます。
- FAT32ファイルシステムを利用するときのご注意
- ・ ハードディスクの領域は512Mバイトから2,047Gバイトまで作成できます。512Mバイトより小さいと自動的にFAT16ファイルシステムが選択されます。
- ・ アプリケーションによってはFAT32ファイルシステムでは正常に動作しないものがあります。

1.「再セットアップの準備」の手順1～4を行う(P.144)

データのバックアップやパソコンの設定を控えてください。また、周辺機器は取り外してください。

ハードディスクを増設している場合は、取り外してから再セットアップを行ってください(ハードディスクを増設したまま再セットアップを行うと、増設したハードディスクの内容も失われる場合があります)。

2.領域を削除する

ハードディスクの領域を削除します。

1 本機の電源を入れる

2 電源ランプがついたら、すぐに「システムインストールディスク(起動用)」をフロッピーディスクドライブにセットする 「再セットアップとは」の画面が表示されます。



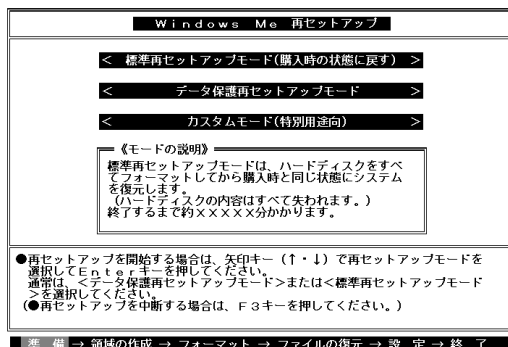
再セットアップにかかる時間は、この画面で確認してください。

「システムインストールディスク(起動用)」のセットが遅いと、「再セットアップとは」の画面は表示されません。その場合は、ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源を切って、手順1からやり直してください。

「Invalid system disk ...」と表示されたときは、別のフロッピーディスクがセットされています。「システムインストールディスク(起動用)」をセットし直して、【Enter】などのキーを押してください。

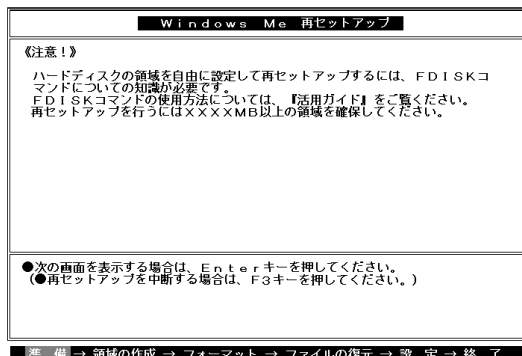
3 【Enter】を押す
「再セットアップの準備」の画面が表示されます。

4 【Enter】を押す
再セットアップモードを選択する画面が表示されます。



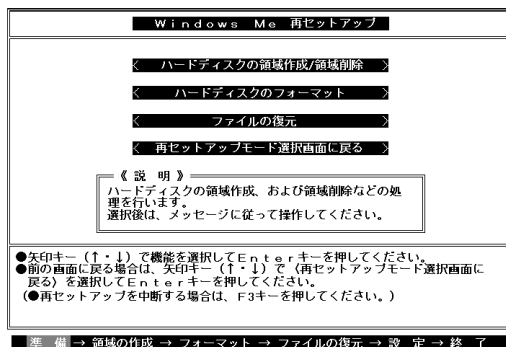
5 「カスタムモード(特別用途向)」を選択し、【Enter】を押す
カスタムモードの種類を選ぶ画面が表示されます。

6 「ユーザ設定」を選択し、【Enter】を押す
「注意!」の画面が表示されます。

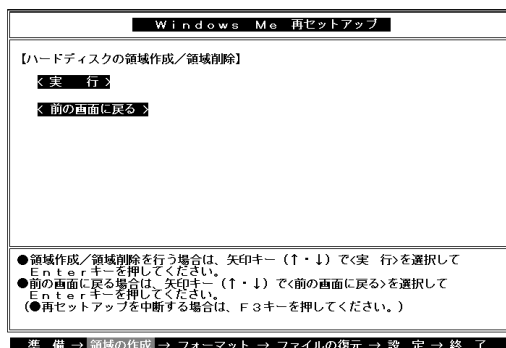


✓**チェック!!** ハードディスクの最低必要量が表示されていますので、書き留めて「3. 領域を作成する」で基本MS-DOS領域(ドライブ)を作成するときの参考にしてください。

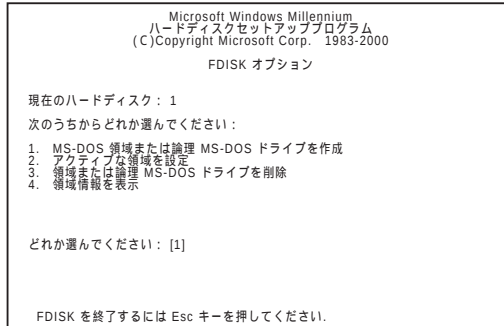
7 【Enter】を押す 次の画面が表示されます。



8 「ハードディスクの領域作成／領域削除」を選択し、【Enter】を押す 「ハードディスクの領域作成／領域削除」の画面が表示されます。



9 「実行」を選択し、【Enter】を押す FDISK オプションの画面が表示されます。



ハードディスクに基本MS-DOS領域しかないとき(Cドライブのみの場合)は、「基本MS-DOS領域を削除する」(P.175)に進んでください。

ハードディスクに論理MS-DOSドライブ、および拡張MS-DOS領域があるときは、次の「論理MS-DOSドライブを削除する」に進んでください。

● 論理MS-DOSドライブを削除する

10 【3】領域または論理MS-DOSドライブを削除 を押し、【Enter】を押す

11 【3】拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブを削除 を押し、【Enter】を押す
ドライブの一覧が表示され、「どのドライブを削除しますか」と表示されます。

12 削除するドライブのキーを押し(Dドライブを削除するときは【D】を押す)【Enter】を押す
「ボリュームラベルを入力してください」と表示されます。

13 削除する領域にボリュームラベル(ドライブの名前)がつけられているときは、ボリュームラベルを入力して【Enter】を押す
削除する領域にボリュームラベルがつけられていないときは、そのまま【Enter】を押す
「よろしいですか(Y/N)」と表示されます。

14 【Y】を押し、【Enter】を押す
削除されたドライブのところに「ドライブを削除しました。」と表示されます。

15 残りのドライブがあるときは残りのドライブもすべて12～14の手順で削除する
すべてのドライブが削除されると「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました。」と表示されます。

16 【Esc】を押す
「論理ドライブは定義されていません。ドライブ名は変更または削除されました。」と表示されます。

17 【Esc】を押す
「FDISKオプション」の画面が表示されます。

• 拡張MS-DOS領域を削除する

18 【3】領域または論理MS-DOSドライブを削除 を押し、【Enter】を押す

19 【2】拡張MS-DOS領域を削除 を押し、【Enter】を押す
「削除した拡張MS-DOS領域のデータはなくなります 続けますか(Y/N)」と表示されます。

20 【Y】を押し、【Enter】を押す
「拡張MS-DOS領域を削除しました。」と表示されます。

21 【Esc】を押す
「FDISKオプション」の画面が表示されます。

- 基本MS-DOS領域を削除する

- 22** 【3】領域または論理MS-DOSドライブを削除) を押し、【Enter】を押す
- 23** 【1】基本MS-DOS領域を削除) を押し、【Enter】を押す
現在のハードディスクの状態が表示され、「削除した基本MS-DOS領域のデータはなくなります。どの基本領域を削除しますか」と表示されます。
- 24** 【1】になっているのを確認し、【Enter】を押す
「ボリュームラベルを入力してください」と表示されます。
- 25** 「WINDOWSME」と入力し、【Enter】を押す
別のボリュームラベルがつけられているときには、その名前を入力してください。
ボリュームラベルがつけられていないときには、何も入力しないでそのまま【Enter】を押してください。
「よろしいですか(Y/N)」と表示されます。
- 26** 【Y】を押し、【Enter】を押す
「基本MS-DOS領域を削除しました。」と表示されます。
- 27** 【Esc】を押す
「FDISKオプション」の画面が表示されます。

3. 領域を作成する

領域を削除したら、新しく領域を作成してください。削除した領域の容量を合計した範囲の中で、新しい領域を確保します。

領域の分け方の例

6Gバイトのハードディスクで、基本MS-DOS領域を3Gバイトにして、残りの拡張MS-DOS領域を2Gバイト、約1Gバイトの論理MS-DOSドライブにする。

6Gバイトのハードディスク		
基本MS-DOS領域 (FAT32)	拡張MS-DOS領域	
Cドライブ 3Gバイト	論理MS-DOS ドライブ(FAT32) Dドライブ 2Gバイト	論理MS-DOS ドライブ(FAT16) Eドライブ 約1Gバイト

- 基本MS-DOS領域を作成する

1 「FDISKオプション」の画面で「どれか選んでください:」の右に「1〔MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成〕が表示されるので、【Enter】を押す

2 「どれか選んでください:」の右に「1〔基本MS-DOS領域を作成〕が表示されるので、【Enter】を押す

ドライブがチェックされた後、「基本MS-DOS領域に使用できる最大サイズを割り当てますが(同時にその領域をアクティブにします〔Y/N〕)」と表示されます。

(a) 最大サイズの領域を作成したいとき

ハードディスクの領域を分けずに1つの領域にする場合には、次の操作をしてください。

(1) 【Y】になっているのを確認し、【Enter】を押す

ドライブがチェックされた後、「ドライブのサイズが2048MB以上あります。このドライブは、FAT32です。」と表示されます。

(2) 【Esc】を押す

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」と表示されます。

(3) 【Esc】を押す

「拡張MS-DOS領域が作成されていません。拡張MS-DOS領域を作成しますか?」と表示されたときは、<いいえ>を選択し、【Enter】を押してください。

「設定を有効にするためにシステムを再起動します」と表示されます。

(4) 【Enter】を押す

パソコンが自動的に再起動します。

「Windows Me再セットアップ」の画面が表示されます。

これで領域は作成されました。「4. ドライブを初期化(フォーマット)する〔P.181〕に進んでください。

(b) サイズを指定して領域を作成したいとき

(1) 【N】を押し、【Enter】を押す

ドライブがチェックされた後、「領域のサイズをMバイトが全体に対する割合(%)で入力してください 基本MS-DOS領域を作ります。」と表示されます。

(2) 必要な空き容量以上の数値(領域のサイズ、Mバイト単位)を入力して【Enter】を押す

例えば、6Gバイトのモデルで3,072Mバイトの領域を確保するときは、【3】【0】【7】【2】【Enter】の順にキーを押します(全体に対する割合いで入力することもできます。例えば、6Gバイトモデルで3Gバイトの領域を確保するときは、【5】【0】【%】【Enter】の順にキーを押します)。



チェック!!

- ・「このドライブはFAT32が標準設定になっています。FAT16に変更しますか (Y/N)?」と表示された場合(指定領域が512～2047Mバイトの場合)は、FAT32にするときはNを、FAT16にするときにはYを選択して【Enter】を押してください。
- ・「ドライブのサイズが2048MB以上あります。このドライブはFAT32です。」と表示されたときは、【Esc】を押します。自動的にFAT32に設定されます。

(3) 【Esc】を押す

(4) 【Esc】を押す

「FDISKオプション」の画面に戻ります。

(5) 【2】アクティブな領域を設定)を押し、【Enter】を押す

「アクティブにしたい領域の番号を入力してください」と表示されます。

(6) 【1】を押し、【Enter】を押す

「領域1がアクティブになりました。」と表示されます。

(7) 【Esc】を押す

「FDISKオプション」の画面が表示されます。

次に拡張MS-DOS領域と論理MS-DOSドライブを作成します。

- 拡張MS-DOS領域を作成する

3 「どれか選んでください:」の右に「1 (MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成)」が表示されているのを確認し、【Enter】を押す

4 【2】拡張MS-DOS領域を作成)を押し、【Enter】を押す
ドライブがチェックされた後、「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください 拡張MS-DOS領域を作ります」と表示され、残っている領域のサイズが表示されます。

5 そのまま【Enter】を押す
「拡張MS-DOS領域を作成しました。」と表示されます。

6 【Esc】を押す
ドライブがチェックされた後、「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。」と表示されます。

- 論理MS-DOSドライブを割り当てる

7 論理MS-DOSドライブに最大サイズを割り当てたいときは、そのまま【Enter】を押す
サイズを指定するときは、数字を入力して【Enter】を押す

- 指定したサイズが2,048Mバイト以上の場合
「ドライブのサイズが2048MB以上あります。このドライブはFAT32です。」と表示され、自動的にFAT32に設定されます。
【Esc】を押します。

- 指定したサイズが512Mバイト以上で2,047Mバイト以下の場合「このドライブはFAT32が標準設定になっています。FAT16に変更しますか(Y/N)?」と表示されます。
FAT16にする場合は【Y】を押し、【Enter】を押します。
FAT32にする場合は【N】を押し、【Enter】を押します。

✓チェック!! 「このドライブはFAT16です。FAT32には小さすぎます。」と表示されたときは、【Esc】を押してください。自動的にFAT16に設定されます。

- ・ 指定したサイズが512Mバイトより少ない場合
「このドライブはFAT16が標準設定になっています。FAT32に変更しますか(Y/N)?」と表示されます。
【N】になっているのを確認し、【Enter】を押します。自動的にFAT16に設定されます。

割り当てられていない拡張MS-DOS領域がまだ残っているときは、「論理ドライブのサイズをMバイトが全体に対する割合(%)で入力してください」と表示されます。

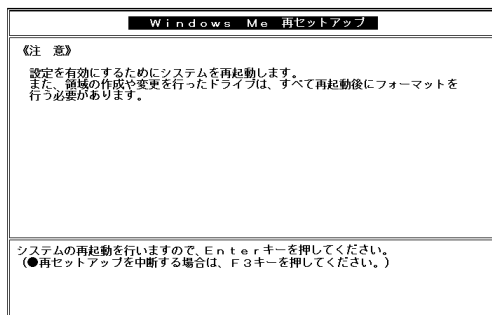
手順7を繰り返して、すべての拡張MS-DOS領域を論理MS-DOS領域に割り当ててください。

8 すべての領域を割り当てたら、【Esc】を押す

9 「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられます」と表示されるので【Esc】を押す
「FDISKオプション」の画面に戻ります。

10 【Esc】を押す
「変更を有効にするにはコンピュータを再起動してください」と表示されます。

11 【Esc】を押す
「設定を有効にするためにシステムを再起動します」と表示されます。



12 【Enter】を押す

パソコンが自動的に再起動します。

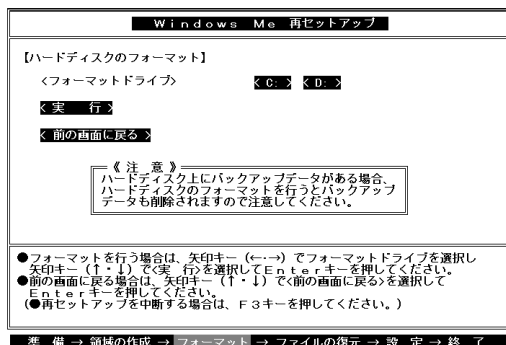
「Windows Me再セットアップ」の画面が表示されます。

これで領域が作成されました。次の「ドライブを初期化(フォーマット)する」に進んでください。

4. ドライブを初期化(フォーマット)する

新しく作成した領域は、フォーマットする必要があります。

1 「ハードディスクのフォーマット」を選択し、【Enter】を押す



2 「C:」が黄色になっているので、【Enter】を押す

「注意:ドライブC:のハードディスクのデータはすべてなくなります。フォーマットしますが(Y/N)?」と表示されます。



チェック! 「システムインストールディスク(起動用)」はフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

3 【Y】を押し、【Enter】を押す

フォーマットがはじまります。作成した領域の大きさにもよりますが、5～15分程度かかります。

フォーマットが終わると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。

4 ボリュームラベル(ドライブの名前)が必要なときは、ボリュームラベルを入力して【Enter】を押す。必要がなければ、【Enter】だけを押す

ボリュームラベルは、半角英数字で11文字まで入力できます。

「Windows Me再セットアップ」の画面に戻ります。



ボリュームラベルは、ドライブの名前です。「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」で表示されます。後で「マイコンピュータ」でドライブのアイコンを右クリックして「プロパティ」を選択すると全般シートで入力、変更することができます。

新しく領域を作成したドライブはすべて、手順1～4を繰り返して、フォーマットしてください(手順2のドライブ名は、【→】を押して選択してください)。

ハードディスクドライブを5つ以上に分割(Gドライブ以上作成)すると、これ以降のドライブ(G、H、I...)は手順1の画面に表示されず、ここでフォーマットすることはできません。

G以降のドライブについては、「7.フォーマットできなかったハードディスクドライブをフォーマットする(P.184)」でフォーマットします。

次の「5.システムを再セットアップする」に進んでください。

5. システムを再セットアップする

1 「バックアップCD-ROM(1枚目)」をCD-R/RWドライブにセットする



チェック! 「バックアップCD-ROMを復元します」と表示されたときは、バックアップCD-ROMがセットされていません。正しくセットして【Enter】キーを押してください。

2 「Windows Me再セットアップ」の画面で「ファイルの復元」を選択し、【Enter】を押す

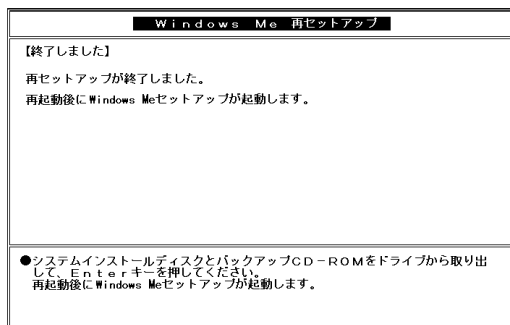
- 3 「ファイルの復元」の画面が表示されたら、「実行」が選択されていることを確認し、【Enter】を押す
システムの再セットアップが始まります。途中でフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージが表示されたら、指示に従って入れ替えてください。



チェック!!

- ・ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップ中は、画面からの指示がない限り、CD-ROMやフロッピーディスクを取り出したり、電源スイッチを押したりしないでください。
- ・再セットアップ中に数回ビープ音(ビーという音)が鳴りますが、問題ないので無視してください。

システムの再セットアップが終わると次の画面が表示されます。



準備 → 領域の作成 → フォーマット → ファイルの復元 → 設定 → 終了

- 4 フロッピーディスクドライブから「システムインストールディスク」を取り出す
- 5 CD-R/RW ドライブから「バックアップCD-ROM」を取り出す

6



6.Windowsの設定をする

「購入時と同じ状態にする - 標準再セットアップモード」の 3.Windows の設定をする (P.151) をご覧になり、Windows の設定をしてください。

7. フォーマットできなかったハードディスクドライブをフォーマットする

ハードディスクドライブを5つ以上に分割した場合(Gドライブ以上作成)は、Gドライブ以降のドライブ(「4. ドライブを初期化(フォーマット)する」でフォーマットできなかったドライブ)を次の手順によりフォーマットしてください。

C～Fドライブまでしか作成していない場合は、以下の手順は必要ありません。⁸別売の周辺機器を取り付けて設定をやり直す（P.186）に進んでください。



✓チェック!! C~Fのドライブはフォーマットしないでください。

- 1 本機の電源を入れる
Windowsが起動します。
- 2 「マイコンピュータ」をダブルクリック
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3 フォーマットするハードディスクドライブ(G、H、I...)のアイコンを右クリックし、表示されたメニューで「フォーマット」をクリック
「フォーマット」ウィンドウが表示されます。
- 4 「通常のフォーマット」をクリック
- 5 「開始」ボタンをクリック
フォーマットの確認画面が表示されます。
- 6 「OK」ボタンをクリック
しばらくするとフォーマットが終了し、フォーマットの結果が表示されます。
- 7 「閉じる」ボタンをクリック
スキャンディスクの実行を促す画面が表示されます。



スキャンディスクは、ハードディスクに壊れている部分がないか、問題なく使えるかをチェックするものです。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。



スキャンディスクの操作→Windowsヘルプ

- 8 「OK」ボタンをクリック
スキャンディスクのヘルプ「クラスタ、ファイルおよびフォルダのエラーを検査するには」が、表示されます。
- 9 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」ボタンをクリック

10 ヘルプの内容に従ってスキャンディスクを実行する フォーマットできなかったハードディスクドライブが他にもある 場合は、手順3～10を繰り返してフォーマットしてください。

8. 別売の周辺機器を取り付けて設定をやり直す

「再セットアップの準備 (P.144) の手順3」別売の周辺機器を取り外す」で
取り外した別売の周辺機器を取り付けて、それぞれのセットアップ、設定
を行ってください。

参照▶ 周辺機器の設定 → 「PART2 周辺機器を利用する (P.49) 周辺機器に添付さ
れたマニュアル

9. 購入後に行ったインターネットなどの設定をやり直す

パソコン購入後に行った設定は、再セットアップによってすべてなくな
っているので、再設定してください。

インターネットを使っていたときや、BIOSの設定を変更していたとき
は、「再セットアップの準備 (P.144) の手順2」パソコンの設定を控える」
で控えたメモの設定に戻してください。

BIGLOBEに加入している場合は、IDやアドレスはすでに取得しているも
のを使えます。サインアップをやり直す必要はありません。

ワンタッチスタートボタンの設定も購入時の状態に戻っていますので、
再設定してください。

10. 別売のアプリケーションをインストールし直す

パソコン購入後にインストールされたアプリケーションは、すべて消去
されているので、再インストールしてください。

6

付 録

この章の内容

本機のお手入れ	188
仕様一覧	191
本機が使用しているリソース	196
索引	197

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の手順で定期的に行ってください。

⚠ 注意



感電注意

お手入れの前には、本機の電源をOFFにして電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。



発火注意

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの間で放電(トラッキング現象)が起こり、火災の原因となります。

フロッピーディスクドライブ、 CD-R/RWドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。

パソコン本体、スピーカ

布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

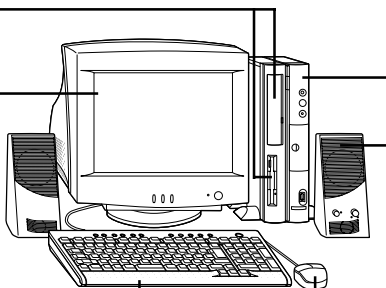
パソコンの内部

長時間使うとほこりがたまるので、定期的に清掃してください。パソコン内部の清掃については、ご購入元、またはNECにお問い合わせください。

NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』

ディスプレイ

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽くふいてください。



電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまる可能性があります。定期的に清掃してください。

キーボード

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、またはNECにお問い合わせください。

NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』

マウス

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。

→『マウスのクリーニング(次ページ)』



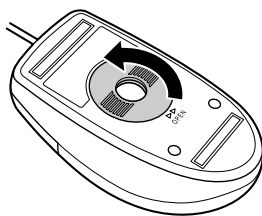
チェック!!

- ・水や中性洗剤は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

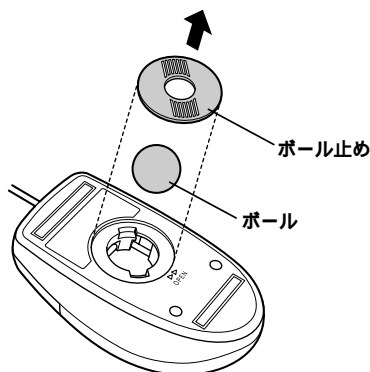
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。ローラーはとくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4～6の手順は省略してもかまいません。

- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



- 3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



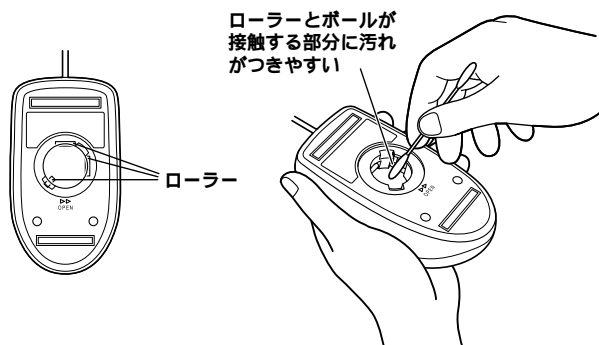
4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす

5 水で中性洗剤を洗い落とす

6 布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる

7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

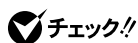
汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります（このとき、歯ブラシに水やはみがき粉などを付けしないでください）



8 ボールをマウスに戻す

9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定する

10 マウスのケーブルをキーボードに取り付ける



チェック!

- ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

仕様一覧

本体機能仕様

型名		VL750R/85A	
型番		PC-VL750R85A	
CPU		750MHz AMD Duron™ プロセッサ	
チップセット		VIA社製 Apollo KT133Chipset	
システムバス		200MHz(メモリバス:133MHz)	
キャッシュメモリ	1次	128Kバイト(CPU内蔵)	
	2次	64Kバイト(CPU内蔵)	
メインRAM	標準容量	64Mバイト(SDRAM-DIMM PC133対応)	
	スロット数	2スロット(DIMMSロット)[空きスロット1]	
	最大容量	512Mバイト 1	
表示機能 解像度表示色	ビデオRAM	16Mバイト	
	グラフィックアクセラレータ	nVIDIA™ 社製 Vanta™(AGP)	
	640×480ドット	最大1,677万色	
	800×600ドット	最大1,677万色	
	1,024×768ドット	最大1,677万色	
サウンド機能	1,280×1,024ドット	最大1,677万色 2	
	音源	PCM 録音再生機能:ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8～48KHz、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)	
	サウンド機能	エンハンスステレオ	
	ステレオスピーカー	外付けスピーカー	
入力装置	キーボード	PS/2キーボード、JIS標準配列(英数、かな)、109キーレイアウト準拠、スリープボタン、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き、マウス専用コネクタ(1ポート)付き	
	マウス	PS/2マウス 18、スクロール機能付き	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(720Kバイト/1.2Mバイト/1.44Mバイト)×1 3	
	ハードディスクドライブ 4	約40Gバイト 5	
	CD/DVDドライブ	CD-R/RWドライブ 6 [CD読み:最大32倍速、CD-R書き:最大8倍速、CD-RW書換:最大4倍速 7]	
インターフェイス	USB 8	コネクタ4ピン×2	
	パラレル	D-sub25ピン×1	
	シリアル	D-sub9ピン×1	
	ディスプレイ	ミニD-sub15ピン×1(アナログRGB)	
	PS/2	ミニDIN6ピン×1	
	FAXモデム	モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1)	
	IEEE1394(DV)	4ピン×1 9	
	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力×1(角形(PCM/ドルビーデジタル)) 10 LINE入力×1(ステレオ、ミニジャック)、LINE出力×1(ステレオ、ミニジャック) マイク入力×1(モノラル、ミニジャック)	
通信機能	FAXモデム	データ通信:最大56Kbps 11(K56flex™、V.90対応) / FAX通信:最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応	
5型ベイ		1スロット(CD/DVDドライブで1スロット占有済 [空きスロット0]	
内蔵3.5型ベイ		1スロット(HDDで1スロット占有済 [空きスロット0]	
拡張	PCカードスロット	Type ×2(Type ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus 対応 12	
スロット	PCIスロット	1スロット(ハーフ×1 [空きスロット1]	

型名		VL750R/85A	
電源		AC100V±10%、50/60Hz	
消費電力	本体	約60W(最大103W)	
	ディスプレイ	約72W	
エネルギー消費効率		R区分 0.012	
温湿度条件		10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)	
外形寸法	本体	86(W)×320(D)×305(H)mm(ゴム足、突起部除く) 13	
	ディスプレイ	360(W)×381(D)×380(H)mm(専用回転台含む)	
	キーボード	382(W)×179(D)×44(H)mm	
質量	本体	約7.8kg	
	ディスプレイ	約12.1kg	
	キーボード	約1.2kg	
	マウス	約0.2kg	
インストールOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版	14 15
サポートOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版	15
		Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版	15
主な添付品		マニュアル、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、回線接続ケーブル、保証書	
ディスプレイ	画面サイズ	15型(シャドーマスク管)	
	表示寸法	標準表示範囲:260(W)×195(H)mm 16 最大表示可能範囲:280(W)×210(H)mm 17	
	ドットピッチ	0.28mm	
	水平走査周波数	31～69KHz	
	垂直走査周波数	59～86Hz	
	表示解像度	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット(自動切替)	

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- 増設RAMサブボード(256Mバイト)を2枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設するには133MHz用メモリを実装してください。
- グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。添付のディスプレイでは表示できません。
- 3モード(720Kバイト、1.2Mバイト、1.44Mバイト)に対応しています。ただし、1.2Mバイトモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能(フォーマットは不可)となります。
- 1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。
- Windowsのシステムからは、容量が約37.2Gバイトと認識されます。
- 縦置き時、8cmCDは使用不可です。
- CD-RWメディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RWメディアは使用できません。
- 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが本インターフェースに対応している必要があります。
- 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com>)をご確認ください。
- 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。一般のCDプレーヤー、MDデッキ類と同様に、SCM(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。
- 最大56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
- ZVポート対応カードは使用できません。
- スタビライザ(縦置き台)取り付け時は、155(W)×320(D)×310(H)mmです。
- 別売のMicrosoft® Windows® Millennium Editionパッケージをインストールおよび利用することはできません。

- 15 添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。
- 16 表示するタイミングによっては表示サイズが変わる場合があります。
- 17 接続する装置および表示する解像度によっては、表示面積を最大まで広げられない場合があります。
- 18 添付のキーボードにあるマウス専用コネクタに接続します。

セットのスピーカの機能仕様

最大定格出力	1W + 1W
外形寸法	約78(W) × 120(D) × 180(H)mm(片側)
重量	スピーカ(右)約370g、スピーカ(左)約340g、 ACアダプタ約180g(ケーブル含む)

FAXモデムボード機能仕様

ATコマンドについては『サポートセンタ』をご覧ください。

● 機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインタフェース
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット - V.90 - K56flex - V.34 - V.32bis - V.32、V.22bis、V.22、V.21 - V.42LAPMおよびMNP4エラー訂正 - V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 - V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット - AT、Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング(DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

● FAX機能

交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM : 14,400/12,000/9,600/7,200bps DPSK : 4,800/2,400bps FSK : 300bps
送信レベル	-10 ~ -15dBm (出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド (CLASS1)

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

● データモデム機能

適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信：33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/ 14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 注 受信のみ：56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/ 48,000/46,667/46,000/45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/ 40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667/34,000/33,333/ 32,000/30,667/29,333/28,000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	TCM：56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/ 46,667/46,000/45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/ 38,000/37,333/36,000/34,667/34,000/33,600/33,333/32,000/31,200/ 30,667/29,333/28,800/28,000/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/ 14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM：9,600/7,200bps DPSK：4,800/2,400/1,200bps FSK：1,200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 (LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-10 ~ -15dBm (出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

● NCU機能

適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル (10/20PPS) トーンダイヤル (DTMF)
NCU形式	AA (自動発信 / 自動着信型) MA (手動発信 / 自動着信型) MM (手動発信 / 手動着信型) AM (自動発信 / 手動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド (CLASS1)

本機が使用しているリソース

本機は、次のようにリソースを使用しています(購入時の設定)。

 **チェック!** リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindowsの解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

割り込みレベル(IRQ)とDMAチャンネル

● 割り込みレベル(IRQ)

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空き)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空き)
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	FAXモデムボード/アクセラレータ/ACPI
10	USBインターフェイス/CardBus/ACPI
11	サウンド
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	IDEコントローラ (セカンダリ)

● DMAチャンネル

DMA	機能
#0	(空き)
#1	(空き)
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	(空き)
#4	DMAコントローラ
#5	(空き)
#6	(空き)
#7	(空き)

索引

英数字

121ware.com	52, 91, 94
3.5インチフロッピーディスクドライブ ...	3
ACPIモード	39
AC電源コネクタ	5
APMモード	39
BIOSセットアップメニュー	138
BUSYインジケータ	3
CapsLock	14
CardBus	68
CD/DVDプレーヤボタン	16
CD-R/RWドライブ	3, 31
DMAチャンネル	196
FAT16ファイルシステム	169
FAT32ファイルシステム	169
FAXモデムボード	194
FDISK	168
Fnキー	15
IEEE1394	65
Invalid system disk Replace the disk ...	111
IRQ	196
Microsoft Windows Millennium Startup Menu ...	109
MS-IME2000	18
NumLock	14
Nキーロールオーバー	21
PC-9800シリーズのキーボード	21
PCIスロット	6
PCIボード	79
PCM録音/再生機能	45
PCカード	68
PCカードイジェクトボタン	3
PCカードスロット	3
PS/2キーボードコネクタ	7
PS/2マウスコネクタ	14
SCSI ID	84
SCSIインターフェイス	83, 84
SCSIインターフェイスボード	85, 87
SCSI機器	86
SCSI機器接続ケーブル	84, 85
USBコネクタ	3, 7, 63
USB対応機器	63
Windows Me起動ディスク	108
Windowsキー	14

ア行

アース端子	5
アナログRGBコネクタ	7
アフターケア	133
アプリケーション	118
アプリケーションキー	14
音声出力端子	6
音声入力端子	6
音量ボリューム	46

カ行

解像度	22
ガイドラベル	17
拡張MS-DOS領域	168
カスタムモード ...	146, 161, 164, 167
かな入力	19
キーの名称	12
キーの役割	12
キーのロック	14
キーボード	12, 117
起動ディスク	97
基本MS-DOS領域	168
キャップスロックキーランプ	13
休止機能	41
休止状態	38
強制的に電源を切る方法	114
クリック	11
コンピュータウイルス	96, 129

サ行

再セットアップ	142
サウンド機能	45
サスペンド	39
システムインストールディスク ...	145
周辺機器	49, 121
周辺機器の取り外し	56
出力コネクタ	46
消磁	105
省電力機能	38, 126
譲渡	134
消耗品	133
消耗部品	133
シリアルコネクタ	6
垂直走査周波数	23
水平走査周波数	23
スキップセクタ	27
スキャンディスク	110
スクロールボタン	11
スタビライザ	4, 59
スタンバイ機能	42
スタンバイ状態	38
スピーカ	45, 194
スピーカケーブル	46
【スリープ】ボタン	18
セーフモード	107
増設RAMサブボード	74

タ行

ターミネータ	83, 85
ダブルクリック	11
通風孔	6, 7
ディストレイジェクトボタン ...	3
ディスプレイ	22
データ保護再セットアップモード ...	146, 157
デガウス	105
デジタル署名	56
電源コネクタ	46
電源スイッチ	2, 46
電源の入れ方	8
電源の切り方	9
電源ランプ	2, 40, 46
添付品	134
電話回線用モジュラーコネクタ ...	6
電話機用モジュラーコネクタ	6
盗難防止用ロック	5
ドライバ	55, 90
ドライブ文字	25
ドラッグ	11
トラブルチェックシート	99

ナ行

日本語入力	18
ニューメリックロックキーランプ	13

ハ行

ハードディスク	25, 87, 95
---------------	------------

ハードディスクアクセスランプ ...	3
ハードディスクの領域	167
廃棄	134
ハイバネーション	39
パスワード	112, 139
バックアップ	26, 96, 144
バックアップCD-ROM	145
パラレルコネクタ	6
表示色	22
標準再セットアップモード ...	146, 147
プラグ&プレイ	55
フリーズ	119
不良セクタ	27
プログラムの強制終了	113
フロッピーディスク	28
フロッピーディスクイジェクトボタン ...	4
フロッピーディスクドライブアクセスランプ ...	4
補修用性能部品	133
保守サービス	98, 133
ボリュームコントロール	47
ボリュームボタン	16
本機のお手入れ	188
本体機能仕様	191

マ行

マイクロホン端子	7
マウス	11, 116
マウスのクリーニング	189
右クリック	11
メール着信ランプ	13

メモリ 74

ラ行

ライトプロテクト 30

ライトプロテクトノッチ 30

リソース 91, 97, 120, 196

リソースの競合 91

リフレッシュレート 24

領域の削除 170

領域の作成 176

ルーフカバー 59, 61

レジューム 39

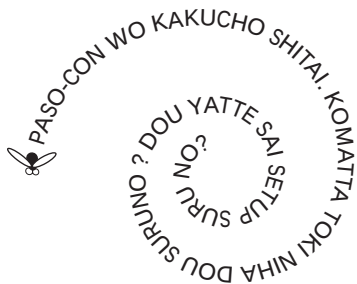
ローマ字入力 19

論理MS-DOSドライブ 169

ワ行

割り込みレベル 196

ワンタッチスタートボタン ... 16, 17



VALUESTAR

活用ガイド

初版 2001年5月

NEC

P

853-810336-019-A